

マネジメント研究科 マネジメント研究科 専門職学位課程 (2012年度入学)

※網掛けの科目については、本年度開講しません

<夜>

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■ベーシック科目	マネジメント総論 閉講		1	2	
		1年			
	経営戦略 高橋 秀直	2学期	1	2	1
		1年			
	マーケティング 山口 徹也	1学期	1	2	2
		1年			
	アカウンティング 任 章	1学期	1	2	3
		1年			
■アドバンスト科目	ファイナンス 武田 寛	2学期	1	2	4
		1年			
	人材マネジメント 鳥取部 真己	2学期	1	2	5
		1年			
	組織とリーダーシップ 鳥取部 真己	1学期	1	2	6
		1年			
	企業の社会的責任と倫理 齋藤 貞之	1学期	1	2	7
		1年			
■アドバンスト科目	公共経済学 閉講		1	2	
		1年			
	マーケティング戦略 岩熊 正道	集中	1	2	8
		1年			
	知識マネジメント 越出 均	1学期	1	2	9
		1年			
	パブリック・マネジメント 永津 美裕	1学期	1	2	10
		1年			
■アドバンスト科目	財務会計 任 章	2学期	2	2	11
		2年			
	地域産業 柳井 雅人	2学期	1	2	12
	1年				
■アドバンスト科目	国際ビジネス・スキル アダム・ヘイルズ	1学期	1	2	13
		1年			

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
		備考			
■アドバンスト科目	ロジスティックス 藤村 幸弘	集中	2	2	14
		2年			
	問題解決スキル 平山 克己	1学期	1	2	15
		1年			
	チーム・マネジメント 山口 裕幸	集中	2	2	16
		2年			
	環境ビジネス 松永 裕己	1学期	1	2	17
		1年			
	国際経営 王 効平	1学期	1	2	18
		1年			
地域づくり総論 城戸 宏史	1学期	2	2	19	
	2年				
会社法 高橋 衛	1学期	2	2	20	
	2年				
管理会計 梅澤 俊浩	1学期	2	2	21	
	2年				
■エグゼクティブ科目	ベンチャー・ビジネス 越出 均	2学期	1	2	22
		1年			
	戦略的提携と事業創造 森永 泰正	2学期	2	2	23
		2年			
	フィナンシャル・インベストメント 武田 寛	1学期	2	2	24
		2年			
	中国ビジネス 高橋 基人	1学期	2	2	25
		2年			
環境政策 垣迫 裕俊	1学期	2	2	26	
	2年				
医療マネジメント 小野村 健太郎	1学期	2	2	27	
	2年				
福祉マネジメント 今村 浩司	1学期	2	2	28	
	2年				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■エグゼクティブ科目	ビジネス中国語	2学期	2	2	29
	松下 丹紅	2年			
	自治体政策	2学期	2	2	30
	南 博	2年			
	モノづくり競争力の強化	2学期	1	2	31
	雨澤 政材	1年			
	ソーシャル・ビジネス	1学期	1	2	32
	松永 裕己	1年			
	医療経済	2学期	1	2	33
	舟谷 文男	1年			
	社会保障	1学期	1	2	34
	鬼崎 信好	1年			
	イノベーション・マネジメント		2	2	
	閉講	2年			
	産学連携と事業創造	1学期	2	2	35
	城戸 宏史	2年			
	ホスピタリティ・マネジメント	2学期	2	2	36
	田村 馨 他	2年			
	公的プロジェクト・マネジメント	2学期	2	2	37
	網岡 健司	2年			
NPO / NGO実践論	2学期	2	2	38	
奥田 知志	2年				
経営学特講	集中	2	2	39	
王 効平	2年				
基礎中国語	1学期	1	2	40	
王 占華	1年				
アジア型経営	1学期	1	2	41	
王 効平 他	1年				
自治体経営	2学期	2	2	42	
永津 美裕	2年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■エグゼクティブ科目	企業法務とリスクマネジメント 吉浦 初音	2学期	1	2	43
		1年			
■プロジェクト研究科目	グループ・ディスカッションI 王 効平	1学期	1	2	44
		1年			
	グループ・ディスカッションI 鳥取部 真己	1学期	1	2	45
		1年			
	グループ・ディスカッションI 城戸 宏史	1学期	1	2	46
		1年			
	グループ・ディスカッションI 越出 均	1学期	1	2	47
		1年			
	グループ・ディスカッションI 高橋 秀直	1学期	1	2	48
		1年			
	グループ・ディスカッションI 武田 寛	1学期	1	2	49
		1年			
	グループ・ディスカッションI 永津 美裕	1学期	1	2	50
		1年			
	グループ・ディスカッションI 任 章	1学期	1	2	51
		1年			
	グループ・ディスカッションI 松永 裕己	1学期	1	2	52
		1年			
	グループ・ディスカッションII 王 効平	2学期	1	2	53
		1年			
グループ・ディスカッションII 鳥取部 真己	2学期	1	2	54	
	1年				
グループ・ディスカッションII 城戸 宏史	2学期	1	2	55	
	1年				
グループ・ディスカッションII 越出 均	2学期	1	2	56	
	1年				
グループ・ディスカッションII 高橋 秀直	2学期	1	2	57	
	1年				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■プロジェクト研究科目	グループ・ディスカッションII	2学期	1	2	58
	武田 寛	1年			
	グループ・ディスカッションII	2学期	1	2	59
	永津 美裕	1年			
	グループ・ディスカッションII	2学期	1	2	60
	任 章	1年			
	グループ・ディスカッションII	2学期	1	2	61
	松永 裕己	1年			
	プロジェクト研究I	1学期	2	2	62
	王 効平	2年			
	プロジェクト研究I	1学期	2	2	63
	森永 泰正	2年			
	プロジェクト研究I	1学期	2	2	64
	山口 徹也	2年			
	プロジェクト研究I	1学期	2	2	65
	鳥取部 真己	2年			
	プロジェクト研究I	1学期	2	2	66
	城戸 宏史	2年			
	プロジェクト研究I	1学期	2	2	67
	越出 均	2年			
プロジェクト研究I	1学期	2	2	68	
高橋 秀直	2年				
プロジェクト研究I	1学期	2	2	69	
武田 寛	2年				
プロジェクト研究I	1学期	2	2	70	
永津 美裕	2年				
プロジェクト研究I	1学期	2	2	71	
任 章	2年				
プロジェクト研究I	1学期	2	2	72	
松永 裕己	2年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■プロジェクト研究科目	プロジェクト研究I 吉浦 初音	1学期	2	2	73
		2年			
	プロジェクト研究II 王 効平	2学期	2	2	74
		2年			
	プロジェクト研究II 森永 泰正	2学期	2	2	75
		2年			
	プロジェクト研究II 山口 徹也	2学期	2	2	76
		2年			
	プロジェクト研究II 鳥取部 真己	2学期	2	2	77
		2年			
	プロジェクト研究II 城戸 宏史	2学期	2	2	78
		2年			
	プロジェクト研究II 越出 均	2学期	2	2	79
		2年			
	プロジェクト研究II 高橋 秀直	2学期	2	2	80
		2年			
プロジェクト研究II 武田 寛	2学期	2	2	81	
	2年				
プロジェクト研究II 永津 美裕	2学期	2	2	82	
	2年				
プロジェクト研究II 任 章	2学期	2	2	83	
	2年				
プロジェクト研究II 松永 裕己	2学期	2	2	84	
	2年				
プロジェクト研究II 吉浦 初音	2学期	2	2	85	
	2年				

経営戦略【夜】

担当者名 /Instructor 高橋 秀直 / マネジメント研究科 専門職学位課程

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	理論知識	◎ 経営戦略の理解に必要な基礎的な専門知識を修得する。
	実践知識	
技能	分析解決技能	○ 経営戦略に関わる課題を発見・分析し、解決策を考えることができる。
	実務技能	
	新規事業技能	
態度	倫理観態度	
	企業変革態度	○ 経営戦略の知識を用いて、企業経営に関する高い見識と変革する力を持ち続けることができる。
	地域リーダー態度	○ 経営戦略の知識を用いて、地域に関する諸問題に積極的に取り組むことができる。
	国際協調態度	

※ ◎: 強く関連 ○: 関連 △: やや関連

※ 2013年度以降入学生が対象です。

経営戦略

授業の概要 /Course Description

経営戦略の理論と技法、その応用分析を中心的な内容とした講義を行う。理論とデータ加工によって、分析的に思考するスキルを高めながら戦略的思考力を高めることが本講義の目的である。本講義の到達目標は、経営戦略に関する基本的な理論や考え方を習得し、それらを用いて自分なりの視点から経営戦略を策定することができるようになることである。なお、講義の前半に事業戦略を、後半に全社戦略を扱う。

授業は、講義を基本とするが、事前にリーディングや戦略分析に関する小レポートなどを提出してもらい、受講生と討議する時間を設ける予定である。

教科書 /Textbooks

特に、指定せず、適宜資料を配布する。

(なお、ケースを用いる場合、そのケース代金(1冊千数百円)が追加的に必要になる場合があるので注意されたい)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

奥村昭博『経営戦略』日経文庫

石井淳蔵・奥村昭博・加護野忠男・野中郁次郎『経営戦略論(新版)』有斐閣

大滝精一・金井一頼・山田英夫・岩田智『経営戦略: 論理性・創造性と社会性の追求』有斐閣

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ①オリエンテーション
- ②戦略とは何か?【定義, 戦略的な思考法】
- ③戦略とは何か?【戦略の担い手, ドメイン】
- ④事業戦略(業界の構造分析)【Five-Forces:全体像, 既存企業間の対抗度】
- ⑤事業戦略(業界の構造分析)【新規参入の脅威, 売り手と買い手の交渉力】
- ⑥事業戦略(業界の構造分析)【代替品の脅威, まとめ】
- ⑦事業戦略(ゲーム論的な考え方)【価値相関図】
- ⑧事業戦略(ゲーム論的な考え方)【戦略的行動】
- ⑨事業戦略(企業の内部分析)【価値連鎖, 活動マップ, RBV】
- ⑩事業戦略(企業の内部分析)【学習アプローチ】
- ⑪全社戦略(垂直統合)【取引コスト】
- ⑫全社戦略(多角化の論理と種類)【多角化のタイプ】
- ⑬全社戦略(PPMとその応用)【PPM】
- ⑭全社戦略(戦略と組織)【組織は戦略に従う】
- ⑮まとめ

なお、授業の内容は、進捗状況や受講生の興味等に応じて、変更する可能性がある

経営戦略【夜】

成績評価の方法 /Assessment Method

発言など授業への寄与度30%、小レポート30%、期末レポート40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

経営に関する知識があることが好ましいが、前提とはしない。
予習や復習には、かなりの時間が必要となる。
詳細は初回の講義にアナウンスする。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

マーケティング【夜】

担当者名 /Instructor 山口 徹也 / マネジメント研究科 専門職学位課程

履修年次 /Year 1年次
 単位 /Credits 2単位
 学期 /Semester 1学期
 授業形態 /Class Format 講義
 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	理論知識	◎ マーケティングに関する基礎的理論を修得する。
	実践知識	
技能	分析解決技能	○ マーケティング上の課題を適切に把握し分析する力を習得する。
	実務技能	
	新規事業技能	
態度	倫理観態度	
	企業変革態度	○ 企業経営に関して、マーケティングの観点から変革する力を身につける。
	地域リーダー態度	○ 地域のリーダーとしてマーケティングに関する諸問題に積極的に取り組むことができる。
	国際協調態度	

※ ◎: 強く関連 ○: 関連 △: やや関連

※ 2013年度以降入学生が対象です。

マーケティング

授業の概要 /Course Description

ビジネスが「顧客」から「カネ」を受け取るにより成り立っているものであるため、「マーケティング」と「アカウントティング」は皆さんが身につけておかなければならない不可欠な要素と言えます。本講座は、実務経験があるものの、基礎理論的な面からマーケティングの全体像を俯瞰したいビジネスパーソンを想定しています。

また、フィリップ・コトラーやピーター・ドラッカー等の著名な学者による普遍的な枠組みに照らし、身近な事例を参考に臨床ケーススタディを行います。さらに、公認会計士・税理士の立場から事業計画数値、会計との関連性も議論します。

教科書 /Textbooks

講義ごとにレジュメを紙面配布（または、電子データ提供）いたします。
 繰り返し使用するためファイリング文具の実費を頂戴する場合があります。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

次の文献を受講の前にご一読いただくと理解がより深まります。
 安原智樹『マーケティングの基本』日本実業出版社 2009年 1,200円

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ①イントロダクション：マーケティング講座自体のマーケティング
- ②ケーススタディ：成功企業のイノベーションの視点からビジネスモデルをまとめる作業
- ③基礎理論（1 / 3）：著名文献を要約理解【Philip Kotler】【Peter Ferdinand Drucker】
- ④基礎理論（2 / 3）：フレームワークと用語の理解【4P】【3C】【SWOT】【STP】
- ⑤基礎理論（3 / 3）：基本戦略と戦術【ブランディング】【CS】【BtoB】【BtoC】
- ⑥データ分析、仮説構築【フェルミ推定】【市場調査】【回帰分析】
- ⑦財務会計分析、投資意思決定【ROI】【事業評価】【広告宣伝費】【価格決定】
- ⑧バリューチェーンと管理会計【原価計算】【評価システム】【SPA】
- ⑨ケーススタディ：住宅、保険等国内上場企業の環境分析【有価証券報告書】
- ⑩ケーススタディ：Amazon創業者Jeff Bezosの戦略他
- ⑪ケーススタディ：地元の中小企業の事例
- ⑫競争戦略：ストーリー、コンセプトの組み立て方を理解する
- ⑬広告戦略：メディア、ブランディングの活用手法を検討する【コピー】【AIDMA】
- ⑭グループプレゼン、A3一枚のエクゼクティブサマリーで起案する【事業計画】【稟議】
- ⑮起案の相互評価、講評、全回の総括

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート..... 50%、ディスカッション..... 30%、講義内総合評価..... 20%

マーケティング【夜】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

電卓、PC等計算機器の持参をお願いするコマがあります。
隔週2コマ連続のスケジュールです。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

マーケティング理論の守備範囲は、ビジネスのほとんど全部という程、広いものです。
知ったふりよりも、脳や手が自然に動く活かせる武器を身につけられることを目指します。

キーワード /Keywords

アカウンティング【夜】

担当者名 /Instructor 任 章 / NIN Akira / マネジメント研究科 専門職学位課程

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	理論知識	◎ 会計業務に関する実践的な知識を修得し課題に取り組むことができる。
	実践知識	○ 理論的な知識を実践可能な知識に落とし込むことができる。
技能	分析解決技能	○ 課題に対する観察能力と定量的な分析能力を習得している。
	実務技能	○ 実務的な簿記会計の、初歩的な技能を身につけることができる。
	新規事業技能	
態度	倫理観態度	○ 経営倫理なかつく会計倫理の観点を得、粉飾のリスクを知る。
	企業変革態度	○ 会計処理とシステムの効率化、有効化促進のための視点を得る。
	地域リーダー態度	
	国際協調態度	

※ ◎: 強く関連 ○: 関連 △: やや関連

※ 2013年度以降入学生が対象です。

アカウンティング

授業の概要 /Course Description

アカウンティングはビジネスの世界の共通言語である。本講座にあつてはビジネススクールの履修者に期待される水準の財務会計の基礎知識を学ぶ機会が提供される。まずは大学学部における財務諸表論と重なりあふ論点を確認してゆくが、その後は財務諸表分析、さらには企業のディスクロージャー戦略にまで考察を加えてゆく。講義コンテンツは、特に英文(カタカナの)会計用語のリテラシーがある程度まで得られるよう、デザインされている。本講座の到達目標は、受講後、修了者が、企業の財務報告とその制度に実際に興味を持ち、必要に応じ、財務諸表に示された報告数値の意味を解釈、分析できるようになることである。

教科書 /Textbooks

『アカウンティングと財務諸表分析』(第7版、2014年3月刷)
(初回の教室にて無償配布)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

ロバート・アンソニー / レスリー・パウルマン著 西山茂監訳(2007年)『アンソニー会計学入門』東洋経済新報社(但し購入は任意)

アカウンティング【夜】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

主として以下のコンテンツを、各々モジュールとして積み上げて行く（但し、プレゼンテーションの時間をとる等の事情により、講義順は大きく変わることがある）。

①オリエンテーション：本講座の領域と目的、課題について。

【オリエンテーション】

②企業とアカウンティング：会計の役割と機能について。

【会計の役割と機能】

③GAAP とは何か：US-SFAS とIFRS について。

【GAAP】

④バランスシートの機能について。

【B/S】

⑤P/L の機能について。

【P/L】

⑥キャッシュフロー計算書の作成方法とその機能について。

【キャッシュフロー】

⑦簿記とアカウンティング・サイクルの一巡について。

【アカウンティング・サイクル】

⑧決算修正：アクルーアル処理とその会計倫理上の限界について。

【アクルーアル】

⑨ディスクロージャー：脚注情報とMD&A について。

【ディスクロージャー】

⑩情報信頼性の担保方法：監査報告書について。

【監査】

⑪財務諸表分析の基礎的アプローチ方法について。

【財務諸表分析】

⑫年次報告とIR について。

【アニュアルレポート】

⑬隣接領域と意思決定会計への展望について。

【意思決定】

⑭MBA アカウンティングのWrap-Up.

【MBA】

⑯アドバンスト財務会計への展望

【財務会計】

...以上のモジュールを、受講者の意欲とニーズを量りつつ、ウェイト配分を微調整しながら講義する。

成績評価の方法 /Assessment Method

課題レポートそのものの質（15%程度）、プレゼンテーションの積極性やディスカッションに際しての貢献度（15%程度）、期末試験の成績（70%程度）、を適宜ウエイト付けし、総合的に判断します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

学部生が学ぶ簿記論の授業等とはアプローチが全く異なるので、特に簿記会計の知識経験がなくとも、授業内容は十分に理解できます。その他、必要なことはその都度、教室にて事前に連絡します。

配布プリント等の教材は、各回、毎回教室に持参してきてください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

教員は一方通行の講義をするのではなく、双方向のコミュニケーションをとりたいと考えています。そのためにも、履修者がテーマを選んで自発的にプレゼンテーションをする機会を設けたいと考えています。

キーワード /Keywords

上記の中でも特に、簿記、GAAP、IFRS、B/S、P/L、キャッシュフロー計算書。

ファイナンス【夜】

担当者名 /Instructor 武田 寛 / Hiroshi Takeda / マネジメント研究科 専門職学位課程

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	理論知識	◎	ファイナンスに関する専門知識を修得している。
	実践知識		
技能	分析解決技能	○	ファイナンスに関する定性的、定量的な分析能力を習得している。
	実務技能		
	新規事業技能		
態度	倫理観態度		
	企業変革態度	○	企業経営に関して、ファイナンスの観点から、変革する力を持っている。
	地域リーダー態度	○	地域のリーダーとしてファイナンスに関する諸問題に積極的に取り組むことができる。
	国際協調態度		

※ ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

※ 2013年度以降入学生が対象です。

ファイナンス

授業の概要 /Course Description

①～⑥では、ファイナンスとは何かを学び、金融システムを概観し、ファイナンシャル・プランニングの意思決定について学ぶ。⑦～⑫では、ファイナンスに関する意思決定を家計や企業が行う際の応用について学ぶ。⑬～⑭では、コーポレートファイナンスのさまざまな問題（資本計画、資本構成など）についてさらに詳しく学ぶ。
到達目標は以下のとおり。①ファイナンスの基礎知識を身につけ、ファイナンシャル・プランニングの意思決定を理解する、②ファイナンス理論を理解し、企業や家計についてのファイナンスの意思決定ができるようになる、③コーポレートファイナンスの問題についてファイナンスの分析ができるようになる。

教科書 /Textbooks

ボデイ & マートン & クリートン 著、大前恵一朗 訳、(2011) 『現代ファイナンス論 原著第2版』ピアソン

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○ブリーリー & マイヤーズ & アレン 著、藤井真理子・国枝繁樹 (監訳) (2007) 『コーポレート・ファイナンス (第8版)』日経BP社
○砂川 & 川北 & 杉浦 著 (2008) 『日本企業のコーポレートファイナンス』日本経済新聞出版社ほか

ファイナンス【夜】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ①ファイナンスとは何か(1) イントロダクション
【ファイナンスの定義】【ファイナンスを学ぶ目的】【家計の意思決定】【企業の意思決定】【企業組織の形態】
- ②ファイナンスとは何か(2) 企業経営の目標
【所有と経営の分離】【企業経営の目標】【企業買収】【企業内ファイナンス・スペシャリストの役割】
- ③金融システム(1)
【金融システム】【資金循環】【金融仲介の機能】【金融の発達と「神の見えざる手」】【金融市場】
- ④金融システム(2)
【市場利子率】【金融仲介機関】【金融インフラと規制】【政府・準公的機関】
- ⑤ファイナンシャル・プランニング(1)
【ファイナンシャル・プランニングのプロセス】【ファイナンシャル・プランニング・モデルの設計】
- ⑥ファイナンシャル・プランニング(2)
【成長と外部資金調達との必要性】【運転資本管理】【流動性と現金計画】
- ⑦貨幣の時間的価値(1)
【複利計算】【現在価値と割引】【割引現在価値による意思決定】【複数のキャッシュフロー】
- ⑧貨幣の時間的価値(2)
【年金(アニュイティ)】【外国為替レートと貨幣の時間的価値】【インフレーションとDCF分析】【税金と投資の意思決定】
- ⑨ライフサイクル・ファイナンシャル・プランニング(1)
【ライフサイクル・モデルにおける貯蓄】
- ⑩ライフサイクル・ファイナンシャル・プランニング(2)
【社会保障】【税法上の特典の利用】【大学院への進学】【借りるべきか、買うべきか】
- ⑪資本計画の基礎(1)
【プロジェクト分析】【NPV投資ルール】【プロジェクトのキャッシュフロー予測】【資本コスト】
- ⑫資本計画の基礎(2)
【感応度分析】【コスト削減プロジェクトの分析】【異なった期間のプロジェクト】【相互に排他的なプロジェクトのランキング】
- ⑬資本構成(1)
【内部資金調達と外部資金調達】【株式による資金調達】【負債による資金調達】【資本構成の中立性】
- ⑭資本構成(2)
【コストの削減】【利益相反】【ファイナンスに関する意思決定の実際】【レバレッジされた投資の評価】
- ⑮まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

クラスへの貢献度 30パーセント
課題の提出 70パーセント

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

日本経済新聞を購読することが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

人材マネジメント【夜】

担当者名 /Instructor 鳥取部 真己 / マネジメント研究科 専門職学位課程

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度

/Year of School Entrance

2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
				○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

企業戦略達成に向けた人材マネジメントの実践の基礎を学ぶ。企業の人材マネジメントを構成する各機能にまつわる理解を基礎に、それらを結合して企業の人材マネジメントシステムを作り上げるための視点の学習を進めていく。各講義回では、ミニ・ケースや雑誌・新聞記事を読み、あるいは映像を見て事例分析やケース・ディスカッションを行い、人材マネジメントにまつわる基礎的な諸理論・枠組みの理解と実践力の向上を図る。本講義の到達目標は、人材マネジメントを実践するうえでの基礎的な知識を習得することである。

教科書 /Textbooks

適宜、資料を配布する。なお、ケースを用いる場合、そのケース代金(1冊千数百円)が追加的に必要になる場合があるので注意されたい。なお、企業の人材マネジメントについての初学者は、参考書のいずれかの通読を強く推奨する。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

守島基博『人材マネジメント入門』日経文庫,2004年。
高橋俊介『人材マネジメント論 新版』東洋経済新報社,2006年。
フェファア『人材を活かす企業』翔泳社,2010年。
今野浩一郎&佐藤博樹『人事管理入門<第2版>』日本経済新聞社,2009年。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- #1 戦略と人材マネジメント(1)【SHRM、戦略人材】
- #2 戦略と人材マネジメント(2)【人材マネジメントポリシー、公平性】
- #3 フロー・マネジメント(1)【人材像、人材ポートフォリオ】
- #4 フロー・マネジメント(2)【採用マネジメント】
- #5 人材育成(1)【OJT、Off-JT、知的熟練】
- #6 人材育成(2)【ジョブ・ローテーション、サクセッション・プランニング】
- #7 評価・報酬マネジメント(1)【能力主義、成果主義】
- #8 評価・報酬マネジメント(2)【MBO、ピア・レビュー】
- #9 フロー・マネジメント(3)【定年延長、アウトブレースメント】
- #10 労使関係【集团的労使関係、個別的労使関係、訴訟】
- #11 戦略的な人材マネジメント(1)【SHRM、企業変革】
- #12 戦略的な人材マネジメント(2)【SHRM、人材像の転換とHRMシステム】
- #13 戦略的な人材マネジメント(3)【SHRM、HRMシステム評価】
- #14 戦略的な人材マネジメント(4)【SHRM、HRMシステム設計】
- #15 リテンション・マネジメント【採用リテンション、社会資本】

成績評価の方法 /Assessment Method

発言など授業への寄与度40%、小レポート20%、期末レポート40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

予習や復習にはかなりの時間が必要となる。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

組織とリーダーシップ【夜】

担当者名 /Instructor 鳥取部 真己 / マネジメント研究科 専門職学位課程

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
								○	○	○		

授業の概要 /Course Description

本講義では、組織とイノベーションにまつわる理論・枠組みを学ぶ。コースの前半ではミクロ組織論を中心とした理論基盤の学習を行う。特に、ミクロ組織分析については、統計的な分析手法の基礎を実習する。コース後半では、マクロ組織論と、企業の変革や新商品創出にまつわるイノベーション・マネジメントについての学習を行う。各講義回では、ミニ・ケースや雑誌・新聞記事を読み、あるいは映像を見て事例分析やケース・ディスカッションを行い、基礎的な諸理論の理解と実践力の向上を図る。
本講義の到達目標は、組織マネジメントとイノベーション・マネジメントを実践するうえでの基礎的な知識を習得することである。

教科書 /Textbooks

適宜、資料を配布するが、ロビンズ『組織行動のマネジメント』を教科書に準じた参考書として扱う。なお、ケースを用いる場合、そのケース代金（1冊千数百円）が追加的に必要になる場合があるので注意されたい。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- ・ロビンズ著,高木晴夫監訳『組織行動のマネジメント(新版)』ダイヤモンド社,2009年.
- ・金井壽宏『経営組織』日経文庫,1999年.
- ・金井壽宏『リーダーシップ入門』日経文庫,2005年.
- ・沼上幹『組織デザイン』日経文庫,2004.
- ・延岡健太郎『MOT"技術経営"入門』日本経済新聞社, 2006年.
- ・近能善範・高井文子『イノベーション・マネジメント』新世社,2011年.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 個人と集団 (1) 【グループダイナミクス】
- 2回 個人と集団 (2) 【少数者の影響力】
- 3回 個人の特性 (1) 【性格特性】 【Big5】
- 4回 個人の特性 (2) 【適性検査】
- 5回 モチベーション (1) 【内容説、欲求階層説、二要因説】
- 6回 モチベーション (2) 【期待理論、目標設定理論】
- 7回 リーダーシップ (1) 【偉人説、基本二次元】
- 8回 リーダーシップ (2) 【変革型リーダーシップ】
- 9回 ミクロ組織分析 (1) 【相関分析、多変量解析】
- 10回 ミクロ組織分析 (2) 【因子分析、重回帰分析】
- 11回 マクロ組織 (1) 【機能別組織,事業部制】
- 12回 マクロ組織 (2) 【未来型組織】
- 13回 イノベーション・マネジメント (1) 【組織能力、コア技術】
- 14回 イノベーション・マネジメント (2) 【創造性】
- 15回 ストレスマネジメント 【ソーシャル・サポート】

成績評価の方法 /Assessment Method

発言など授業への寄与度40%、小レポート20%、期末レポート40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

予習や復習にはかなりの時間が必要となる。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

企業の社会的責任と倫理【夜】

担当者名 齋藤 貞之 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度

/Year of School Entrance

2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
				○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

「経営」と「倫理」とは従来、矛盾・対立するものと捉えられてきた。これは古来から問いかけてきた人間行為のジレンマを示してきた。果たして、このジレンマは、現代のマネジメント(経営)に携わる人間にとって、依然として二者択一の課題であるのか、あるいは両立するものなのか。この講義では、このジレンマを解き明かすことが、現代経営の最大の課題であることを、理論と実践を通してとらえることを目的とする。

マネジメントの内実は、営利企業であれ、非営利組織であれ、その本質は共通している。講義をとおしてMBA資格を取得することは、プロフェッショナルとしての職業倫理を身につけることが前提であることを学習する。プロとしての自覚である。講義はディベートを中心とする。評論家ないしはバイ・スタンダーとしてではなく、実践する主体として一人称で語りあえる講義にしたい。

教科書 /Textbooks

その都度、指定

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

J.E.Poat, A.T.Lawrence and J.Weber, Business and Society: Corporate Strategy, Public Policy, Ethics, 2002 (松野・小坂・谷本訳『企業と社会: 企業戦略・公共政策・倫理(上・下)』、ミネルヴァ書房、2012年)

P.F. Drucher, Management: Tasks, Responsibilities, Practices, 1973
(上田淳生訳『マネジメント:課題・責任・実践』、ダイヤモンド社、2008年)

L.I. Nash, Good Intentions Aside: A Manager's Guide to Resolving Ethical Problems, 1990 (小林俊治・山口善昭訳『アメリカの企業倫理: 企業行動基準の再構築』、日本生産性本部、1992年)

T.R. Piper, M.C. Gentile and S.d. Parks, Can Ethics Be Taught?: Perspectives, Challenges, and Approaches at Harvard Business School, 1993 (小林俊治・山口善昭訳「ハーバードで教える企業倫理」、生産性出版、1995年)

D. Stewart, Business Ethics, 1996 (企業倫理研究グループ訳『企業倫理』、白桃書房、2001年)

高 巖『「誠実さ:インテグリティ」を貫く経営』(日本経済新聞社、2006年)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ① 経営倫理とは何か: 「イントロダクション」 【倫理、規範、功利主義】
- ② 今、なぜコーポレート・ガバナンスなのか: その1「会社は誰のものか」
【会社法改正、所有権、エージェンシー理論】
- ③ 今、なぜコーポレート・ガバナンスなのか: その2「ストックホルダーとステークホルダー」 【アングロサクソン型、日本型、ライン型】
- ④ 組織・企業と社会: その1「経営道を築いた人々」
【澁澤栄一、ヘンリー・フォード、松下幸之助、利潤動機と奉仕動機】
- ⑤ 組織・企業と社会: その2「組織の制度化: 社会的機関としての組織を考える」
【組織の制度的理解、器官(機関)としての組織、ドロッカー】
- ⑥ 組織の中での具体的倫理的行動: その1「公的セクターにおける倫理遵守」
【実践事例研究】
- ⑦ 組織の中での具体的倫理的行動: その2「私的セクターにおける倫理遵守: 内部統制」
【実践事例研究】
- ⑧ コーポレート・シチズンシップとCSR: その1「企業の社会的責任とは何か」
【スミス社裁判、権限と責任、ミルトン・フリードマン、レビット】
- ⑨ コーポレート・シチズンシップとCSR: その2「動く標的としてのCSR」
【nbless oblige, enlightend self-interest, philanthropy, sustainability】
- ⑩ コーポレート・シチズンシップとCSR: その3「CSRの実践」
【公認会計士に聞くCSRの実践事例研究】
- ⑪ リーダーの資質とインテグリティ: その1「リーダーの資質とは何か」
【リーダーとマネジャー、マネジメント能力の3要素、インテグリティ】
- ⑫ リーダーの資質とインテグリティ: その2「事例研究から学ぶ」
【エンロン、ワールド・コム、オリンパス、大王製紙】
- ⑬ 危機の時代における経営学(マネジメント)の責任: 総合科学としての経営学の課題
【理論と技術と規範、3.11と経営学、経営学の主流と主流】
- ⑭ 職業倫理とプロフェッショナリズム
【プロフェッション、契約、信認】
- ⑮ 「経営倫理」に関する討議とまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

各テーマについてのディスカッションへの参加度・貢献度を6割、レポートの内容を4割として評価する。

企業の社会的責任と倫理 【夜】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

必要があればその都度連絡します。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

マーケティング戦略【夜】

担当者名 岩熊 正道 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 集中 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○	○	○

対象学科 【選択】 マネジメント研究科 専門職学位課程
/Department

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	理論知識	
	実践知識	○ 実践的なマーケティング活動を理解し、使いこなすための知識を習得する。
技能	分析解決技能	
	実務技能	◎ 課題に応じたマーケティング戦略を構築することができる力を修得する。
	新規事業技能	
態度	倫理観態度	
	企業変革態度	○ 経営上の課題を発見し、マーケティング活動によって解決する力を修得する。
	地域リーダー態度	
	国際協調態度	

※ ◎: 強く関連 ○: 関連 △: やや関連

※ 2013年度以降入学生が対象です。

マーケティング戦略

授業の概要 /Course Description

「マーケティング戦略」は経営戦略の中心を占めており、組織の理念・目的、トップの哲学、人生観、世界観によって規定され、環境への適応が強く求められるものと認識している。受講済みのベーシック科目「マーケティング」の知識を前提に、個別組織（企業、非営利法人や自治体）のユニークなマーケティング戦略事例を交えて議論していく。FACo事業（クールジャパンをビジネスに）の事例を紹介し、「常若（とこわか）」を意識した新しいマーケティングを学習する。

集中講義による開講であるため、90分・15コマの講義を各コマ自己完結の形ではなく、以下4つの部分に区切って進めていく：①基本的枠組み、②自らの提案、③企業・自治体の事例紹介、④FACoの紹介。講義の進行に当たっては、受講者との討論方式を一部取り入れる予定。

教科書 /Textbooks

資料を配布する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特になし

マーケティング戦略【夜】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ① メディア（報道放送業）と「マーケティング」との接点（自己紹介を兼ねて）
【メディアにとっての市場】【メディア事業部の業務内容】【TVマーケティング】【メディア営業】
- ② マーケティング戦略の基本的枠組み
【セグメンテーション】【ターゲティング】【ポジショニング】【マーケティング・ミックス】
- ③ 戦略立案に用いられる代表的な技法
【SWOT分析】【3C】【4P】【知識と情報の違い】ほか
- ④ マーケティング（戦略）の成否と上層経営管理職のあり方
【理念・哲学】【人生観・世界観】【情熱・拘り】
- ⑤ 「常若」、新しいマーケティングI
【時流・時代の変化への順応】【感情と理性】【リアルとヴァーチャル】【創造力と妄想力】
- ⑥ 「常若」、新しいマーケティングII
【企画力、プロデュース力】【無形から有形にする】【プレゼンテーション力】
- ⑦ 元気企業の事例学習I：A社
【B to B】【グローバル範囲に及ぶSCM】
- ⑧ 元気企業の事例学習II：B社
【B to C】
- ⑨ 元気企業の事例学習III：C社
【B to B to C、繋げる】【元気・健康・美をビジネスに】
- ⑩ 地方都市のブランディング戦略I
【福岡市の取り組み→アジアのリーダー都市?!】
- ⑪ 地方都市のブランディング戦略II
【北九州市の売り→世界の環境首都?!】
- ⑫ FACo事業における「マーケティング」I
【クールジャパンをビジネスに】【協賛者開拓】
- ⑬ FACo事業における「マーケティング」II
【アジアを代表するコレクションへ】【日本のコンテンツでアジアへ】
- ⑭ すべてのHOWはWHYのために
【WHY国家日本を目指す】
- ⑮ 総合討論

成績評価の方法 /Assessment Method

課題レポート50%、討論への参加度・貢献度50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

未配布の放映映像を撮影・録音することをご遠慮ください

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業中の質問を歓迎します

キーワード /Keywords

知識マネジメント【夜】

担当者名 越出 均 / マネジメント研究科 専門職学位課程
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	理論知識	◎	知識変換モデルを修得する。
	実践知識	○	「知識共有と創造」に関する場の設計を理解する。
技能	分析解決技能	○	場の動態分析と活性化スキルを習得する。
	実務技能		
	新規事業技能		
態度	倫理観態度		
	企業変革態度	○	自社における知識創造経営の実践を実現する力を身につける。
	地域リーダー態度		
	国際協調態度		

※ ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

※ 2013年度以降入学生が対象です。

知識マネジメント

授業の概要 /Course Description

本講義は知識の共有・活用を組織的に展開するナレッジマネジメントと共に、知識をイノベーションの源泉とする知識創造について検討を加え、知識社会の経営、管理について習得することを目指す。有益な知識を提供し合い、相互に活用することで知識生産性の向上を志向するマネジメントを検討しながら、他方ではイノベーションに必要な新しい知識の創造についても取り上げ、新規事業やビジネスモデルの創出、製品・技術の開発などに不可欠な「場」の議論、ワークスタイルの分析・設計などを通して知識経営の実践力を高め、知識社会のリーダー像を明らかにする。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

越出均『ナレッジ・クリエイター』、創成社
 國領・野中・片岡『ネットワーク社会の知識経営』、NTT出版
 野中・竹内『知識創造企業』、東洋経済新報社

知識マネジメント【夜】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ① 知識社会の到来
【収穫逡増のプラットフォーム】
- ② 知識ネットワーク
【企業の実践コミュニティ】
- ③ 知識経営の基礎
【知識マネジメントの要諦】
- ④ 知識創造経営
【SECIモデル】
- ⑤ 知識経営の実際
【ゲストに学ぶ知識経営】
- ⑥ 知識イノベーション
【異なる知のマネジメント】
- ⑦ 知のコラボレーション
【顧客とのリレーションシップと価値創出】
- ⑧ 失敗の「知」
【体験的学習の生かし方】
- ⑨ 「知」の伝承
【場の共有化と技能習得】
- ⑩ 「知」のデジタル化
【技術思考による業務改革】
- ⑪ 営業のナレッジ共有とスキルアップ
【可視化のマネジメント】
- ⑫ 知識社会のリーダーシップ
【CKOの役割】
- ⑬ 専門的知識
【デザイナーと開発者のマネジメント】
- ⑭ 地域の「知」をマネジメントする
【商店街・地場産業の集積知、知的触発】
- ⑮ 自社における知識ビジネスと知識経営についての考察、発表

成績評価の方法 /Assessment Method

ディスカッションに対する貢献度(2割)と課題に対するレポート評価(8割)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

必要があればその都度連絡します。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

パブリック・マネジメント【夜】

担当者名 永津 美裕 / NAGATU YOSHIHIRO / マネジメント研究科 専門職学位課程
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	理論知識	○ 公共セクターの特性と仕組み、制度の専門的知識を修得する。
	実践知識	
技能	分析解決技能	○ 公共セクターの機能、役割などについて、事例などを通じて調査分析できる。
	実務技能	
	新規事業技能	
態度	倫理観態度	○ 公共性の意義を十分理解し、公的業務に従事する職業倫理を有する。
	企業変革態度	
	地域リーダー態度	○ 公的課題の解決に積極的に取り組むリーダーシップを身につける。
	国際協調態度	

※ ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

※ 2013年度以降入学生が対象です。

パブリック・マネジメント

授業の概要 /Course Description

国、地方ともに財政難に直面するわが国では、従来の行政を中心とする公共経営の限界が明らかになりつつあり、90年代後半から新たな行政手法としてNPM（ニュー・パブリック・マネジメント）の導入が推進されている。顧客主義に基づき行政の経済性や効率性を重視するNPMは一定の成果をあげているが、サービスの受け手ではなく主権者としての市民に着目して、NPOなどの市民セクターによる新しい公共の担い手など多面的な主体による公共経営やガバナンスのあり方が問われている。そのため、国や地方自治体、医療、教育等の公益団体、企業の公共的役割、市民セクターのあり方を幅広く学ぶ。

そしてNPMの理論や特性、行財政改革手法、公共の担い手としての責務、職業倫理等を学び、公益団体、企業まで含めた公共経営やNPMを超えた福祉や教育の分野等での市民セクターとの公民域協働による新しい公共空間の創造やソーシャルキャピタル等について、今後の展望を探る。

教科書 /Textbooks

授業の際に、適宜必要な資料を配布します

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『パブリック・マネジメント』（2002年）大住荘四郎 日本評論社
『非営利組織の経営』（1991年）ドラッカー ダイヤモンド社
『こうして組織は腐敗する』（2013年）中島隆信 中央公論新社

パブリック・マネジメント【夜】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ① パブリックマネジメント総論I
【パブリックセクターの特性、歴史的経緯、社会的変化、ソーシャルキャピタルの考え方】
- ② パブリックマネジメント総論II
【公共セクターの役割、公共セクターの職業倫理】
- ③ パブリックマネジメント総論III
【NPMの理論背景と基本的考え方】
- ④ 課題議論
【学生による発表、論議】
- ⑤ 公益事業（企業等）
【特性、医療、教育等】
- ⑥ 公益法人・NPO制度
【NPOなど市民セクター】
- ⑦ パブリック組織の組織・人材マネジメント
【わが国の人事制度の特徴】
- ⑧ パブリック組織の財政の仕組みI
【国・地方の予算・決算制度】
- ⑨ パブリック組織の財政の仕組みII
【国・地方の財政分析】
- ⑩ パブリックサービスの改革手法I
【PPP】【民間委託】
- ⑪ パブリックサービスの改革手法II
【独立行政法人】【指定管理者】
- ⑫ パブリックサービスの改革手法III
【第三セクター・外郭団体】
- ⑬ パブリックサービスの改革手法
【PFI】
- ⑭ 課題議論・ゲストスピーカー
【特定テーマによる議論】
- ⑮ まとめ
【多様な主体による新しい公共、ソーシャルキャピタルの構築】

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート、課題に対するプレゼンテーション（70%）、授業の状況（質疑、意見、発表等30%）をもとに総合的に評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

授業の際に必要ながあればその都度連絡します。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

学生の皆さんの活発な議論や質疑を期待しています。

キーワード /Keywords

財務会計【夜】

担当者名 /Instructor 任 章 / NIN Akira / マネジメント研究科 専門職学位課程

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

ベーシック科目であるアカウンティングの知識を基に、本講座では財務会計領域の知識を幅広く積み上げ、意思決定、証券市場、さらには会計プロフェッションによる情報保証の問題を、末広がり考察対象に加えてゆく。本講座は慣習的な「会計の講義」を展開することを意図するものではない。むしろ、刻々と変化するビジネス環境の下で、意思決定者は会計情報をいかに分析し、解釈し、自らの行動を選択するものか、そうした事柄を自発的に考えさせる機会を提供する。その思考プロセスにあつてはむしろ、国際会計基準(IFRS)の考え方を学び、その発想方法を援用することもある。本講義の到達目標は、受講終了後、受講者が決算報告書(アニュアル・レポート)を分析、解釈、評価し、意思決定に必要な情報を自在に取り出せるようになることである。

教科書 /Textbooks

『アカウンティングと財務諸表分析』
(初回授業時に、無償にて最新第7版を配布する)

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

(一例として) 田中建二著『財務会計入門』中央経済社(但し購入は任意)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

ベーシックの「アカウンティング」講座の応用編として、主として以下のコンテンツに関わる理解を深め、各々モジュールにして組み立て、財務会計全般の知識の体系化を図る(プレゼンテーションの時間などを要するため、講義順は変わることがある)。

- ①オリエンテーション：本講座でカバーされる領域と目的、課題等について。
【オリエンテーション】
- ②財務諸表書式の連関関係について：未実現損益の処理と包括利益の表示など。
【財務諸表のフォーマット】
- ③キャッシュフロー計算書の作成とその分析方法について。
【キャッシュフロー】
- ④利益操作の意図と報告利益品質について。
【アーニングズ・マネジメント】
- ⑤SFAS、IFRS等のGAAPのディテールについて。
【GAAP】【IFRS】【SFAS】
- ⑥財務諸表分析とその応用：企業価値評価への展望。
【財務諸表分析】
- ⑦(英文)アニュアル・レポートのコンテキストの理解。
【アニュアル・レポート】
- ⑧SEC行政処分事例の実際について。
【SEC】
- ⑨財務諸表の信頼性保証とリスクについて。
【監査】
- ⑩バランスシートと会計的論点について(減損会計、時価会計等)。
【B/S 이슈ー】
- ⑪P/Lと会計的論点について。
【P/L 이슈ー】
- ⑫証券市場規制と企業のディスクロージャー行動について。
【ディスクロージャー】
- ⑬会計情報と投資意思決定について。
【投資意思決定】
- ⑭財務会計のWrap-up。
【財務会計】
- ⑮財務会計の知識のアプリケーションと応用。
【アプリケーション】...以上に代表されるテーマについての理解を、受講者の知識経験のレベルにあわせて深めて行く。

成績評価の方法 /Assessment Method

課題レポートの質(15%程度)、プレゼンテーション[=自ら選択した企業の財務諸表分析]の積極性やディスカッションに際しての貢献度(20%位)、期末試験の成績(65%位)、等を適宜ウエイト付けし、総合的に判断します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

財務会計【夜】

履修上の注意 /Remarks

必要があればその都度伝えます。各回配布済プリント等も、毎回、授業に際し持参してください。簡単な電卓も持参されると良いでしょう。財務諸表分析の講座ではありますが、結果的には財務会計分野を、幅広く俯瞰する科目になります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

教員は、履修者が自らの会計的視点を確立するための、ファシリテーターとしての役割を果たします。しかるに、履修者自身が選んだテーマで、プレゼンテーションをしていただく機会を設けます。

キーワード /Keywords

上記の中でも特に、GAAP、IFRS、B/S、P/L、財務諸表分析、意思決定。

地域産業【夜】

担当者名 柳井 雅人 / Masato Yanai / 経済学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度

/Year of School Entrance

2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
							○	○	○		

授業の概要 /Course Description

北部九州エリアを中心に、地域を支える産業の特性を分析しながら、その育成策について実証的かつ実践的に学ぶ。とくに産業立地や産業集積という観点から、地域において主導的な役割を果たしていく産業の成長促進策について体系的に学ぶ。

授業の到達目標は、①九州地域の企業が市場開拓や新規参入などを図る際の行動を体系的に習得し、②それに応じて行政が進める戦略産業育成策を体系的な知識として得ることである。またこれらを通じて九州地域の成長戦略を描く力が身に付くことである。

教科書 /Textbooks

配布するプリントを中心とする。その他必要なものについては、講義中にその都度指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義中にその都度指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ①日本および九州地域の産業構造と変化の動向
【産業構造】【戦略産業】
- ②北部九州地域の産業構造
【北部九州】【福北大都市圏】
- ③主要産業の動向と地域に与える影響I
【素材産業】
- ④主要産業の動向と地域に与える影響II
【加工組立産業】
- ⑤主要産業の動向と地域に与える影響III
【商業・サービス業】
- ⑥地域産業における生産・流通システムの高度化I
【大企業】【事業再構築】【海外展開】
- ⑦地域産業における生産・流通システムの高度化II
【中小企業】【事業再構築】【海外展開】
- ⑧地域産業の新規事業開拓I
【既存取引活用型】
- ⑨地域産業の新規事業開拓II
【異分野展開型】
- ⑩地域産業の新規事業開拓III
【事業転換型】
- ⑪地域産業活性化への政策的対応I
【事業高度化促進】
- ⑫地域産業活性化への政策的対応II
【立地促進】【企業誘致】
- ⑬地域産業活性化への政策的対応III
【雇用促進】【人材活用】
- ⑭地域産業活性化への政策的対応IV
【集積促進】【イノベーション】
- ⑮まとめ
【地域産業育成のあるべき姿】

成績評価の方法 /Assessment Method

課題レポート・・・90%、ディスカッションなど日常の授業への取組・・・10%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

常日頃より経済雑誌、新聞等で地域産業の動向をチェックしておいてください。
パブリック系の科目を履修しておくとう理解が深まります。

地域産業【夜】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

できるだけ最新のデータを提供するよう心がけています。

キーワード /Keywords

地域産業、産業構造、立地モデル、新規事業、新規事業育成策

国際ビジネス・スキル【夜】

担当者名 アダム・ヘイルズ / Adam Hailes / 英米学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	理論知識	
	実践知識	○ ビジネスに必要な英語のスキルを習得する。
技能	分析解決技能	
	実務技能	○ 英語でビジネスプレゼンテーションができる力を修得する。
	新規事業技能	
態度	倫理観態度	
	企業変革態度	
	地域リーダー態度	
	国際協同態度	○ 国際的な環境において相互理解し、コミュニケーションが行える力を修得する。

※ ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

※ 2013年度以降入学生が対象です。

国際ビジネス・スキル

授業の概要 /Course Description

国際ビジネス・スキル offers students the opportunity to develop the skills necessary to make successful business presentations in an international environment. While the emphasis will be on technique a strong focus on enhancing English-language skills will be maintained throughout. It is hoped that this course will enable students to make professional, persuasive and entertaining business presentations which feature the usage of accurate and appropriate English.

教科書 /Textbooks

Nancy Duarte, HBR Guide to Persuasive Presentations (Harvard Business Review Guides), (Harvard Business School Press, 2012)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Secondary Reading will be discussed in the Introduction.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回 Introduction
Audience
2回 Understand the Audience's Power / Segment the Audience
3回 Define How You'll Change the Audience / Find Common Ground
Message
4回 Define Your Big Idea / Anticipate Resistance
5回 Build an Effective Call to Action / Balance Analytical and Emotional Appeal
Story
6回 Apply Storytelling Principles / Create a Solid Structure
7回 Beginnings, Middles and Ends / Use Metaphors as Your Glue
Media
8回 Choose the Right Vehicle for Your Message / Determine the Right Length for Your Presentation
9回 Persuade Beyond the Stage / Share the Stage
Slides
10回 Think Like a Designer / Choose the Right Type of Slide
11回 Clarify the Data / Turn Words into Diagrams
Delivery
12回 Rehearse Your Material Well / Communicate with Your Voice
13回 Get the Most Out of Your Q and A / Student Presentations 1
Impact
14回 Spread Your Ideas with Social Media / Student Presentations 2
15回 Review

国際ビジネス・スキル【夜】

成績評価の方法 /Assessment Method

Successful completion of homework assignments - 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

Preparation tasks will be set by the instructor whenever appropriate.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ロジスティクス【夜】

担当者名 藤村 幸弘 / マネジメント研究科 専門職学位課程
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 集中 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	理論知識	
	実践知識	◎ バリューチェーン、サプライチェーンに関する基本的知識を習得する。
技能	分析解決技能	
	実務技能	○ 効率的かつ創造的なバリューチェーンを組み立てる力を修得する。
	新規事業技能	
態度	倫理観態度	
	企業変革態度	○ 自社の課題をバリューチェーンの視点から改善する能力を修得する。
	地域リーダー態度	
	国際協調態度	○ 国際的な視点からバリューチェーンを組み立てる力を修得する。

※ ◎: 強く関連 ○: 関連 △: やや関連

※ 2013年度以降入学生が対象です。

ロジスティクス

授業の概要 /Course Description

プロジェクトアプローチの講義

実際の企業の課題を用い、ICT(情報技術ツール)を活用しフォーマルな学び(座学)とインフォーマルな学び(実体験)を組み合わせたプログラムです。

バリューチェーン、サプライチェーンの基礎知識を基に国際ビジネスプランを作成する。講義に於いては、グローバルビジネスカルチャー、パートナーシップ、チームビルディング、コラボレーションワークを体験しながら、“地域からグローバルビジネスモデル構築を行うことを目的とする。”

教科書 /Textbooks

プロジェクターにて内容を表示、支給したiPadを使用しテキストを閲覧

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

基本的なサプライ・チェーン・マネジメントの著書

競争優位の戦略 M・E・ポーター著 ダイアモンド社

考える技術・書く技術 バーバラ・ミント著 ダイアモンド社

ビジネスモデルジェネレーション アレックス・オスターワルダー&イヴ・ピニユール

ロジスティクス【夜】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ① イントロダクション【国際ビジネスとロジスティクス】
バリューチェーン・サプライチェーン・グローバルサプライチェーンの関係
- ② チーム結成【チームビルディング】
プロジェクト課題決定
ファシリテーターの役割、リーダーの役割を“学ぶ”
- ③④ サプライチェーンとマーケティングの関連性を“学ぶ”
③【バリューチェーンとプロセスの検証】④【マーケットリサーチ】
SCMの事例紹介 “ポジショニング”の重要性
“パートナーリング”“チームマネジメント”の重要性
- ⑤⑥ 地域から見た国際ビジネスを“学ぶ”
⑤【リアルタイム情報の重要性】⑥【コーポレートファイナンス】
“ソーシャルネットワーク”を活用した世界のリアルタイム情報と分析法
第一回目ビジネスプランの検証
- ⑦⑧ 地域から見た国際ビジネスを“学ぶ”
⑦【ビジネスモデルの構築手法】⑧【グローバルビジネスに必要な知識】
グローバル情報を基に地域からグローバルビジネスを考える。
- ⑨⑩ 地域から見た国際ビジネスを“学ぶ”
⑨⑩【情報共有とディスカッションから得る知識】
チームメンバーとのディスカッションから得る気付きと学びの重要性
- ⑪⑫ ビジネスプランの検証
⑪【チームディスカッション】⑫【目標設定とプランの重要性】
- ⑬⑭⑮ プレゼンテーションと統括
⑬【プロジェクトの進捗確認】
⑭【プレゼン手法】
⑮【ビジネスプランのプレゼンテーション】

成績評価の方法 /Assessment Method

ディスカッションへの参加率、実態調査への貢献度、プレゼンテーションへの貢献度、チームへの貢献度を元に総合的に評価する。 ディスカッション(25%)、調査資料(25%)、プレゼンテーション(25%)、チームワーク(25%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

参考書の基本的内容を理解しておくことが好ましい。

チームで短期間にビジネスプランを作成するため、講義を欠席すると他のチームメンバーに負担が掛かります。期間中タイムマネジメントを確り行って欲しい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

- * 大局的に物事をみるためにグローバルサプライチェーンを学んで欲しい。
- * グローバルビジネスに於いての数値の重要性を理解して欲しい。
- * グローバル社会の中での自身の立ち位置を発見して欲しい。

キーワード /Keywords

グローバルサプライチェーン、マーケティング、ファイナンス、プロセス、チームビルディング、コミュニケーション、パートナーリング

問題解決スキル【夜】

担当者名 /Instructor 平山 克己 / Katsumi Hirayama / 経営情報学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	理論知識	
	実践知識	○ 問題解決に必要なとされる基本的な思考方法および分析ツールを習得する。
技能	分析解決技能	○ 問題解決に必要なとされる分析ツールを事例を通じて応用できる。
	実務技能	○ 問題解決のためのツールを使いこなす力を修得する。
	新規事業技能	
態度	倫理観態度	
	企業変革態度	
	地域リーダー態度	
	国際協調態度	

※ ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

※ 2013年度以降入学生が対象です。

問題解決スキル

授業の概要 /Course Description

ビジネスに必要なスキルは、プレゼンテーション、ライティング、コミュニケーションなど多岐にわたるが、本講義では、問題解決に必要なとされる基本的な思考方法、分析ツールを紹介し、ケーススタディを通して解決スキルを習得してもらうことに主眼を置いている。

前半は、システム分析の視点から授業を構成する。後半は、適宜、演習問題を課すことによって理解力を高め、スキルの向上をめざす。

具体的には、KJ法、オペレーションズ・リサーチ、ビジネスモデル、TOCなど、簡単なものからパソコンを利用したいいくつかの分析手法を取り上げる。

教科書 /Textbooks

プリントまたは冊子を配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

平山克己(2008年)『あほ賢システムのおはなし』SCC
 刀根 芳(2001年)『オペレーションズ・リサーチ読本』日本評論社
 柏木吉基(2006年)『Excelで学ぶ意思決定論』Ohmsha
 エリヤフゴールドラット著、三本木亮訳(2001年)『ザ・ゴール』ダイヤモンド社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

講義方式に加え、グループワーク、パソコン演習、ケース・スタディを組み入れることで知識の理解を深め、かつ思考能力を涵養する。各講義内容は以下の通り

- 1回 問題解決手法とは 【ブレンストーミング】【KJ法】
- 2回 問題解決手法演習 【KJ法】
- 3回 表計算ソフトによる図解化法 【グラフ化】【統計的分析】
- 4回 表計算ソフトによる図解化法演習 【グラフ化】【統計的分析】
- 5回 オペレーションズ・リサーチとは 【PERT】【アクティビティ】【プロジェクト管理】
- 6回 オペレーションズ・リサーチ演習 【最適化】【線形計画法】
- 7回 ビジネスモデルとは 【IDEF】【アクティビティ】
- 8回 ビジネスモデル演習 【Activity Based Costing】【管理会計】
- 9回 制約条件の理論 (Theory Of Constraint)とは【制約条件】【ボトルネック】【ドラムバッファロープ】
- 10回 制約条件の理論 (Theory Of Constraint)演習
- 11～15回 演習 Reading Assignment発表 【ケース・スタディ】

成績評価の方法 /Assessment Method

学習状況・・・30% 課題・・・40% 討議の貢献度・・・30%

問題解決スキル 【夜】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

ノートパソコンを持参してもらう場合があります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

チーム・マネジメント【夜】

担当者名 /Instructor 山口 裕幸 / Hiroyuki Yamaguchi / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 / Credits 2単位 / Semester 集中 / Class Format 授業形態 講義 / Class クラス 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	理論知識	○	チームマネジメントに関する専門的知識を修得する。
	実践知識		
技能	分析解決技能		
	実務技能		
	新規事業技能	○	事業立ち上げに必要なチームを編成しまとめる力を修得する。
態度	倫理観態度		
	企業変革態度	○	課題解決に必要なチームの特性を理解し、チームをつくる力を修得する。
	地域リーダー態度	○	優れたチームマネジメントを実践するリーダーシップを修得する。
	国際協調態度		
※ ◎: 強く関連 ○: 関連 △: やや関連		チーム・マネジメント	

※ 2013年度以降入学生が対象です。

授業の概要 /Course Description

この授業では、チームを構成するメンバーが、活動を通して相互作用する過程でチームに備わってくる（創発されてくる）特性としてチームワークや、チーム・コンピテンシー、チーム・レジリエンスをとらえ、それらのチームレベルの特性を、より高品質なものへと育み、強化するための働きかけを考える視点から、効果的なチーム・マネジメントについて論じていく。

グループ・ダイナミクス、組織行動論、戦略的人的資源管理論、複雑系科学、進化論を学術的論考の基盤としつつ、組織現場で発生している現実問題を題材として取り上げながら、いかなるマネジメントが効果的であるのかを、マイクロレベル（＝個人の心理プロセスや行動特性）と、それらが相互作用することでできあがり、また変容していくマクロレベル（チーム・パフォーマンス、チーム規範、チームワーク等）の相互作用ダイナミズムに注目しながら、講義を進めていく。具体的に取り上げるトピックは、次のような構成を考えている。

1. チーム・マネジメントのターゲットは何か
2. チームの特性と類型を理解する
3. チーム発達論
4. チームワークとは何か
5. メンバー個々のチームワーク能力
6. チーム・コンピテンシーを考える
7. チーム・レジリエンスの重要性
8. チーム・デザイン論
9. チーム・ビルディング論
10. チーム・マネジメントとリーダーシップ

教科書 /Textbooks

「チームワークの心理学 - よりよい集団づくりをめざして - 」山口裕幸(著)サイエンス社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『経営とワークライフに生かそう！産業・組織心理学』山口裕幸・高橋潔・芳賀繁・竹村和久(著) 有斐閣アルマ
『<先取り>指向の組織心理学 - プロアクティブ行動と組織』古川久敬・山口裕幸(編著) 有斐閣

チーム・マネジメント【夜】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

この授業は、集中講義形式での開講を予定しており、第1日(金・2コマ)+第2日(土・6コマ)+第3日(金・2コマ)+第4日(土・5コマ)で構成を考えている。また、講義を基盤とするが、課題を準備して、自らの意見を考えたり、受講生どうして議論したりする、演習形式も適宜、取り入れる。

<1日目:2コマ(講義を基盤に進めます)>

- ① チーム・マネジメントに関する研究と実践の歴史(1)【機械組織観、ホーソン研究、人間性心理学】
- ② チーム・マネジメントに関する研究と実践の歴史(2)【自己組織性、組織改革、チームワーク】

<2日目:6コマ(講義とグループワーク)>

- ③ チーム・マネジメントのターゲットを同定する【組織規範、組織コミュニケーション】
- ④ チームとは何か、その特性と類型【チーム、タスクフォース、クルー】
- ⑤ チーム発達論【組織の硬直化現象、ライフサイクル理論、】
- ⑥ メンバーの相互作用ダイナミクスとチーム・コミュニケーションの特性理解(講義)【場の理論、ネットワーク】
- ⑦ メンバーの相互作用ダイナミクスとチーム・コミュニケーションの特性理解(課題を用いた演習)
- ⑧ チームワークとは何か(講義)【モニタリング、相互調整、相互支援、相互指摘】

<3日目:2コマ(講義)>

- ⑨ チーム・コンピテンシーとチーム・レジリエンスを育むには(課題を用いた演習)
- ⑩ チーム・コンピテンシーとチーム・レジリエンスを育むには(講義と議論)【コンピテンシー、レジリエンス、失敗学】

<4日目:5コマ(講義と演習)>

- ⑪ チーム・パフォーマンスを阻害するチーム・ダイナミクスの理解【プロセス・ロス、他】
- ⑫ 優れたチーム・コミュニケーションを育むための条件【共有メンタルモデル、暗黙の強調】
- ⑬ チーム・デザインとチーム・ビルディング【介入型チーム育成、自律管理型チーム】
- ⑭ 優れたチーム・マネジメントを実現するリーダーシップを考える(課題を用いた演習)
- ⑮ 優れたチーム・マネジメントを実現するリーダーシップを考える(講義)【目標管理、影響力、ミッション、ビジョン】

成績評価の方法 /Assessment Method

授業の途中で課される課題への解答の精度(25%)、課題や議論への参加態度(25%)、レポートの品質(50%)を総合して成績を評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

必要があればその都度連絡します。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

環境ビジネス【夜】

担当者名 松永 裕己 / マネジメント研究科 専門職学位課程
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
									○	○		

授業の概要 /Course Description

本講義では、リサイクルビジネスを中心として環境ビジネスのマネジメントについて学ぶ。第1に経済システムという視点から環境問題や環境行動を考察する。第2に、環境ビジネス分野ごとの動向を把握し、現状分析と課題抽出を行い、その動向を探る。第3に、企業経営において必要とされる環境行動について検討し、分析フレームワークに基づく課題解決のためのプランを検討する。その上で、環境問題の解決に結びつくようなビジネスモデルを立ち上げることを想定したグループ学習を行う。

教科書 /Textbooks

講義は基本的に配布プリントにて行うが、必要に応じて参考文献を指定する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義の中で紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ① イントロダクション
【環境ビジネスとは何か】
- ② 企業活動と環境問題
【環境問題と企業活動の関係を考える】
- ③ 社会システムと環境問題
【持続可能な発展：市場・行政・社会のシステム】
- ④ リサイクルビジネスの基礎
【リサイクルビジネスの分野と成長可能性】
- ⑤ リサイクルビジネスの課題
【リサイクルビジネスの課題とその解決方法】
- ⑥ 環境ビジネスにおける顧客創造
【顧客とは誰か？顧客創造とは何か？】
- ⑦ 環境産業クラスター1
【環境産業クラスターの現状と課題】
- ⑧ 環境産業クラスター2
【環境ビジネスにおける戦略とファイブフォース】
- ⑨ 環境ビジネスの市場分析と参入可能性1
【市場分析のフレームワーク】
- ⑩ 環境ビジネスの市場分析と参入可能性2
【プレゼンテーションとディスカッション】
- ⑪ 現場から考える環境ビジネス1
【ゲストスピーカーによる講義と議論】
- ⑫ 現場から考える環境ビジネス2
【ゲストスピーカーによる講義と議論】
- ⑬ 環境ビジネスにおけるイノベーション1
【環境分野における技術革新と市場への適用】
- ⑭ 環境ビジネスにおけるイノベーション2
【環境ビジネスを通じたソーシャルイノベーション】
- ⑮ まとめとディスカッション
【課題設定にもとづきプレゼンテーションおよびディスカッション】

※なお、上記に加え、希望者による環境企業見学を行う(予定)

成績評価の方法 /Assessment Method

講義への貢献度(発言回数、発表内容、建設的な議論への寄与など): 50%、課題の内容(レポートなど): 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

受講に際しては、一方で環境問題や環境活動に対する固定観念を一度取り払うこと、もう一方で環境問題に関連する社会経済の動向に注意を払うことを求める。

環境ビジネス【夜】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

環境問題、環境ビジネス、リサイクル、エコタウン事業

国際経営【夜】

担当者名 /Instructor 王 効平 / Xiao-ping Wang / マネジメント研究科 専門職学位課程

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	理論知識	◎	国際経営の理解に必要な理論的専門知識を修得する。
	実践知識		
技能	分析解決技能	○	国際経営に関わる諸問題を体系的に理解し、自ら課題を発見してその分析と解決策の提示ができる。
	実務技能		
	新規事業技能	△	国際的に新事業を展開するに必要とされる技能を修得する。
態度	倫理観態度		
	企業変革態度	○	国際経営を遂行するにあたって必要とされる挑戦的姿勢と変革する能力を修得する。
	地域リーダー態度		
	国際協調態度	○	国際経営を遂行するにあたって必要とされる相互理解の態度と協調的姿勢を修得する。

※ ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

※ 2013年度以降入学生が対象です。

国際経営

授業の概要 /Course Description

国際経営（経営のグローバル化）に関する広い視野と深い洞察力、特に企業の国際事業戦略に関する専門知識や関係技能の取得を目的とする。講義内容は大きく3部構成とする。第1部では国際経営の基礎概念、理論を学んだ上、関係統計を通じて経営国際化進展の全体像を掴む。第2部では、日本企業の経営国際化(幅広い国際事業提携やビジネスのグローバル展開を含むもの)の特徴、諸課題について学ぶ。第3部ではケーススタディを行い、討論を通じて全体内容に対する理解を深めていく。

毎年受講生のバックグラウンドに大きなばらつきがあることに鑑み、初講義時にアンケートによる確認を行った上、参考資料の用意やペースの調整などで工夫を凝らせていく。

教科書 /Textbooks

プリント配布予定

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

亀井正義著 『企業国際化の理論』 中央経済社
湯沢威他著 『国際競争力の経営史』 有斐閣
吉原英樹編著 『国際経営論への招待』 ミネルブア書房
経済産業省編 『通商白書』 (各年版)
JETRO編 『世界貿易投資白書』 (各年版)

国際経営【夜】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 イントロダクション：講義の狙い、概要の説明
- 第2回 「経営国際化」、「多国籍企業」【企業の国籍】
- 第3回 多国籍企業の誕生、発展段階【株式会社誕生起源説】、【6段階説】、【4類型化】
- 第4回 企業の多国籍化の誘因【PLC説】、【資本余剰説】、【貿易摩擦回避型】、【原価削減型】
- 第5回 多国籍企業の所有戦略【持ち分型】、【完全所有】、【共同所有】、【非持ち分型】、【技術供与契約方式】
- 第6回 基本統計【国際収支ベース】、【直接投資】、【対外・対内投資】、【グローバル企業ランキング】
- 第7回 多国籍企業の租税戦略：国際事業本部の立地との関連性【RHQ】、【外資政策】、【タックスヘイブン】、【移転価格】
- 第8回 日本企業の経営国際化の特徴【日本型多国籍企業】【企業内分業】
- 第9回 経営現地化の諸課題【国内志向】、【現地志向】
- 第10回 日系企業に関する現地調査報告
- 第11回 ケーススタディⅠ(日系製造業・多国籍企業に関するゲスト講義)
- 第12回 グループワーク・総合討議
- 第13回 ケーススタディⅡ(東アジア財閥系多国籍企業：現地調査を踏まえて)
- 第14回 グループワーク・総合討議
- 第15回 レポート講評

成績評価の方法 /Assessment Method

- 課題レポート 50%
- 討論への貢献度 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

- 紹介資料、配布資料を熟読すること
- 講義中に積極的に質疑・発言する心掛けを！

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

地域づくり総論【夜】

担当者名 城戸 宏史 / K I D O H I R O S H I / マネジメント研究科 専門職学位課程
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	理論知識	○	地域が直面する問題や課題についてマネジメント理論を踏まえた議論ができる。
	実践知識		
技能	分析解決技能		
	実務技能		
	新規事業技能	○	地域の問題や課題の解決に向けた構想を各種の連携を踏まえて具体的に提案できる。
態度	倫理観態度		
	企業変革態度		
	地域リーダー態度	○	地域リーダーの自覚のもと、地域の諸問題に対して幅広い視点で提案できる。
	国際協調態度		

※ ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

※ 2013年度以降入学生が対象です。

地域づくり総論

授業の概要 /Course Description

わが国は既に人口減社会に突入しており、経済活力の低下が深刻化しつつある。とりわけ、地方における経済活力の低下は極めて深刻な状況となっている。そのため、これまで以上に地域づくりや地域産業振興への関心が高まっている。しかしながら、従来の行政中心の手法には限界があり、行政の枠を超えたマネジメントのもとでの地域づくりや地域産業振興が求められている。

そこで本講義では、行政の枠を超えた地域づくりのケーススタディ等により、様々な担い手によって実行される地域づくりに必要な戦略やチームマネジメントについて学ぶものとする。なお、本講義の到達目標は、①地域づくりの現場における課題を具体的に抽出できること、②地域活性化につながる地域資源を具体的に発掘できること、③地域づくりを担う具体的なチームの体制を提案できること、である。

教科書 /Textbooks

その都度、指示します（基本はプリント配布）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

P.F.ドラッカー「非営利組織の経営」ダイヤモンド社
P.F.ドラッカー「イノベーションと企業家精神」ダイヤモンド社
山崎亨「コミュニティデザインの時代」中公新書
広井良典「コミュニティを問いなおす」ちくま新書
新雅史「商店街はなぜ滅びるのか」光文社新書

地域づくり総論【夜】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ①、②地域を景観とデータから読み取る
【地域の現状の確認：高齢化・都心空洞化・人口減少、消費低迷、下流化】
【ディスカッション：10年後の地域のかたち、すでに起こった未来】
- ③、④地域コミュニティの限界と可能性
【地域コミュニティとは：公/共/私、地域/国家/地球、外部マネジメント、人的ネットワーク】
【ディスカッション：地域コミュニティの未来 / 地域づくりのために誰とつながるべきか？】
- ⑤、⑥地域コミュニティ再生の取組みにみるキーパーソン
【地域コミュニティの担い手：行政、NPO、企業、市民、リーダーシップ、マネジメント、イベント（花火等）、図書館】
【ディスカッション：地域コミュニティ再生のキーパーソンのポジションとは？ 地域コミュニティの中心は？】
- ⑦、⑧地域づくりのケーススタディ
【中心市街地の活性化：黒崎地区の実態（商店街、再開発、再都市化、コミュニティデザイン）】
- ⑨、⑩地域づくりと合意形成（八幡地区を事例を中心に）
【市街地再開発、再開発組合、都市計画、コミュニティ、合意形成】
【ディスカッション：どのように地域で合意形成すれば良いのか？】
- ⑪、⑫事例に学ぶ地域資源と地域事業創造
【地域資源の発掘方法：よそ者/若者/馬鹿者、マッチング、由布院、みのう、門司港、東田】
【ディスカッション：北九州における未開の地域資源は何か？】
- ⑬、⑭地域事業創造のためのフォーメーションと外部マネジメント
【地域事業創造に必要な構成要素：地域マーケティング、社会的課題、ソーシャルメディア、担い手、サポーター】
【ディスカッション：これからの時代の地域事業とは？】
- ⑮地域づくりプロジェクトの提案
【どんな地域課題に対して、どんな地域資源を生かして、誰とつながるのか？】

成績評価の方法 /Assessment Method

地域づくりプロジェクトの提案レポート（70%）、ディスカッションに対する貢献度（30%）

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

マーケティングや経営戦略といったベーシック科目をしっかりと習得していることを期待する。また、できればパブリックマネジメントやソーシャル・ビジネスの履修していることが望ましい。
本講義は2コマ連続の隔週開講とする

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

ビジネススクールならではの知見を応用しつつ、地域づくりを多角的に捉えて、具体的な案件をとりあげて議論を深めたいと思います。

キーワード /Keywords

地域事業創造、コラボレーション、すでに起こった未来、地域コミュニティ、NPO、ソーシャル・ビジネス、市街地活性化、社会的課題、合意形成

会社法【夜】

担当者名 高橋 衛 / 法律学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	理論知識	○	高度専門職業人として活動するために有益となる会社法に関する知識を修得する。
	実践知識		
技能	分析解決技能		
	実務技能	○	ビジネスにおいて生じ得る会社法上の問題を発見・処理するための技能を修得する。
	新規事業技能		
態度	倫理観態度		
	企業変革態度		
	地域リーダー態度		
	国際協調態度		

※ ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

※ 2013年度以降入学生が対象です。

会社法

授業の概要 /Course Description

会社法は、会社の組織や運営の基本的な枠組みを規定しており、会社の誕生から消滅に至るまで、会社という形態を利用してビジネスを行う場合に従わなければならない様々なルールを定めています。この講義では、会社のうち株式会社を中心に、会社のガバナンスやファイナンス・M&A等に関する法制度を説明します。

教科書 /Textbooks

初回の授業で指示します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ①オリエンテーション
- ②会社の種類
- ③株式会社の設立
- ④株式会社の機関(1)【機関設計の概要】
- ⑤株式会社の機関(2)【株主総会】
- ⑥株式会社の機関(3)【取締役会】【代表取締役】【監査役】
- ⑦株式会社の機関(4)【取締役の責任】
- ⑧株式の発行
- ⑨株式の流通
- ⑩株式会社の組織再編(1)【合併】【会社分割】
- ⑪株式会社の組織再編(2)【株式交換】【株式移転】
- ⑫敵対的買収
- ⑬会社法の改正(1)【ガバナンス関係】
- ⑭会社法の改正(2)【親子会社関係】
- ⑮まとめ

なお、授業のスケジュールは進捗状況等に応じて変更する可能性があります。

成績評価の方法 /Assessment Method

発表等のクラスへの貢献度...50%、レポート...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

会社法 【夜】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

管理会計【夜】

担当者名 梅澤 俊浩 / 経営情報学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	理論知識	◎ 管理会計の理論の理解に必要な専門知識を修得する。
	実践知識	◎ 管理会計の実践に必要な専門知識を習得する。
技能	分析解決技能	○ 管理会計の諸問題を解決するための分析手法を習得する。
	実務技能	
	新規事業技能	
態度	倫理観態度	△ 管理会計に関わる諸問題に関心を持ち続け、市民としての社会的責任感と倫理観を身につける。
	企業変革態度	
	地域リーダー態度	
	国際協調態度	

※ ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

管理会計

※ 2013年度以降入学生が対象です。

授業の概要 /Course Description

管理会計とは、会計学のうちで企業内部者、たとえば経営者や事業部長などの合理的な意思決定に役立つ会計情報について研究する分野である。本講義では、管理会計の基礎理論をできるだけ計算例を用いて解説するように努める。

本講義は4つのパートから構成される。

- (1) 第2回～第6回: ラーメン屋の事例を通じて、企業会計の仕組みを理解する。
- (2) 第7回～第9回: 原価計算を通じて、製造活動を理解する。
- (3) 第10回～第12回: 運転資本管理の重要性を理解する。
- (4) 第13回～第15回: 部門別業績評価の問題点を理解する。

この授業の到達目標は以下のとおりである。

- ①専門分野の知識・理解およびスキル: 管理会計の知識を理解したうえで、その分析方法を習得する。
- ②課題発見・分析・解決力: 管理会計の視点から、企業経営の問題点を分析できるようになる。
- ③生涯学習力: 現実の企業経営における管理会計の有用性を知る。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

『学習支援フォルダ』に資料をupしておくので毎回印刷して持参してくること。

参考書は授業の初回に紹介する。

管理会計【夜】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 授業の方針、内容や評価についての説明
- 第2回 ラーメン屋事例① 費用と利益の考え方【損益分岐点】
- 第3回 ラーメン屋事例② 機械・設備にかかるお金【減価償却費】【利息】
- 第4回 ラーメン屋事例③ 損益計算表とキャッシュフロー計算書【P/L&CF計算書】
- 第5回 ラーメン屋事例④ 貸借対照表【B/S】
- 第6回 ラーメン屋事例⑤ 財務諸表の作成【F/S】
- 第7回 原価計算の基礎①【材料費】【労務費】【経費】
- 第8回 原価計算の基礎②【標準原価計算】【直接材料費】【直接労務費】
- 第9回 原価計算の基礎③【標準原価計算】【製造間接費】
- 第10回 運転資本とキャッシュフロー①【売上債権】【棚卸資産】【仕入債務】
- 第11回 運転資本とキャッシュフロー②【キャッシュ・コンバージョン・サイクル】
- 第12回 運転資本とキャッシュフロー②【事例分析】
- 第13回 部門別業績評価①【責任会計】【責任センター】【業績指標】
- 第14回 部門別業績評価②【責任会計】【責任センター】【業績指標】
- 第15回 部門別業績評価③【事例分析】

成績評価の方法 /Assessment Method

宿題(第2回～第9回の各回)...8回×5点=40点、
 レポート①(第10回～第12回に該当)...30点
 レポート②(第13回～第15回に該当)...30点
 なお、レポートについては授業中に報告してもらう。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

「ファイナンス」「財務諸表分析」などを履修済みであることが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ベンチャー・ビジネス【夜】

担当者名 /Instructor 越出 均 / マネジメント研究科 専門職学位課程

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	理論知識	○	ベンチャー企業成長モデルを修得する。
	実践知識	○	戦略思考とマーケティング手法を習得する。
技能	分析解決技能	○	スタートアップと持続的成長のスキルを習得する。
	実務技能		
	新規事業技能	◎	新規の事業計画と評価法を修得する。
態度	倫理観態度		
	企業変革態度	○	コーポレートベンチャリングを実践する力を身につける。
	地域リーダー態度		
	国際協調態度		

※ ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

ベンチャー・ビジネス

※ 2013年度以降入学生が対象です。

授業の概要 /Course Description

本講義は起業家社会を標榜したアントレプレナーの行動特性などを踏まえながら、事業創造とスタートアップ、成長・発展から成熟までの各段階に対応した戦略、マネジメントについて検討する。コーポレート・ベンチャリング、スピンアウト、さらにはソーシャル・アントレプレナーなどを含む起業形態を想定した上で、情報サ・ビス業者の起業モデルなどを先例としたケース・スタディを行い、ビジネス・チャンスの探索、ビジネスプランの策定、企業設立、そして経営手法に学ぶ実践的学習方法を取り入れる。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

越出均『起業モデル』、創成社
 ティモンズ『ベンチャー創造の理論と戦略』、ダイヤモンド社
 ヴェスパー『ニューベンチャー戦略』、同友館

ベンチャー・ビジネス【夜】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ① 起業家精神と行動特性
【アントレプレナーのマインドと学習】
- ② シリコンバレー・モデル
【ビジネス・インキュベーション】
- ③ ベンチャー企業のスタートアップ
【革新的スモールビジネスの存続条件】
- ④ ベンチャー企業の創造プロセス
【ビジネスチャンスの探索と戦略思考】
- ⑤ ベンチャー企業の成長と発展
【変革と成長の痛み】
- ⑥ ベンチャー企業のマネジメント
【経営のプロフェッショナルをめざして】
- ⑦ ベンチャー企業・革新的中小企業の実際
【ゲストによる事例報告】
- ⑧ コーポレートベンチャリング
【社内起業家の取り組みと第二創業】
- ⑨ 研究開発の事業化
【事業提携とジョイント・ベンチャー】
- ⑩ ソーシャル・ベンチャー
【事業志向型の社会起業家】
- ⑪ ネットベンチャー
【ビジネスモデルの創造】
- ⑫ 新規事業のプランニング
【事業計画書の作成】
- ⑬～⑮ ビジネスプランの作成とプレゼンテーション

成績評価の方法 /Assessment Method

ディスカッションへの貢献度(2割)と課題に関するレポートで評価(8割)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

必要があればその都度連絡します。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

戦略的提携と事業創造【夜】

担当者名 /Instructor 森永 泰正 / マネジメント研究科 専門職学位課程

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	理論知識	
	実践知識	○ 他組織との提携・連携に関する専門的知識を習得する。
技能	分析解決技能	
	実務技能	
	新規事業技能	◎ 事業創造に必要な戦略的提携を実現するための能力を身につける。
態度	倫理観態度	
	企業変革態度	○ 企業変革に必要とされる戦略的提携を構築する能力を身につける。
	地域リーダー態度	
	国際協調態度	

※ ◎: 強く関連 ○: 関連 △: やや関連

※ 2013年度以降入学生が対象です。

戦略的提携と事業創造

授業の概要 /Course Description

人口減少に伴い中長期では緩やかなる衰退が予想される国内産業が取るべき対策につき検討します。特に製造業では、国内外の競争が拡大・激化し、嘗て経済の成長に合わせ増強した人員・設備等をグループ内いはいは他企業との再編等により効率化を進めることが経営の課題の一つとなっています。講師は総合商社の営業部門のひとつで営業企画を長年担当。講義では2000年以降、担当分野でダイミクに再編・連携が進んでいる実態を紹介すると共に、受講者との自由討議、レポートの賦課と講評を通じ、国内産業復興に残された道の一つである事業再編・提携につき理解を深めていくこととします。

教科書 /Textbooks

必要な都度資料を準備します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

横山寛美「経営戦略 ケーススタディ グローバル企業の興亡」シグマ・イキテック 2,000円
 NHKスペシャル取材班「新日鉄vsミズホ」ダイワブックス 1,600円
 百田尚樹「海賊とよばれた男 上・下」講談社 各1,600円
 嶋田賢三郎「責任に時効なし 小説 巨額粉飾」アート・イズ 1,800円
 野中郁次郎編・著「失敗の本質 戦場のリーダーシップ」ダイワブックス 1,890円

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ① 国内製造業と商社の役割【オリエンテーション】
- ② 商社ビジネスモデルの変遷【日本の産業構造】
- ③ 川上・資源と川下・需要家の谷間の川中産業の課題と展望【再編・提携の歴史その1】
- ④ 業界別再編の整理【再編・提携の歴史その2】
- ⑤ 大型合併と業界への影響【再編・提携の歴史その3】
- ⑥ オナー企業のソトアライアンス【再編・提携の歴史その4】
- ⑦ ハリウッド分析【再編のための方法論その1】
- ⑧ 海外展開【再編のための方法論その2】
- ⑨ 国内分業【再編のための方法論その3】
- ⑩ 大手企業（金融・商社）の活用方法【再編のための方法論その4】
- ⑪ 国内製造業の価値と復権【再編・提携の目的】
- ⑫ 合併交渉での留意点【MAでの気付きその1】
- ⑬ 資本参加での留意点【MAでの気付きその2】
- ⑭ 再編・提携に必要なリーダーの資質【MAでの気付きその3】
- ⑮ 纏め

戦略的提携と事業創造【夜】

成績評価の方法 /Assessment Method

自由討議への貢献度60%、レポート(適宜)40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

隔週2回連続の授業予定です。財務諸表、企業価値、株主価値等を理解の上、株価に関心を持って頂きます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

「ものづくり」復権と強い経営人材育成が目的です。

キーワード /Keywords

フィナンシャル・インベストメント【夜】

担当者名 /Instructor 武田 寛 / Hiroshi Takeda / マネジメント研究科 専門職学位課程

履修年次 /Year 2年次 2年 /Credits 2単位 1学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	理論知識	◎	フィナンシャル・インベストメントに関する専門知識を修得する。
	実践知識		
技能	分析解決技能	○	フィナンシャル・インベストメントに関する定性的・定量的分析能力を習得する。
	実務技能	○	フィナンシャル・インベストメントに関する実務的な技能を身につける。
	新規事業技能		
態度	倫理観態度		
	企業変革態度	○	企業経営に関してフィナンシャル・インベストメントの観点から変革する力を身につける。
	地域リーダー態度		
	国際協調態度		

※ ◎: 強く関連 ○: 関連 △: やや関連

フィナンシャル・インベストメント

※ 2013年度以降入学生が対象です。

授業の概要 /Course Description

さまざまな金融商品のリスク・リターン特性、証券市場の価格決定メカニズムを学んだうえで、ポートフォリオの運営やデリバティブの活用法などについて実例を交えながら学ぶ。具体的には、金融・証券市場、投資の基本概念、債券投資、株式投資、デリバティブ、現代ポートフォリオ理論、資本市場理論などについて、実例を通して学び、自ら分析できるようにする。そして、分析手法をケース・スタディに応用して、実践的な分析力を養い、適切な経営判断ができるようになる。到達目標は以下のとおり。①投資の基本概念を理解し、投資分析ができるようになる、②ポートフォリオ理論を理解し、証券データを使って分析できるようにする、③デリバティブの仕組みと利用法を理解する。

教科書 /Textbooks

ボデイ&マートン&クリートン (著) 大前恵一朗 (訳) (2011年) 『現代ファイナンス論 原著第2版』ピアソン

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○ブリーリー&マイヤーズ&アレン (著) 藤井真理子・国枝繁樹 (監訳) (2007年) 『コーポレート・ファイナンス (第8版) 上・下』日経BP社、

フィナンシャル・インベストメント 【夜】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ① インTRODクシヨン 【ファイナンス】
- ② 金融市場と金融資産
【市場】【債券】【株式】【派生商品】【機関投資家】
- ③ 投資の基本概念
【現在価値分析】【投資収益率】【効用】
- ④ 債券投資分析(1) 金利と債券価格
【最終利回り】【デフレーション】【イールド・カーブ】
- ⑤ 債券投資分析(2) 金利の期間構造
【イールド・カーブの特性】【純粋期待仮説】
- ⑥ 株式投資分析(1) 配当割引モデル
【ゼロ成長モデル】【定率成長モデル】
- ⑦ 株式投資分析(2) 市場の効率性と株式投資
【効率的市場仮説】【アノマリー】
- ⑧ デリバティブ(1) 先物の理論価格とヘッジ
【先渡取引】【先物取引】【ベシス・リスク】【ヘッジ比率】
- ⑨ デリバティブ(2) オプションの仕組みと利用法
【コール・オプション】【プット・オプション】【本源的価値】
- ⑩ ポートフォリオ理論(1)
【期待収益】【投資リスク】【分散投資のリスク軽減効果】
- ⑪ ポートフォリオ理論(2) 最適ポートフォリオ
【無リスク証券】【分離定理】
- ⑫ ポートフォリオ理論(3) ケース・スタディ
【アセット・アロケーション】
- ⑬ 資本市場理論(1) CAPM(資本資産評価モデル)
【資本市場線】【ベータ】
- ⑭ 資本市場理論(2) 裁定価格理論
【ファクター・モデル】【裁定ポートフォリオ】
- ⑮ 資本市場理論(3) ケース・スタディ

成績評価の方法 /Assessment Method

クラスへの貢献度	30パーセント
課題の提出	30パーセント
期末レポートまたは期末試験	40パーセント

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

「ファイナンス」を履修しておくことが望ましい

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

中国ビジネス【夜】

担当者名 /Instructor 高橋 基人 / マネジメント研究科 専門職学位課程

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	理論知識		
	実践知識	◎	中国ビジネスに関連する専門的知識を身につける。
技能	分析解決技能		
	実務技能		
	新規事業技能		
態度	倫理観態度		
	企業変革態度	○	中国ビジネスを事業の成長につなげる視点を身につける。
	地域リーダー態度		
	国際協調態度	○	中国市場の特性やビジネス習慣を理解し、国際的にビジネスを推進できる。

※ ◎: 強く関連 ○: 関連 △: やや関連

※ 2013年度以降入学生が対象です。

中国ビジネス

授業の概要 /Course Description

領土問題を契機として新たな反日の火の手が上がり、過去の状況とはちがった側面で「チャイナ・プラス・ワン」、「チャイナ・リスク」などのキーワードが頻繁に目に触れるようになってきている。特に中国脅威論と共に嫌中論の多さには驚かされる。持続的高成長を実現してきた中国という現実的な巨大市場が存在しているからこそ、日系企業が中国ビジネスに対する大きな期待を寄せながら、過度な依存への警戒心を抱いている。中国市場と如何なる関わり方を持つかは広く関心を持たれる課題になっている。又日中経済の共存は重要なファクターである事であり、ワイン・ウインの関係を探り、確かめる事が求められている。

本講義は中国市場の特性、ビジネス慣習を紹介した上、中国への進出企業のユニークなケースを取り上げ、それぞれの事業戦略パターン、事業展開の経緯、成功の秘訣、リスク対策、知的財産権など経験豊かな専門家が実際の経験を踏まえて伝授していく。

教科書 /Textbooks

基本的にはプロジェクターを使用。
必要に応じてプリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 高橋基人著「こんなにちがう 中国各省気質」草思社 2013年1月刊
- 高橋基人著『中国人にエアコンを売れ!』草思社
- 高橋基人著『「新しい中国」で成功する!』草思社
- 高橋基人著『度胸で勝ち抜く中国ビジネス』双葉社

中国ビジネス【夜】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ① イントロダクション～講義内容の構成、進行法、課題提出、グループ編成
【市場の特性】、【ビジネス慣習】
- ② 日中間の経済相互依存関係
【再び政冷経熱なのか】 【直接投資】
- ③ 中国ビジネス開拓事例A -機械メーカーをケーススタディとして
【事業戦略の構築】【パートナーの物色】【変貌する中国市場】
- ④ 中国人とはどういう人達か！？
【R.I.C.は重要】
- ⑤ 経営の現地化
【人事の現地化】【中国ビジネス成功のためのポイント】
- ⑥ 日系企業に求められているポイントと課題
【発展空間とは】【市場開拓】
- ⑦ 交渉の心得！
- ⑧ 危機管理
【日常管理と非常時】【偽物商標対策と著名商標】
- ⑨ 中国の消費者行動と広報と広告宣伝活動、その戦略
【ブランドイメージ】【媒体を使つての広報活動や企業広報としてのフォーラム】
- ⑩ 販売網の構築と差別化戦略
【アフターサービス】【営業教育、営業開発】【現金取引】
- ⑪ 中国市場の変化を見抜け
【消費者の嗜好】【過当競争】
- ⑫ 日系企業の弱点
実例、受講者の感触を踏まえて議論する
- ⑬ 中国ビジネスで気をつけること
駐在員、出張者の安全管理は益々重要に、ほか
- ⑭ 中国向け貿易ビジネスの開拓事例B
【OEM】【合併事業】他
- ⑮ まとめ＝総合討論

成績評価の方法 /Assessment Method

課題に対するレポート（50%）、授業の途中で課される課題への解答の精度（30%）
授業への参加姿勢（20%）

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

中国市場に関する知識があるのが望ましいが前提とはしない。復習は必須。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

異文化との遭遇、共存を、「中国市場」をテキストにして再考する

環境政策【夜】

担当者名 /Instructor 垣迫 裕俊 / マネジメント研究科 専門職学位課程

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	理論知識	
	実践知識	○ 環境政策に関連する専門的かつ実践的知識を習得する。
技能	分析解決技能	
	実務技能	
	新規事業技能	
態度	倫理観態度	○ 環境問題に関する意識を高め、社会的責任感と倫理観を身につける。
	企業変革態度	
	地域リーダー態度	○ 地域において環境問題解決を提示する力を身につける。
	国際協調態度	

※ ◎: 強く関連 ○: 関連 △: やや関連

※ 2013年度以降入学生が対象です。

環境政策

授業の概要 /Course Description

北九州市は、わが国でも特異な環境政策の歴史を有する都市である。本授業では、北九州市での実践事例を題材にして、環境政策の基本的な考え方、環境ビジネス振興のポイント、環境問題における市民とのコミュニケーションのあり方、さらには低炭素社会に向けた企業活動やエネルギー政策の動向を学ぶ。

教科書 /Textbooks

授業の都度、資料配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『環境首都北九州市～緑の街を蘇らせた実践対策』北九州市環境首都研究会、日刊工業新聞社

環境政策 【夜】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ①環境政策総論
【講義全体の概要】
- ②環境政策の原則、手法
【予防原則、拡大生産者責任、ポリシーミックス】
- ③持続可能性論
【サステナビリティ、社会関係資本、公共政策の統合】
- ④北九州の公害対策史
【全国総合開発計画、典型7公害、真の主役】
- ⑤エコタウン事業とは何か
【総合環境コンビナート、実証研究、循環型社会】
- ⑥エコタウン事業の成果、展開、課題
【政策評価、環境政策と産業政策、エコプレミアム】
- ⑦国際環境協力から海外ビジネスへ
【KITA、アジア低炭素化センター、水・環境ビジネス】
- ⑧PCB処理事業、震災がれき受け入れ事業
【情報公開、説明責任、リスクコミュニケーション】
- ⑨家庭ごみ収集制度の見直しと市民
【経済的手法、分別、コスト】
- ⑩地球温暖化と国際社会の動向
【IPCC、COP、ポスト京都議定書】
- ⑪低炭素社会に向けた政策動向
【2050年、見える化、限界削減費用】
- ⑫次世代環境ビジネスとグリーンイノベーション
【静脈産業、再生可能エネルギー、電力ネットワーク】
- ⑬北九州市の低炭素戦略
【スマートコミュニティ、環境未来都市、地域エネルギー政策】
- ⑭地域社会の持続可能性とは
【経済・環境・社会的持続可能性、地域資源、福祉と雇用】
- ⑮まとめ

※授業の進捗度、学生の関心度に応じ、適宜変更します。

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への参加姿勢 (30%)、授業中のディスカッションへの貢献度 (40%)、課題レポート (30%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

必要があればその都度連絡します。
環境政策の基礎から実践までを体系的かつ実践的に学ぼうとする学生。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

持続可能な社会、循環型社会、低炭素社会、リスクコミュニケーション、環境情報リテラシー

医療マネジメント【夜】

担当者名 /Instructor 小野村 健太郎 / マネジメント研究科 専門職学位課程

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	理論知識	○	医療マネジメントに関連する専門的知識を修得する。
	実践知識		
技能	分析解決技能	○	医療の現場における課題を適切に抽出し、分析する力を身につける。
	実務技能		
	新規事業技能		
態度	倫理観態度	○	医療の専門的知識に裏付けられた、高い倫理観を身につける。
	企業変革態度		
	地域リーダー態度	○	地域のリーダーとして、医療マネジメントに関する諸問題に積極的に取り組むことができる。
	国際協調態度		

※ ◎: 強く関連 ○: 関連 △: やや関連

※ 2013年度以降入学生が対象です。

医療マネジメント

授業の概要 /Course Description

医療の歴史を振り返りながら、現代の医療とリわけ日本の医療の現場において、何が課題なのかを分析し考察する。医療マネジメントは、これらの課題に医療従事者が積極的に取り組み、質の高い医療を効果的に患者に提供するための一連の創造的活動である。医療マネジメントの理論を正しく効率的に現場で活用するためには、医療経済、医療制度、法、安全管理や組織論に精通する必要がある。これらを実用的な立場に立ってわかりやすく解説する。また、医療従事者が医療マネジメントの専門的知識を正しく修得し得たとしても、高い倫理観に裏づけられた適正なリーダーシップを発揮できなければ、上述の課題は解決には向かわない。リーダーシップに関する従来の知識や理論に対する誤解を具体例を挙げて指摘し、誰もが医療マネジメントに精通したリーダーとなり得ることを解説する。

教科書 /Textbooks

毎回、資料を用意します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

患者塾、毎週火曜日毎日新聞西部本社版に連載中
 厚生労働白書、平成25年版、厚生労働省編
 医療マネジメント、真野俊樹、2004、日本評論社
 ベーシック医療問題(第4版)、池上直己、2010、日本経済新聞社
 マネジメント - 基本と原則、PFドラッカー、上田惇生編訳、2001、ダイヤモンド社
 入門・医療倫理1、赤林朗編、2005、勁草書房
 リーダーシップ、Harvard business review、2002、ダイヤモンド社

医療マネジメント【夜】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ①医療マネジメントとは？そして、今なぜ医療マネジメントなのか？
患者医師関係を中心に医療の歴史を振り返ったあと、医療をマネジメントすることの必要性とその方法論を解説する。
- ②マネジメントとは？
ドロッカーのマネジメントの理論を概観し、医療の現場においてマネジメントに何ができるのかを考える。
- ③医療において何が問題なのか 1
医療サービスの支払い方式を中心に各国と日本の医療保障制度を比較検討し日本の医療の問題点を浮きぼりにする。
- ④医療において何が問題なのか 2
医療費を適正化し医療の質を向上させるために何が課題なのかを解説する。
- ⑤医療において何が問題なのか 3
医療従事者に必要な意識改革と患者に必要な意識改革について述べる。
- ⑥医療マネジメントの基礎知識 1 1.医療と医療の費用に関わる法制度の変遷
2.DPCの正しい理解と実践のために
- ⑦医療マネジメントの基礎知識 2 医療従事者のための医療経済学と医療政策
医療における経済的評価の理論と実際を、実例を挙げながらわかりやすく解説する。
また、医療政策が何を指すべきかについて概説する。
- ⑧医療マネジメントの基礎知識 3 生き残りのための経営戦略
基準病床数の存在や医局制度による人事など、医療機関の経営戦略の特異性に言及しながら、医療機関の生き残りのためのマネジメントを解説する。
- ⑨医療マネジメントの基礎知識 4 収益管理とコスト管理
医療においては、「収益管理からコスト管理へ」の時代と言われる。その背景と具体的なマネジメントについて解説する。また、資金管理と投資、資金調達についても触れる。
- ⑩医療マネジメントの基礎知識 5 組織を活性化するために
人材管理やチームマネジメント、TQM、オペレーションマネジメントについて解説する。
- ⑪医療マネジメントの基礎知識 6 医療機関のICT戦略と安全管理
医療機関のICTの発達とともに安全管理の取り組みも大きく変貌している。医療機関のICT戦略と見逃しがちな安全管理の落とし穴について詳説する。
- ⑫医療マネジメントに求められる医療倫理とは？
実例として、尊厳死を求める瀕死の患者の家族に医療現場はどう対応すればいいのか - を考えながら、「医療倫理」の問題点と必要性を解説する。あわせて患者満足についても考える。
- ⑬リーダーシップに関する最近の考え方
ハーバードビジネススクール等におけるリーダーシップの最近の理論を概観する。
- ⑭医療マネジメントのためのリーダーシップ
医療現場におけるリーダーシップの特異性を考察する。その上で、職種にかかわらず地域と医療現場のリーダーとなることの必要性和可能性について述べる。
- ⑮まとめにかえて 医療事故謝罪記者会見シミュレーション
医療事故は、まさかのものではなく残念なことにごく身近なものになっている。あなたの現場でも起こりうる医療事故を想定し、現役の報道記者にも立ち会ってもらい、謝罪記者会見のシミュレーションを行う。このシミュレーションを通じて医療マネジメントの意義を総括したい。

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み（毎回講義終了後にレポートを提出） 50%、
レポート（すべての講義終了後に提出） 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

授業は、「つづきもの」として連続性を持たせた授業計画になっています。仕事や家庭を持った学生が大半で、100%の出席は無理であるという実情に配慮して、授業の始めに前回分を簡単に振り返ったあとで新しい内容の講義に入る予定です。したがって2回つづけては欠席しないように配慮してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

医療マネジメントは、医療従事者のみのものと考えられがちですが、「賢い患者」として効率的に医療を利用するためにもきわめて有用な情報を提供してくれます。医療従事者以外の方でも、少しでも関心のある方は、ぜひ気楽な気持ちで履修してください。
また、基礎知識や医療現場の実体験がなくても、講義を楽しみながら「医療マネジメント力」を身につけることができるように、授業計画と内容を工夫したつもりです。

キーワード /Keywords

医療問題、マネジメント、医療経済学、コスト管理、医療政策、患者満足度、医療倫理、リーダーシップ

福祉マネジメント【夜】

担当者名 /Instructor 今村 浩司 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	理論知識		
	実践知識	○	福祉マネジメントに関連する専門的知識とマネジメントツールを習得する。
技能	分析解決技能	○	福祉の現場における課題を適切に抽出し、分析する力を身につける。
	実務技能		
	新規事業技能		
態度	倫理観態度	○	福祉の専門的知識に裏付けられた、高い倫理観を身につける。
	企業変革態度		
	地域リーダー態度	○	地域のリーダーとして福祉マネジメントに関する諸問題に積極的に取り組むことができる。
	国際協調態度		

※ ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

※ 2013年度以降入学生が対象です。

福祉マネジメント

授業の概要 /Course Description

社会福祉の分野では、現代社会の変遷とともに、より高度で多様化したサービスの提供が求められるようになってきた。それに応えるためには、安定的かつ効率的な組織運営、経営管理を担うマネジメント能力が必要である。さらには、福祉サービスを必要とする利用者に対して、直接的な援助活動はもとより、福祉事業の経営管理、福祉施策・制度についての知識も必要不可欠である。

そこで本講義では、社会福祉サービスの提供の実態を把握した上で、マネジメントの対象である人、専門職、組織等を中心に、社会福祉サービスにおける問題を多面的視点から捉え、分析できるための基本的な知識を習得することを目標に進めていく。

教科書 /Textbooks

特に指定なし。適宜、資料を配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義内で、随時提示、紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ① イントロダクション
- ② 現代社会と社会福祉
- ③ 社会福祉の現状
- ④ 社会福祉の目標
- ⑤ 社会福祉サービスの実際(1)
- ⑥ 社会福祉サービスの実際(2)
- ⑦ 社会福祉サービスの実際(3)
- ⑧ 社会福祉サービスの実際(4)
- ⑨ 福祉領域における経営戦略
- ⑩ 福祉領域におけるリスクマネジメント
- ⑪ 福祉領域におけるリーダーシップ
- ⑫ 福祉マネジメントの課題
- ⑬ 福祉マネジメントの展望
- ⑭ まとめ(1)
- ⑮ まとめ(2)

成績評価の方法 /Assessment Method

課題に対してのレポート、プレゼン50%、講義に対する参加度と貢献度50%を目安として総合的に成績評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

福祉マネジメント【夜】

履修上の注意 /Remarks

高齢者、障害者、児童等を取りまく社会問題についての状況を把握しておくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

主体的な学びを促すため、事前・事後のレポートやプレゼンを課す場合がある。

キーワード /Keywords

福祉マネジメント、福祉ビジネス、地域社会、社会問題、組織運営、経営管理

ビジネス中国語【夜】

担当者名 /Instructor 松下 丹紅 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

相手とのコミュニケーションはビジネスが成功するか否かの鍵となります。この授業は中国出張や中国訪問する際に、中国の方と直接コミュニケーションを取ることが出来るようになることが目標です。中国語の基礎を強化しながら、実践的なビジネス中国語会話を学びます。また、この授業を通じて、中国式のコミュニケーションや中国の商習慣、及び中国社会の実情等についても理解が深められます。ある程度の中国語の基礎をお持ちの方の受講が望ましいです。

教科書 /Textbooks

中国語初級テキスト
『仕事のための基礎中国語』（金星堂）2600円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて指定。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ①発音の総復習、中国語による自己紹介等
- ②出迎えの時の会話
- ③車での移動、車内での会話
- ④ホテルでの会話
- ⑤会社見学、天気に関する会話
- ⑥数字や時間の表現
- ⑦電話を受ける時の会話
- ⑧⑨お金（人民元）の勉強、価格交渉
- ⑩⑪接待、決まり文句、フレーズ等
- ⑫⑬出張
- ⑭総復習
- ⑮テスト

成績評価の方法 /Assessment Method

講義への参加姿勢（30%）、終了テスト（70%）によって評価。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

必要があればその都度連絡します。
国際経営を履修しておくことが望ましい

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

失敗を恐れず、恥ずかしがらずに発音することと予習復習が重要です。皆さんの語学力の更なる向上を期待しています。

キーワード /Keywords

中国語会話 中国の実情 中国の伝統習慣 中国的発想

自治体政策【夜】

担当者名 南 博 / MINAMI Hiroshi / 地域戦略研究所
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	理論知識	○	自治体政策に関連する専門的知識を修得する。
	実践知識	○	自治体政策に関連する政策ツールを理解し、活用方法を習得する。
技能	分析解決技能	○	地域の課題を適切に把握し、解決に向けた分析を行う力を身につける。
	実務技能		
	新規事業技能	△	新たな政策やプロジェクトを企画する力を身につける。
態度	倫理観態度		
	企業変革態度		
	地域リーダー態度	○	自治体政策の専門的知識を活用して、地域の諸問題に積極的に取り組むことができる。
	国際協調態度		

※ ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

自治体政策

※ 2013年度以降入学生が対象です。

授業の概要 /Course Description

地方分権が進む中において、自治体が企画・立案・執行する「政策」が一層重要となってきた。一方、社会経済を取り巻く諸状況が複雑化・多様化し、また自治体財政の厳しい状況が続く中、地域に望ましい政策の形成に際しては様々な課題に直面せざるをえない。こうした点を踏まえ、本授業の前半においては、自治体の政策形成の手法や仕組み、課題等を論じた上で、現在、政策のあり方に影響を与えている様々な事項や今後望まれる方向性等について総合的に考察する。後半においては、現在の自治体にとって喫緊の課題であり、かつ企業活動や市民生活とも密接な関わりを持つ「危機管理政策」および「にぎわいづくり政策」に焦点を絞り、ケーススタディを交えながら具体的な政策について考察し、自治体政策を取り巻く諸課題や政策形成手法等への理解を深める。これらを通じ、本科目のDPに掲げる到達目標に達し、自治体政策への専門性向上および実社会での応用力向上を目指す。

教科書 /Textbooks

指定しない。授業ではプリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- ・ 幸田雅治・坂弘二(2007年)『自治体職員研修講座 政策形成・自治体法務』、学陽書房
 - ・ 中邨章・市川宏雄編著(2014年)『危機管理学 - 社会運営とガバナンスのこれから』、第一法規
 - ・ 『月刊 ガバナンス』、ぎょうせい
 - ・ 『月刊 地方自治職員研修』、公職研
- その他、必要に応じ、適宜授業中に紹介する。

自治体政策【夜】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ① イントロダクション
【自治体政策のめざすもの】【政策の責任】
- ② 政策形成プロセス
【PDCAサイクル】【市民意識の把握】【合意形成】
- ③ 国、広域自治体、基礎自治体の果たすべき政策上の役割
【地方分権】【規制緩和】【自治体間競争】
- ④ 政策の推進主体を巡る近年の議論
【地方制度改革】【広域連携】【PPP】
- ⑤ 政策の内容を巡る近年の議論
【市民協働】【安全・安心】【地域活性化】【受益と負担】
- ⑥ 政策の評価
【行政評価】【成果指標】【協働型評価】
- ⑦ 政策研究I：危機管理政策（1）
【危機とリスク】【リスクマネジメント・サイクル】
- ⑧ 政策研究I：危機管理政策（2）
【被害抑止・軽減】【応急対応】【復旧・復興】
- ⑨ 政策研究I：危機管理政策（3）
【自治体BCP (Business Continuity Plan)】【情報伝達】
- ⑩ 政策研究I：危機管理政策（4）
【ケーススタディ：高齢社会における安全・安心】
- ⑪ 政策研究II：にぎわいづくり政策（1）
【地域経済】【中心市街地活性化】【観光政策】
- ⑫ 政策研究II：にぎわいづくり政策（2）
【産学官金民連携】【補助金行政の功罪】
- ⑬ 政策研究II：にぎわいづくり政策（3）
【ケーススタディ：小倉駅周辺活性化策1】【拠点整備】
- ⑭ 政策研究II：にぎわいづくり政策（4）
【ケーススタディ：小倉駅周辺活性化策2】【回遊性】【波及効果】
- ⑮ まとめ（総合討論）

成績評価の方法 /Assessment Method

期末レポート50%、授業の状況（質疑、意見等）50%をもとに総合的に評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

理論面に加え、できるだけ直近の自治体政策の動向への理解が深まるよう、ゲストスピーカーを招いたディスカッション等を予定している。自治体政策のトピックの直近動向や履修者の関心等を鑑みたく上で、授業計画について若干の変更を行う可能性がある。

キーワード /Keywords

政策形成、地方分権、規制緩和、危機管理、にぎわいづくり

モノづくり競争力の強化【夜】

担当者名 /Instructor 雨澤 政材 / マネジメント研究科 専門職学位課程

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	理論知識	
	実践知識	○ 生産や製造に関するマネジメントに必要な専門的知識を習得する。
技能	分析解決技能	
	実務技能	○ 生産や製造に関する問題点を適切に把握する能力を身につける。
	新規事業技能	
態度	倫理観態度	
	企業変革態度	○ 生産や製造に関する問題点を解決し、変革の道筋を提示する能力を身につける。
	地域リーダー態度	
	国際協調態度	

※ ◎: 強く関連 ○: 関連 △: やや関連

※ 2013年度以降入学生が対象です。

モノづくり競争力の強化

授業の概要 /Course Description

わが国は、資源小国であり、製造業が勝ち残るためには、モノづくりの競争力で世界に優位でなければならない。メイド・イン・ジャパンとして、世界トップのものづくり大国だった日本は80年代には勤勉さがもたらした高品質でその優位を保ってきたが、いまやそれだけでは追いついてきている諸国に足元を脅かされてきている。この現状を踏まえ、今後モノづくり競争力をどのような方法で強化すべきかを実務家の視点から、人材育成と工場運営のあり方、生産性の重要性、生産技術などに重点をおいて、その対策について、事例を紹介しながら解説する。

教科書 /Textbooks

特に指定しない、プリントを配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

その都度指定する

モノづくり競争力の強化【夜】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

講義方式に加えて、DVDやプロジェクターを活用し、分かりやすい解説を心がける。質疑応答の時間を十分に取、理解を深めてもらう。

- ① モノづくり企業に求められる競争力
【開発からアフターサービス】【商品開発力】【生産技術力】【工場運営能力】
【宣伝・販売力】
- ② 工場管理概論
【企業による工場の位置づけ】【工場管理の基本】【工場の持つべき要件】
- ③、④ 工場における労務管理
【労務管理の変遷】【労務の多様化】【世界・日本・九州の労働市場の現状と将来】
- ⑤、⑥ 原価管理
【原価管理の体系】【原価構成・費目区分】【開発段階での原価改善】【製造原価の把握と改善】
- ⑦、⑧ 品質管理
【トヨタの品質管理】【お客様指向】【停めるライン、止まる機械】
【自工程完結思想】【トレーサビリティ】【日常管理】【変化点管理】
- ⑨ トヨタ生産方式の生まれた背景
【トヨタの歴史】【経営理念】【トヨタ生産方式とは】【トヨタ生産方式は展開が難しい】
- ⑩ トヨタ生産方式の特徴
【限りない原価低減】【TPS2本の柱】【TPSの広がり】
- ⑪ トヨタ生産方式の基本的な手法
【5S】【職場の見える化】【ムダの削減・排除】【生産ラインの作り方】
- ⑫ トヨタ生産方式の具体的な改善の進め方
【基本姿勢】【改善の切り口】【生産仕掛けの改善】【人の動きの改善】【物流・品質改善】
- ⑬ 人材育成と技能伝承・製造現場のモチベーション管理
【標準化と技能伝授】【ワーキングライフプラン】【チームプレーという現場風土の伝承】【インセンティブ制度の功罪】【公平な人事制度】
- ⑭、⑮ 工場における実践事例見学
トヨタ自動車九州(株)のレクサスラインで確認(1月の祝日に実施)

成績評価の方法 /Assessment Method

課題についてのレポートで評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

必要があればその都度連絡します。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ソーシャル・ビジネス【夜】

担当者名 /Instructor 松永 裕己 / マネジメント研究科 専門職学位課程

履修年次 /Year 1年次
 単位 /Credits 2単位
 学期 /Semester 1学期
 授業形態 /Class Format 講義
 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	理論知識	
	実践知識	◎ ソーシャルビジネスに関連する専門的かつ実践的知識を習得する。
技能	分析解決技能	
	実務技能	
	新規事業技能	○ ソーシャルビジネス分野での新規事業構想力を身につける。
態度	倫理観態度	○ 社会問題に関する意識を高め、社会的責任感と倫理観を身につける。
	企業変革態度	
	地域リーダー態度	○ 地域やコミュニティの視点からソーシャルビジネスを構想する力を修得する。
	国際協調態度	

※ ◎: 強く関連 ○: 関連 △: やや関連

※ 2013年度以降入学生が対象です。

ソーシャル・ビジネス

授業の概要 /Course Description

近年、社会的課題をビジネスのスキームを用いて解決しようとする「ソーシャルビジネス」への期待が高まっている。本講義では、まず経済社会におけるソーシャルビジネスの位置づけを整理したうえで、ソーシャルビジネスの現状を理解する。そのうえで、ソーシャルビジネスの現場のマネジメントに関する課題について学ぶ。具体的には、解決すべき社会的課題の設定からビジネスモデルの作成までを事例やケース分析などを通じて学習する。講義では、実際にソーシャルビジネスを立ち上げ、運営していくことを想定した議論を行い、知識と実践的なマネジメント力を身につけることを目指す。

教科書 /Textbooks

教科書は使用せず、資料を配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 駒崎弘樹 『「社会を変える」を仕事にする』ちくま文庫、2011年。
- 小暮真久 『「20円」で世界をつなぐ仕事』日本能率協会マネジメントセンター、2009年。
- 上阪徹 『「カタリバ」という授業』英治出版。

その他の文献については、講義のなかで紹介する。

ソーシャル・ビジネス【夜】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ① イントロダクション
【ソーシャルビジネスとは何か】
- ② 日本におけるソーシャルビジネスの現状
【ソーシャルビジネスの現状、課題、育成策】
- ③ ミッションをつくる1 (ケースメソッド)
【社会的課題の抽出と発見の手法】
- ④ ミッションをつくる2 (ケースメソッド)
【社会的課題を解決するスキーム】
- ⑤ 事業をつくる1 (ケースメソッド)
【ソーシャルビジネスの事業構造】
- ⑥ 事業をつくる2 (ケースメソッド)
【ソーシャルビジネスにおけるビジネスモデルの特徴】
- ⑦ 中間プレゼンテーション1
【ソーシャルビジネスプランの構築と発表】
- ⑧ 中間プレゼンテーション2
【各自のプランの課題と解決方法を探る】
- ⑨ 利益をつくる1 (ケースメソッド)
【ソーシャルビジネスの顧客と収入】
- ⑩ 利益をつくる2 (ケースメソッド)
【ソーシャルビジネスの収益構造の特徴】
- ⑪ 先進事例から学ぶソーシャルビジネスのビジネスモデル
【解決すべき課題とねらうべき市場】
- ⑫ 先進事例から学ぶソーシャルビジネスの組織運営
【ソーシャルビジネスを担う組織と人材】
- ⑬ 社会をつくる1 (ケースメソッド)
【ソーシャルビジネスからソーシャルイノベーションへ】
- ⑭ 社会をつくる2 (ケースメソッド)
【社会をデザインする】
- ⑮ ソーシャルビジネスプラン・プレゼンテーション
【プレゼンテーションとディスカッション】

成績評価の方法 /Assessment Method

講義への貢献度 (発言回数、発表内容、建設的な議論への寄与など) : 50%、課題の内容 (レポートなど) : 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

特に準備は必要ないが、地域づくり総論やNPO / NGO実践論を併せて受講すると、より理解が深まると思われる。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ソーシャルビジネス、社会課題、NPO、CSR、CSV

医療経済【夜】

担当者名 /Instructor 舟谷 文男 / マネジメント研究科 専門職学位課程

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	理論知識	○	医療経済に関連する専門的知識を修得する。
	実践知識		
技能	分析解決技能		
	実務技能		
	新規事業技能		
態度	倫理観態度		
	企業変革態度		
	地域リーダー態度	○	地域のリーダーとして医療経済に関する諸問題に積極的に取り組むことができる。
	国際協調態度		

※ ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

※ 2013年度以降入学生が対象です。

医療経済

授業の概要 /Course Description

医療は人間社会にとって必須の公共的社会サービスであり、社会保障制度の一つとして重要な役割を担っている。また、医学・医療技術は日進月歩の発展をみているが、その恩恵を、いつでも、誰でも、どこでも受けられる医療システムの仕組みはどのように構築すべきか、その社会コストを誰が支払うのか、人の命を救う価格は決められるのか、医療サービスを提供する専門職種や医療施設はどのような組織構造を持っているのか、経世済民の視点から、医療経済学の基本を幅広く理解させる。

教科書 /Textbooks

なし。(Power Point 講義資料のプリントを配布)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

厚生労働省編『厚生白書』、真野俊樹著『入門医療経済学』中公新書、的場恒孝編『医療科学入門』南江堂、厚生労働省編『国民衛生の動向』

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ① 医療経済学概論
- ② 医療需要・供給関係
- ③ 社会保障と医療
- ④ 医療サービスの値段
- ⑤ 医療サービス資源とその動向
- ⑥ プライマリーケアと産業保健
- ⑦ 医療の人的資源と労働
- ⑧ 医療保障と地域医療
- ⑨ 医療の安全管理 1【医療事故】
- ⑩ 医療の安全管理 2【防災・減災】
- ⑪ 医療情報システム
- ⑫ 医療評価
- ⑬ 地域の保健・医療・福祉の一体化・地域包括ケア
- ⑭ 医療経済学の研究手法と論文作成の要点
- ⑮ 21世紀のパラダイムシフト：医療経済学まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

課題レポートの評価(70%)、日常の授業への取り組み(30%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

新聞などマスコミが取り上げる医療問題、介護福祉問題に絶えず関心を持ち続けること。特に規定しないが、「公共経済学」を履修することが望ましい。

医療経済【夜】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

医療は特殊な分野と捉えられがちであるが、全ての事業と共通する人材管理・育成が基本であることを念頭に受講して下さい。

キーワード /Keywords

社会保障、医療需要、医療供給資源、人材管理・育成、診療報酬制度、地域医療計画、医療安全、医療情報システム、医療評価、地域包括ケア

社会保障【夜】

担当者名 鬼崎 信好 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	理論知識	○ 社会保障に関連する専門的知識を修得する。
	実践知識	
技能	分析解決技能	
	実務技能	
	新規事業技能	
態度	倫理観態度	
	企業変革態度	
	地域リーダー態度	○ 地域のリーダーとして社会保障に関する諸問題に積極的に取り組むことができる。
	国際協調態度	

※ ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

※ 2013年度以降入学生が対象です。

社会保障

授業の概要 /Course Description

社会保障、社会福祉の概念(定義)は、その国の歴史的・文化的・社会的な背景によって異なります。また、OECDやEUにおいてはSocial Protectionなどの用語が用いられることが多くなっています。これらの用語は多義的であり、その国によって独自の意味合いで用いられることも多くなっています。そこで、社会保障や社会福祉等の概念整理をした上で、わが国を中心にして社会保障の理解に努めていきたいと考えています。

教科書 /Textbooks

- ・ 鬼崎信好編『コメディカルのための社会福祉(第2版)』講談社、2014年。
- ・ 『社会福祉小六法 2014』中央法規出版、2014年。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

- ・ 鬼崎信好『高齢者介護サービス論』中央法規出版、2014年。
- ・ 鬼崎ほか編『世界の介護事情』中央法規出版、2002年。
- ・ 鬼崎信好編『四訂 社会福祉の理論と実際』中央法規出版、2007年。
- ・ 社会保障編集委員会編『社会保障入門 2014』中央法規出版、2014年。
- ・ 社会福祉動向編集委員会『社会福祉の動向 2014』中央法規出版、2014年。
- ・ 『社会保障の手引き 平成26年版』中央法規出版、2014年。
- ・ 鬼崎ほか編『介護保険キーワード事典』中央法規出版、2001年。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ① 社会保障等の専門用語の整理(その1)
- ② 社会保障等の専門用語の整理(その2)
- ③ わが国における社会保障の歩み(その1)
- ④ わが国における社会保障の歩み(その2)
- ⑤ わが国における社会保障の歩み(その3)
- ⑥ 社会保障制度改革の視点の整理
- ⑦ 医療保険の現状と課題
- ⑧ 年金保険の現状と課題
- ⑨ 労働保険の現状と課題
- ⑩ 介護保険の現状と課題
- ⑪ 社会手当の現状と課題
- ⑫ 社会福祉制度改革の現状と課題
- ⑬ 海外の福祉(その1)
- ⑭ 海外の福祉(その2)
- ⑮ まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

講師と受講生(院生)との議論を基に進め、レポートの提出を求める。

社会保障【夜】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

あらかじめ課題を提示するので、必ずレポートとして提出して下さい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

受講生(院生)はルーチンワークで忙しいと考えるが、出席に努めて下さい。

キーワード /Keywords

社会福祉、ソーシャルプロテクション、慈善、救済、社会事業、社会福祉事業、
社会保険、保険原理・原則、少子高齢社会、拠出と給付

産学連携と事業創造 【夜】

担当者名 城戸 宏史 / K I D O H I R O S H I / マネジメント研究科 専門職学位課程
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	理論知識	
	実践知識	○ 事業創造に向けた産学連携にとって必要な実践的な知識を習得する。
技能	分析解決技能	
	実務技能	
	新規事業技能	○ 事業創造に向けた産学連携のコラボレーションの仕組みを具体的に提案できる。
態度	倫理観態度	
	企業変革態度	○ 企業変革を促す産学連携のコラボレーションの具体的な企画を提案できる。
	地域リーダー態度	○ 様々な地域の資源を生かした産学連携のスキームを提案できる。
	国際協調態度	
※ ◎: 強く関連 ○: 関連 △: やや関連		産学連携と事業創造

※ 2013年度以降入学生が対象です。

授業の概要 /Course Description

知識社会へのシフトによって、わが国では1990年代後半から大学や研究機関等の知的インフラの成果をいかに効果的にビジネスに結びつけるかが重要課題となっている。そのため、行政はこの10年ほど積極的に科学政策や産業政策を展開させて「産学連携」を押し進めている。しかしながら、その現場では各担い手の認識の不足やお互いのコミュニケーション不足によって多大な困難が生じており、順調に成果があがっているわけではない。よって、本講義では産学連携による新事業開発に焦点をあて、成果をあげるためのマネジメントについて事例を踏まえながら考察する。また、産学連携の成果の1つである知財の戦略については、⑦～⑩において弁護士知財ネット九州・沖縄地域会から講師を招聘し、講義を実施する。

なお、本講義の到達目標は、①知財を意識した産学連携のスキームをプランニングできる、②将来性があり現実的な産学連携プロジェクトのテーマを探索できる、③有機的かつ実践的なチーム体制を提案できる、である。

教科書 /Textbooks

適宜、プリントを配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 馬場靖憲 / 後藤晃 『産学連携の実証研究』 東京大学出版、玉井克哉
- 宮田由紀夫 『日本の産学連携』 玉川大学出版部
- 二神恭一 / 日置弘一郎 『クラスター組織の経営学』 中央経済社

産学連携と事業創造 【夜】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ①産学連携のバックグラウンド
【知識経済】【コラボレーション】【イノベーション】
- ②我が国の地域産業政策と科学政策の変遷
【技術移転】【クラスター政策】
- ③産学連携支援組織の仕組みと活動内容
【TLO】【産学連携支援組織】【コーディネート】【行政の役割】
- ④産学連携支援組織の実態と課題～クラスターマネジャーの経験から～
【チームマネジメント】【コラボレーション】【外部マネジメント】
- ⑤産学連携の実際～U教授とS社の事例から～（現場報告）
- ⑥産学連携の実際～U教授とS社の事例から～（ディスカッション）
- ⑦知的財産権の基礎【特許権】【特許申請】【商標権】
- ⑧共同研究開発計約のポイント
【秘密保持契約】【基本契約】【共同開発契約】【職務発明規定】
- ⑨産学連携プロジェクトの事業化に向けた課題I（ディスカッション）
～ケーススタディ：中堅企業K社～
- ⑩産学連携プロジェクトの事業化に向けた課題II（ディスカッション）
【マーケティング】【デスバレーの克服】【事業化体制】【事業創造】
- ⑪産学連携プロジェクトの課題III（ディスカッション）
～ケーススタディ：ベンチャー企業N社～
- ⑫産学連携プロジェクトの事業化に向けた課題II（ディスカッション）
【特許権】【ベンチャー】【研究開発】【デスバレーの克服】【戦略的提携】
- ⑬産学連携プロジェクト・プランの作成I
～テーマやリソースの探索～
【成長産業戦略】【スマート・グリッド】【EV】【感性ビジネス】【環境ビジネス】
- ⑭産学連携プロジェクト・プランの作成II
～プロジェクト体制の構築と知財への対応～
- ⑮産学連携プロジェクト・プランのプレゼンとまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

- ⑧と⑩のケーススタディに対する課題およびディスカッション（50%）
- ⑬および⑭の成果である産学連携プロジェクトプラン（30%）
- その他の日常的なディスカッションに係わる貢献度（20%）

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

知的財産権に関連する講義を2コマ実施しますが、特に法律的な知識は求めません。ただし、イノベーションや商品開発（事業創造）に対する基礎的な知識を習得していることが望ましいです。また、ポーターのクラスター論の習得をお勧めします。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

産学連携や知的財産など一般的にはとっつきにくいテーマを扱いますが、できる限りわかりやすく講義を行いますので気軽に受講してください。

キーワード /Keywords

コラボレーション、イノベーション、知的財産権、産学連携、チームビルディング、デスバレー、クラスター政策

ホスピタリティ・マネジメント【夜】

担当者名 /Instructor 田村 馨 / 北方キャンパス 非常勤講師, 平野 健二 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
									○	○		

授業の概要 /Course Description

厚生労働省の労働力調査によると、1950年以降、第3次産業の就業者数は一貫して増加傾向にある。第2次産業は1992年をピークに減少に転じた。構成比でいうと2010年の第3次産業は70.2%、第2次産業は24.8%。第2次産業は構成比ベースでいうと1973年をピーク(36.6%)に減少傾向を続ける。いわば、経済のサービス化は確実に進み、第3次産業が日本経済を牽引するリーディングセクターに位置して久しい。他方、第3次産業=低生産性産業である状況は変わっていない。何が問題であり、何をどうすれば問題は解決するのか。本講義では、マネジメントを切り口に、サービスビジネス、サービス産業の問題と課題を解明する。サービスを扱うビジネスでは、マネジメントもマーケティングもモノを扱うものとは異なることを理解し、サービスビジネスとは何かを新しい視点から解説することが受講生に求められる到達点である。

教科書 /Textbooks

教科書は使用しない。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

講義中に事前参考資料を含め紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ① サービス産業の現状と構造変化をマクロ的に展望する
【各国に共通の産業構造変化】【産業構造変化を規定する要因】
- ② サービスの特性 【モノ、情報との対比】
- ③ サービス・マーケティングとは? 【モノが対象のマーケティングとの違い】
- ④ サービス・マネジメントとは?
【フラットな組織】【ソフトリーダーシップ】【イノベーション】
- ⑤ one to oneマーケティングの必然
社会環境の変化【マスマーケティングの機能不全】【コモディティからパーソナルへ】
同質競争の激化【商圏の狭小化】【市場創出の必要性】
- ⑥ 価値の発見・定義 【資本の本質】【価値と価格】
- ⑦ 価値の伝達 【学生によるプレゼンテーション「各自が定めた商品の価値を伝える」】
- ⑧ 顧客の発見・創造
【顧客のプロファイリング】【デモグラフィー】【購買行動(顧客ID-POS)】【定性分析】
- ⑨ 情報伝達ツールの活用 【メディア特性】【AIDMA】
- ⑩ 学生によるプレゼンテーション 【価値伝達】【評価】
- ⑪ サービスをめぐる競争戦略 【ブランド】【ホスピタリティ】【標準化とローカル化】
- ⑫ 組織のダイバーシティとマネジメント 【オープン】【透明性】【分権】
- ⑬ 組織デザインとマネジメント 【鍵となるのはミッション】
- ⑭ イノベーション、クリエイティビティ 【リバース・イノベーション】【組織変革】
- ⑮ 総括

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート50%、プレゼンテーション25%、討議に対する貢献25%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

マネジメント、マーケティングに関して学部レベルの理解が求められる。講義中盤のプレゼンテーションワークには相応の事前準備が求められる。
双方型の講義スタイルで進めます。積極的な発言が受講生には求められます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

公的プロジェクト・マネジメント【夜】

担当者名 網岡 健司 / マネジメント研究科 専門職学位課程
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
									○	○		

授業の概要 /Course Description

魅力的で活力ある地域づくり・まちづくりにあたって、国・自治体等の施策や制度の単純導入あるいは企業・事業の誘致等に依存する時代は終焉しつつあり、今後は地域・コミュニティあるいはそれを構成する人々が地域の資源を活用して、自らプロジェクトを発想・企画し、事業化し、運営し進化させていく創造力が求められている。このような地域プロジェクトは、事業目的、分野、事業主体・手法等も多種多様であるが、本コースでは、いくつかの実例等を通じて、プロジェクトを牽引するリーダー（あるいはフォロワー）としてのビジョン、ミッション、パッションを学ぶことを目標とした。

教科書 /Textbooks

都度提示

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

アルビン・トフラー著「第三の波」、クリス・アンダーセン著「メーカーズ」、
広井良典著「コミュニティを問い直す」など

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ① ガイダンス
- ② 地域プロジェクト講座の概観
- ③ 地域プロジェクトの実際
- ④ 地域課題の分析、発掘
- ⑤ 公的プロジェクト開発と事業化1 (基盤整備関連)
- ⑥ 公的プロジェクト開発と事業化2 (ソフト整備関連)
- ⑦ ソーシャルビジネス分野におけるプロジェクト開発とマネジメント
- ⑧ ICT関連プロジェクト: e-PORT構想など
- ⑨ エネルギー関連プロジェクト: 東田コジェネ事業など
- ⑩ ライフスタイル関連プロジェクト: 環境バスポート事業など
- ⑪ スマートコミュニティ創造事業1 (ハード整備とエネルギーの見える化)
- ⑫ スマートコミュニティ創造事業2 (ソフト整備とコミュニティ作り)
- ⑬ これからの地域プロジェクト: スマートファブシティ構想など
- ⑭ 各自の地域プロジェクト構想の企画演習
- ⑮ 振り返りとまとめ

(* プロジェクト事例は変更することがあります)

成績評価の方法 /Assessment Method

授業時における積極的な発言 30%、課題プロジェクト 40% (レポート 20%、プレゼン 20%)、期末試験 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

2コマ連続の隔週講義を基本とします
個別の地域プロジェクトの関係者等による紹介やディスカッション等を実施

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

民間企業に所属しつつ、行政、大学、NPO等との協業で取り組んできた様々な地域プロジェクトの実例や推進主体の方々との議論などを通じた実践的な内容としていきたい。

キーワード /Keywords

コミュニティデザイン、スマートコミュニティ、創造的都市、プロシューマー

NPO / NGO実践論 【夜】

担当者名 /Instructor 奥田 知志 / マネジメント研究科 専門職学位課程

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	理論知識		
	実践知識	○	NPO活動に関連する専門的知識を習得する。
技能	分析解決技能		
	実務技能		
	新規事業技能	○	NPO活動を立ち上げ運営するために必要な力を身につける。
態度	倫理観態度	○	社会的問題に関心を持ち、的確な課題を抽出できる力を身につける。
	企業変革態度		
	地域リーダー態度	○	NPO運営の視点から、地域における諸問題に積極的に取り組むことができる。
	国際協調態度		

※ ◎: 強く関連 ○: 関連 △: やや関連

※ 2013年度以降入学生が対象です。

NPO/NGO実践論

授業の概要 /Course Description

本講義では、NPOの果たす社会的役割をより現場に近い視点から検証する。また、今後の社会におけるNPOの可能性を模索しつつ、行政、企業、地域社会との社会的協働におけるNPOの果たす役割について考察する。
 一方日本においてはNPO法制定より10年に満たず、組織、資金の脆弱さと共にNPOの存在意義そのものが問われている。なぜ行政ではなく、また企業でもなく、さらに既存の公益法人ではなく、NPOが必要とされるのかを具体的な課題と向かい合う上で検証したい。また、NPOの運営についても検討する。

教科書 /Textbooks

授業ごとに資料を配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- ① 『ホームの回復』 明石書店
 - ② 『世界のNPO』 早稲田大学出版部
 - ③ 『NPOという生き方』 PHP新書
- その他授業にて紹介

NPO / NGO実践論 【夜】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ① インTRODクシヨン
【NPOの現代的意義 - 草の根の視点から】
- ② NPO法およびNPOの現状について
【NPOとは何か】
- ③ NPOの視座-基盤としてのミッション
【使命の問題】
- ④ ボランテア論
【無償・有償ボランテア】
- ⑤ 協働論 1
【行政との協働】
- ⑥ 協働論 2
【企業との協働】
- ⑦ 協働論 3
【地域との協働】
- ⑧ NPOの実際 1
【北九州ホームレス支援機構の事例】
- ⑨ NPOの実際 2
【福祉NPOの事例】
- ⑩ NPOの実際 3
【環境NPOの事例】
- ⑪ NPOの運営について
【人材・組織・財政】
- ⑫ NPOビジネス論
【NPOとビジネス】
- ⑬ 海外のNPOの事例から 1
【アメリカの場合】
- ⑭ 海外のNPOの事例から 2
【ヨーロッパの場合】
- ⑮ まとめ
【NPOの可能性について】

成績評価の方法 /Assessment Method

授業における発表 (40%) およびレポート (60%) にて評価する

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

必要があればその都度連絡します。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

経営学特講【夜】

担当者名 /Instructor 王 効平 / Xiao-ping Wang / マネジメント研究科 専門職学位課程

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 集中 授業形態 講義 クラス 2年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
										○		

授業の概要 /Course Description

経済のグローバル化が急ピッチに進んでいる中、長期低迷に喘いできた地域経済を活性化させるために、広い視野を持ち、国際感覚を有するリーダー人材の育成が急務である。経営系専門職大学院（以下ではビジネススクール）が地域産業や社会を背負って立つリーダー養成の責務を担っており、海外ビジネススクールや企業などにおける研修・インターンなどのような、現場体験が可能な実践的教育プログラムを学生に提供することによって語学習得や異文化交流の効果を生むと共に、グローバル的なビジネスの開拓・促進に寄与することが期待されている。本特講は海外視察研修プログラムを内容とする。日本と強い相互依存関係にあり、高成長を継続させている中華圏や東南アジアにおける企業視察やビジネススクールとの直接交流を通じて、国際感覚の養成、海外ビジネスの実体験、ビジネスネットワーク（人脈）作りを狙う。時期は夏季集中講義の期間中を予定している。

教科書 /Textbooks

特定のテキストは使用しないが、研修計画書（マニュアル）を策定し、配布する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて紹介する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第一部 協定締結機構における講義受講、セミナーの共催
- 第二部 話題性がある現地企業（日系法人含む）などの視察訪問
- 第三部 ビジネス・マッチング関連の交流イベントの企画、参加
- 第四部 現地ではまたは帰校後、成果発表会の開催

成績評価の方法 /Assessment Method

- 企画準備・現地活動への参加度 50%
- 課題レポートの出来栄 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

- 一定程度の語学力を自ら身につけることが望まれる
- 出発前に求められる準備事項に責任を持って取り組むこと
- 現地では協調性を持って行動することが望まれる

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

基礎中国語【夜】

担当者名 /Instructor 王 占華 / Wang Zhanhua / アジア文化社会研究センター

履修年次 /Year 1年次
 単位 /Credits 2単位
 学期 /Semester 1学期
 授業形態 /Class Format 講義
 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	理論知識		
	実践知識		
技能	分析解決技能		
	実務技能	◎	実用的な中国語の基礎を修得する。
	新規事業技能		
態度	倫理観態度		
	企業変革態度		
	地域リーダー態度		
	国際協調態度		

※ ◎: 強く関連 ○: 関連 △: やや関連

※ 2013年度以降入学生が対象です。

基礎中国語

授業の概要 /Course Description

この授業は、中国語の発音、基礎文法、日常生活によく使用される実用会話文を身につけることを目標とする。先ず初習外国語としての中国語の基本である発音および基本文法を一部分ずつ詳しく解説した上、十分な練習を通じて身に付け、その上、実用会話が中心になっている場面で編成された本文について読解と音読の訓練を行う。また、日文中訳と中文日訳等の練習を通じて、両国語の特徴に対する理解を深める。2学期の「ビジネス中国語」を学習するため基礎を固める。なお、将来中国語検定試験などの就職に役立てる能力試験を受けるため、語学資格検定の試験問題も紹介し、練習する。

教科書 /Textbooks

『比較中国語 [実用・基礎編]』 (プリント)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『中国語コミュニケーションステップ24』(胡金定 他著 白帝社)
- 『中国を歩こう』(陳淑梅 他著 金星堂)
- 『中国語学概論』【改訂版】(王占華 他著 駿河台出版社)
- 『就職に役立てる中国語』【改訂版】(王占華 他著 駿河台出版社)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. 中国語概説・単母音と声調
2. 子音と複母音
3. 鼻母音・音節と音便・教室用語
4. 発音の復習とまとめ
5. 「自己紹介」(判断文・疑問文1・人称代名詞)
6. 復習と実用練習
7. 「空港で」(授受表現・存在表現・疑問文2)
8. 復習と実用練習
9. 「両替」(願望表現・数字・場所)
10. 復習と実用練習
11. 「道を尋ねる」(方位表現・移動表現・禁止表現)
12. 復習と実用練習
13. 「乗り物に乗る」(動作の進行・状態の持続・動作の実現)
14. 「宿泊」(可能表現・時点・時量)
15. 復習と実用練習

[受講者の学習経験の有無と要望に応じて、テキストや授業内容又はスケジュールを調整することがある。その際にテキストの代わりにプリントを配布する。]

基礎中国語【夜】

成績評価の方法 /Assessment Method

普段の練習50%、期末試験50%の割合で評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

確認と復習として、文法規則としての重要性、文例としての実用性、使用頻度の角度から文字及び口頭による常用短文の作文、中→日、日→中双方向の訳などの練習を課する。コミュニケーションの基礎としての代表的な文例について、活用できるように要求するので、積極的な練習を望んでいる。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

中国語の発音 中国語の基礎文法 中国語の実用会話 中国語能力試験 中国事情

アジア型経営 【夜】

担当者名 /Instructor 王 効平 / Xiao-ping Wang / マネジメント研究科 専門職学位課程, 岸本 千佳司 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
										○		

授業の概要 /Course Description

この20数年、日本経済の対東アジア依存度が大幅に高めてきた。東アジア域内でも特に市場としての中華地域（中国大陸、台湾、香港・マカオ、シンガポール）、ビジネスパートナーとしての中華系資本（中華地域の資本に、地域外の華僑・華人系資本を）との結び付きが日増しに深まってきている。こうした現実に鑑み、本講義では日本企業の対東アジアビジネス展開に必要とされるこうした現地企業の経営様式（企業制度と経営システムの特徴、競争優位性など）に関する体系的知識と分析視点を学ぶことにウェイトをおいている。前半においては儒教文化の影響下にある中華系企業の経営様式の共通性を取り上げ、後半では個別（台湾系や香港系、中国大陸民営系、ASEAN華人系）の資本グループの特殊性に光を当てる。全体を通して、日本企業との比較を心掛けていく。

教科書 /Textbooks

手作り資料を配布していく予定

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

大橋英夫、丸川智雄著 『中国企業のルネサンス』 岩波書店
 王効平、尹大栄、米山茂美著 『日中韓企業の経営比較』 税務経理協会
 王効平著 『華人系資本の企業経営』 日本経済評論社
 末廣昭著 『ファミリービジネス論』 名古屋大学出版会
 担当者が執筆した関係調査報告資料

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ① イントロダクション：なぜ東アジアか？
 【儒教資本主義】、【開発独裁】、【キャッチアップ型工業化】
- ② 儒教文化圏の財閥企業
 【韓国系財閥】、【中華系財閥（含【華人系財閥】）】
- ③ 東アジア財閥系企業の経営様式I
 【企業統治構造】、【優位性と脆弱性】、【事業継承】
- ④ 東アジア財閥系企業の経営様式II
 【経営の内部特性】、【戦略立案】、【組織特性】
- ⑤ 東アジア財閥系企業の経営様式III
 【管理システム】、【財務構造】
- ⑥ 「ネットワーク重視型」の特性とは
 【生活文化と企業文化】、【資本関係】、【取引関係】
- ⑦ 中国民営企業の経営制度
 【民営化とMBO】、【私営企業】、【独立取締役】
- ⑧ 中国民営企業の経営システム
 【意思決定】、【シビアな業績評価】、【短期雇用契約】
- ⑨ 台湾系企業の経営制度
 【オーナー経営者】、【鶏頭牛後】
- ⑩ 台湾系企業の経営システム
 【意思決定】、【帰属意識】、【管理システム】
- ⑪ 台湾系企業の産業クラスターと創業・新事業支援体制
 【分業構造】、【企業間ネットワーク】、【サイエンスパーク】 【イノベーションシステム】 【ベンチャー支援】
- ⑫ 台湾系企業の競争優位性
 【受託製造業（OEM / ODM）】 【Global Value Chain (GVC)】 【アップグレードング】
- ⑬ ASEAN華人系企業の経営制度
 【土着民優遇政策】、【同族企業】
- ⑭ ASEAN華人系企業の経営システム
 【儒商と利益志向】、【事後合理性重視】、【マーケティング戦略】
- ⑮ 総合討論

成績評価の方法 /Assessment Method

課題レポートの提出状況・完成度 50%、討議参加の積極さ50%

アジア型経営 【夜】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

- ◇ 関係資料のウェブアップロード
- ◇ 事前配布資料の予習をした上の受講が望ましい
- ◇ 「国際経営」との同時受講が受講済みが望ましい
- ◇ 課題提出期限の厳守

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

- ◇ 双方向のコミュニケーションを心掛けて進めたいので、積極的な発言、質疑を期待しています

キーワード /Keywords

自治体経営【夜】

担当者名 /Instructor 永津 美裕 / NAGATU YOSHIHIRO / マネジメント研究科 専門職学位課程

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
										○		

授業の概要 /Course Description

「民間にできることは民間に」、「地方にできることは地方に」という基本的な考え方の下に推進された地方交付税改革等の「三位一体の改革」などにより、地方財政は大きな転機に直面した。さらに政権交代による「地域主権戦略大綱」の閣議決定、鹿児島県阿久根市等の混乱を契機とした首長と議会の二元制のあり方を含む地方自治法の見直しや、大阪都構想をはじめとした政令指定都市を含む大都市制度の見直しなどが、地方制度調査会で検討が進められ、2013年に答申された。

これまで自治体の政策の自由度を高める規制改革は進められているが、住民自治の拡充や税財源の改革は今後の大きな課題となっている。自治体経営においては、民間企業と同様にヒト、カネ、モノなどの資源を活用して、地域を効率的・効果的、かつ持続可能に経営していくことは変わらない。そのため自治体の人事・組織、税財政、資産などの仕組みなど公共セクターの特性を十分に理解したうえで、福祉・医療、都市計画など個別の政策分野を通して、自治体の経営戦略、ガバナンスの課題、方向等について学ぶ。

教科書 /Textbooks

授業の際に、必要に応じて資料を配布します

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『行政学(新版)』(2001年)、『行政の活動』(2000年) 西尾勝 有斐閣
- 『地方財政論入門』(2009年) 佐藤主光 新世社
- 『ホーンブック 地方自治』(2011年) 磯崎初仁等 北樹出版
- 『人口減少時代の自治体経営改革』(2013年) 大庫直樹 時事通信社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ① 地方自治体を取り巻く社会・経済環境の変化
【少子・高齢化等、地域経済の停滞】
- ② 地方自治体の組織・人事制度・倫理
【組織・権限、公務員倫理】
- ③ 地方分権改革などの動き
【地方分権、自治法の改正などの動き】
- ④ 特定課題テーマ
【ゲストスピーカー講義、学生との意見交換】
- ⑤ 議会
【議会の役割、課題】
- ⑥ 地方自治体の財政制度I
【国と地方財政制度の特色】
- ⑦ 地方自治体の財政II
【財政構造、一般会計・特別会計・企業会計など】
- ⑧ 地方自治体の財政III
【財政を分析する】
- ⑨ 地方自治体の計画・行政評価
【基本構想など計画、行政評価】
- ⑩ 地方自治体の政策I
【保健・福祉・医療政策】
- ⑪ 地方自治体の政策II
【教育、地域づくり政策】
- ⑫ 地方自治体の政策III
【都市計画】
- ⑬ 課題発表、議論
【学生による発表、論議】
- ⑭ 監査、住民訴訟など
【内部統制】
- ⑮ まとめ
【これからの自治体経営の課題】

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート、課題に対するプレゼンテーション(70%)、授業の状況(質疑、意見、発表等30%)をもとに総合的に評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

自治体経営 【夜】

履修上の注意 /Remarks

授業の際に必要ながあれば、その都度連絡します。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

学生の皆さんの活発な議論や質疑を期待します。

キーワード /Keywords

企業法務とリスクマネジメント【夜】

担当者名 /Instructor 吉浦 初音 / マネジメント研究科 専門職学位課程

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	理論知識	
	実践知識	○ 企業活動に関連する法律事務とリスクマネジメントについての専門的知識を習得する。
技能	分析解決技能	◎ 企業法務における課題を発見し、適切なリスクマネジメントを行える能力を身につける。
	実務技能	
	新規事業技能	
態度	倫理観態度	
	企業変革態度	○ 企業法務およびリスクマネジメントの観点から企業変革に携わることができる。
	地域リーダー態度	○ 地域のリーダーとしての自覚を持ち、リスクマネジメントに取り組むことができる。
	国際協調態度	

※ ◎: 強く関連 ○: 関連 △: やや関連

企業法務とリスクマネジメント

授業の概要 /Course Description

近年のコンプライアンス（法令遵守）重視の社会的要請や契約社会化の流れを受け、法的リスク・コントロールは、今や企業規模に関係なく全ての経営者・マネジメント層の必須スキルと言える。とはいえ経営層に必要なのは細かな法律知識や法解釈の能力ではなく、ビジネス遂行上のリスクに気づき、その解決や予防のため弁護士等の専門家を活用できるスキルである。本講義では、総論（①～④）で企業運営や事業遂行を貫く法原理を概観した後、各論（⑤～⑩）ではビジネスの様々な局面を規律する法律を取り上げ、その保護法益を学ぶことでリスクマネジメント能力を養成する。最後に総括（⑪⑫）としてM&Aを題材に契約交渉演習を行い、リスクマネジメントの実践を感得する機会とする。

教科書 /Textbooks

なし。プリントを配布。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

西村あさひ法律事務所編「ビジネスパーソンのための企業法務の教科書」2012年 文春新書
中島茂「最強のリスク管理」2012年 金融財政事情研究会

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ① 企業法務とリスクマネジメント序論～なぜ企業に法令遵守が求められるのか
- ② 取締役責任とリスクマネジメント【会社法】
- ③ ビジネス取引の基本～契約自由の原則と修正によるFairnessの追求
- ④ 法的紛争の解決と弁護士の活用【民事訴訟法】
- ⑤ 公正な競争(1) 私的独占・カルテル【独占禁止法】
- ⑥ 公正な競争(2) 不当な取引制限【独占禁止法、下請法】
- ⑦ 企業情報の保護と知財戦略【不正競争防止法、知的財産法】
- ⑧ BtoC取引における消費者保護【消費者契約法、個人情報保護法】
- ⑨ 人事労務に関する法規制【労働法】
- ⑩ 上場企業の義務とインサイダー取引規制【金融商品取引法】
- ⑪ 国際取引における法的留意点【租税法、輸出入管理法、外国公務員贈賄規制】
- ⑫ M&A(1) 企業買収の流れ
- ⑬ M&A(2) 買収契約書と法規制【独占禁止法】
- ⑭ リスクマネジメント演習(1) M&A買収対象企業のリスク評価
- ⑮ リスクマネジメント演習(2) M&A契約交渉

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への貢献度（質疑、発言等）：30%、小テスト：30%、リスクマネジメント演習（交渉内容、チームへの貢献等）：40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

企業法務とリスクマネジメント 【夜】

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

真に尊敬される経営者は、Fairness（公平性）やIntegrity（高潔性）を備えています。法律とはステークホルダー間の利害を調整するためのルールであり、ビジネス法を学ぶことで、こうした経営者の資質を磨いてほしいと考えています。

キーワード /Keywords

グループ・ディスカッションI【夜】

担当者名 /Instructor 王 効平 / Xiao-ping Wang / マネジメント研究科 専門職学位課程

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	理論知識	
	実践知識	○ 主体的に討議に参画し適切な知見を提供できる能力を身につける。
技能	分析解決技能	◎ 実践的な研究テーマについて現実的な計画書を作成できる能力を身につける。
	実務技能	
	新規事業技能	
態度	倫理観態度	
	企業変革態度	
	地域リーダー態度	
	国際協調態度	

※ ◎: 強く関連 ○: 関連 △: やや関連

※ 2013年度以降入学生が対象です。

グループ・ディスカッションI

授業の概要 /Course Description

グループ・ディスカッションとは、討議とコミュニケーションを深めることを第一義とする。具体的には、毎回、グループ学習、グループ討議を繰り返す中で自分の研究テーマを探索、発見していく。したがって、自らのリーダーシップを発揮して主体的に議論を展開することが求められる。専任教員は議論を促すファシリテーター役を担う。成果は研究プロポーザル（研究計画書）としてとりまとめて提出する。なお、授業運営は、4名程度からなる小グループをベースとする。各グループは各週1学期の間に9名の専任教員の指導にあたるようにローテーションを組む。学生からみると9名の教員を巡回する方式であり、教員との交流が図れ、教員のリソース（専門分野など）も知ることができ。11週目から最終週までの5回の授業は、各グループ担当の教員を中心に研究プロポーザルをまとめ発表する。

教科書 /Textbooks

初回時に指示する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

初回時に指示する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

基本的な授業内容を示す。

- ①～⑩ 各専任教員のローテーションによる指導
【専門分野に応じたテーマ提供によるディスカッション】
- ⑪～⑭ 各グループ担当の専任教員による指導
【研究プロポーザル（研究計画書）作成】
- ⑮ 学生による研究プロポーザルの発表

成績評価の方法 /Assessment Method

研究プロポーザルの成果物、討議に対する貢献度などをもとにして総合的に評価する（100%）

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

必要があればその都度連絡する。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

グループ・ディスカッションI【夜】

担当者名 鳥取部 真己 / マネジメント研究科 専門職学位課程
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	理論知識	
	実践知識	○ 主体的に討議に参画し適切な知見を提供できる能力を身につける。
技能	分析解決技能	◎ 実践的な研究テーマについて現実的な計画書を作成できる能力を身につける。
	実務技能	
	新規事業技能	
態度	倫理観態度	
	企業変革態度	
	地域リーダー態度	
	国際協調態度	

※ ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

※ 2013年度以降入学生が対象です。

グループ・ディスカッションI

授業の概要 /Course Description

グループ・ディスカッションとは、討議とコミュニケーションを深めることを第一義とする。
具体的には、毎回、グループ学習、グループ討議を繰り返す中で自分の研究テーマを探索、発見していく。したがって、自らのリーダーシップを発揮して主体的に議論を展開することが求められる。専任教員は議論を促すファシリテーター役を担う。成果は研究プロポーザル（研究計画書）としてとりまとめて提出する。
なお、授業運営は、4名程度からなる小グループをベースとする。各グループは各週1学期の間に9名の専任教員の指導にあたるようにローテーションを組む。学生からみると9名の教員を巡回する方式であり、教員との交流が図れ、教員のリソース（専門分野など）も知ることができ。11週目から最終週までの5回の授業は、各グループ担当の教員を中心に研究プロポーザルをまとめ発表する。

教科書 /Textbooks

初回時に指示する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

初回時に指示する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 基本的な授業内容を示す。
- ①～⑩ 各専任教員のローテーションによる指導
【専門分野に応じたテーマ提供によるディスカッション】
 - ⑪～⑭ 各グループ担当の専任教員による指導
【研究プロポーザル（研究計画書）作成】
 - ⑮ 学生による研究プロポーザルの発表

成績評価の方法 /Assessment Method

研究プロポーザルの成果物、討議に対する貢献度などをもとにして総合的に評価する（100%）

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

必要があればその都度連絡する。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

グループ・ディスカッションI【夜】

担当者名 城戸 宏史 / K I D O H I R O S H I / マネジメント研究科 専門職学位課程
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	理論知識	
	実践知識	○ 主体的に討議に参画し適切な知見を提供できる能力を身につける。
技能	分析解決技能	◎ 実践的な研究テーマについて現実的な計画書を作成できる能力を身につける。
	実務技能	
	新規事業技能	
態度	倫理観態度	
	企業変革態度	
	地域リーダー態度	
	国際協調態度	

※ ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

※ 2013年度以降入学生が対象です。

グループ・ディスカッションI

授業の概要 /Course Description

グループ・ディスカッションとは、討議とコミュニケーションを深めることを第一義とする。

具体的には、毎回、グループ学習、グループ討議を繰り返す中で自分の研究テーマを探索、発見していく。したがって、自らのリーダーシップを発揮して主体的に議論を展開することが求められる。専任教員は議論を促すファシリテーター役を担う。成果は研究プロポーザル（研究計画書）としてとりまとめて提出する。

なお、授業運営は、4名程度からなる小グループをベースとする。各グループは各週1学期の間に9名の専任教員の指導にあたるようにローテーションを組む。学生からみると9名の教員を巡回する方式であり、教員との交流が図れ、教員のリソース（専門分野など）も知ることができ。11週目から最終週までの5回の授業は、各グループ担当の教員を中心に研究プロポーザルをまとめ発表する。

教科書 /Textbooks

初回時に指示する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

初回時に指示する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

基本的な授業内容を示す。

- ①～⑩ 各専任教員のローテーションによる指導
【専門分野に応じたテーマ提供によるディスカッション】
- ⑪～⑭ 各グループ担当の専任教員による指導
【研究プロポーザル（研究計画書）作成】
- ⑮ 学生による研究プロポーザルの発表

成績評価の方法 /Assessment Method

研究プロポーザルの成果物、討議に対する貢献度などをもとにして総合的に評価する（100%）

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

必要があればその都度連絡する。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

グループ・ディスカッションI【夜】

担当者名 /Instructor 越出 均 / マネジメント研究科 専門職学位課程

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	理論知識	
	実践知識	○ 主体的に討議に参画し適切な知見を提供できる能力を身につける。
技能	分析解決技能	◎ 実践的な研究テーマについて現実的な計画書を作成できる能力を身につける。
	実務技能	
	新規事業技能	
態度	倫理観態度	
	企業変革態度	
	地域リーダー態度	
	国際協調態度	

※ ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

※ 2013年度以降入学生が対象です。

グループ・ディスカッションI

授業の概要 /Course Description

グループ・ディスカッションでは、討議とコミュニケーションを深めることを第一義とする。

具体的には、毎回、グループ学習、グループ討議を繰り返す中で自分の研究テーマを探索、発見していく。したがって、自らのリーダーシップを発揮して主体的に議論を展開することが求められる。専任教員は議論を促すファシリテーター役を担う。成果は研究プロポーザル（研究計画書）としてとりまとめて提出する。

なお、授業運営は、4名程度からなる小グループをベースとする。各グループは各週1学期の間に9名の専任教員の指導にあたるようにローテーションを組む。学生からみると9名の教員を巡回する方式であり、教員との交流が図れ、教員のリソース（専門分野など）も知ることができ。11週目から最終週までの5回の授業は、各グループ担当の教員を中心に研究プロポーザルをまとめ発表する。

教科書 /Textbooks

初回時に指示する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

初回時に指示する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

基本的な授業内容を示す。

- ①～⑩ 各専任教員のローテーションによる指導
【専門分野に応じたテーマ提供によるディスカッション】
- ⑪～⑭ 各グループ担当の専任教員による指導
【研究プロポーザル（研究計画書）作成】
- ⑮ 学生による研究プロポーザルの発表

成績評価の方法 /Assessment Method

研究プロポーザルの成果物、討議に対する貢献度などをもとにして総合的に評価する（100%）

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

必要があればその都度連絡する。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

グループ・ディスカッションI【夜】

担当者名 /Instructor 高橋 秀直 / マネジメント研究科 専門職学位課程

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	理論知識	
	実践知識	○ 主体的に討議に参画し適切な知見を提供できる能力を身につける。
技能	分析解決技能	◎ 実践的な研究テーマについて現実的な計画書を作成できる能力を身につける。
	実務技能	
	新規事業技能	
態度	倫理観態度	
	企業変革態度	
	地域リーダー態度	
	国際協調態度	

※ ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

※ 2013年度以降入学生が対象です。

グループ・ディスカッションI

授業の概要 /Course Description

グループ・ディスカッションでは、討議とコミュニケーションを深めることを第一義とする。

具体的には、毎回、グループ学習、グループ討議を繰り返す中で自分の研究テーマを探索、発見していく。したがって、自らのリーダーシップを発揮して主体的に議論を展開することが求められる。専任教員は議論を促すファシリテーター役を担う。成果は研究プロポーザル（研究計画書）としてとりまとめて提出する。

なお、授業運営は、4名程度からなる小グループをベースとする。各グループは各週1学期の間に9名の専任教員の指導にあたるようにローテーションを組む。学生からみると9名の教員を巡回する方式であり、教員との交流が図れ、教員のリソース（専門分野など）も知ることができ。11週目から最終週までの5回の授業は、各グループ担当の教員を中心に研究プロポーザルをまとめ発表する。

教科書 /Textbooks

初回時に指示する

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

初回時に指示する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

基本的な授業内容を示す。

- ①～⑩ 各専任教員のローテーションによる指導
【専門分野に応じたテーマ提供によるディスカッション】
- ⑪～⑭ 各グループ担当の専任教員による指導
【研究プロポーザル（研究計画書）作成】
- ⑮ 学生による研究プロポーザルの発表

成績評価の方法 /Assessment Method

研究プロポーザルの成果物、討議に対する貢献度などをもとにして総合的に評価する（100%）

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

必要があればその都度連絡する。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

グループ・ディスカッションI【夜】

担当者名 /Instructor 武田 寛 / Hiroshi Takeda / マネジメント研究科 専門職学位課程

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	理論知識	
	実践知識	○ 主体的に討議に参画し適切な知見を提供できる能力を身につける。
技能	分析解決技能	◎ 実践的な研究テーマについて現実的な計画書を作成できる能力を身につける。
	実務技能	
	新規事業技能	
態度	倫理観態度	
	企業変革態度	
	地域リーダー態度	
	国際協調態度	

※ ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

※ 2013年度以降入学生が対象です。

グループ・ディスカッションI

授業の概要 /Course Description

グループ・ディスカッションでは、討議とコミュニケーションを深めることを第一義とする。具体的には、毎回、グループ学習、グループ討議を繰り返す中で自分の研究テーマを探索、発見していく。したがって、自らのリーダーシップを発揮して主体的に議論を展開することが求められる。専任教員は議論を促すファシリテーター役を担う。成果は研究プロポーザル（研究計画書）としてとりまとめて提出する。なお、授業運営は、4名程度からなる小グループをベースとする。各グループは各週1学期の間に9名の専任教員の指導にあたるようにローテーションを組む。学生からみると9名の教員を巡回する方式であり、教員との交流が図れ、教員のリソース（専門分野など）も知ることができ。11週目から最終週までの5回の授業は、各グループ担当の教員を中心に研究プロポーザルをまとめ発表する。

教科書 /Textbooks

初回時に指示する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

初回時に指示する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

基本的な授業内容を示す。

- ①～⑩ 各専任教員のローテーションによる指導
【専門分野に応じたテーマ提供によるディスカッション】
- ⑪～⑭ 各グループ担当の専任教員による指導
【研究プロポーザル（研究計画書）作成】
- ⑮ 学生による研究プロポーザルの発表

成績評価の方法 /Assessment Method

研究プロポーザルの成果物、討議に対する貢献度などをもとにして総合的に評価する（100%）

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

必要があればその都度連絡する。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

グループ・ディスカッションI【夜】

担当者名 /Instructor 永津 美裕 / NAGATU YOSHIHIRO / マネジメント研究科 専門職学位課程

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	理論知識		
	実践知識	○	主体的に討議に参画し適切な知見を提供できる能力を身につける。
技能	分析解決技能	◎	実践的な研究テーマについて現実的な計画書を作成できる能力を身につける。
	実務技能		
	新規事業技能		
態度	倫理観態度		
	企業変革態度		
	地域リーダー態度		
	国際協調態度		

※ ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

※ 2013年度以降入学生が対象です。

グループ・ディスカッションI

授業の概要 /Course Description

グループ・ディスカッションとは、討議とコミュニケーションを深めることを第一義とする。

具体的には、毎回、グループ学習、グループ討議を繰り返す中で自分の研究テーマを探索、発見していく。したがって、自らのリーダーシップを発揮して主体的に議論を展開することが求められる。専任教員は議論を促すファシリテーター役を担う。成果は研究プロポーザル（研究計画書）としてとりまとめて提出する。

なお、授業運営は、4名程度からなる小グループをベースとする。各グループは各週1学期の間に9名の専任教員の指導にあたるようにローテーションを組む。学生からみると9名の教員を巡回する方式であり、教員との交流が図れ、教員のリソース（専門分野など）も知ることができ。11週目から最終週までの5回の授業は、各グループ担当の教員を中心に研究プロポーザルをまとめ発表する。

教科書 /Textbooks

初回時に指示する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

初回時に指示する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

基本的な授業内容を示す。

- ①～⑩ 各専任教員のローテーションによる指導
【専門分野に応じたテーマ提供によるディスカッション】
- ⑪～⑭ 各グループ担当の専任教員による指導
【研究プロポーザル（研究計画書）作成】
- ⑮ 学生による研究プロポーザルの発表

成績評価の方法 /Assessment Method

研究プロポーザルの成果物、討議に対する貢献度などをもとにして総合的に評価する（100%）

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

必要があればその都度連絡する。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

グループ・ディスカッションI【夜】

担当者名 /Instructor 任 章 / NIN Akira / マネジメント研究科 専門職学位課程

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	理論知識	
	実践知識	○ 主体的に討議に参画し適切な知見を提供できる能力を身につける。
技能	分析解決技能	◎ 実践的な研究テーマについて現実的な計画書を作成できる能力を身につける。
	実務技能	
	新規事業技能	
態度	倫理観態度	
	企業変革態度	
	地域リーダー態度	
	国際協調態度	

※ ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

※ 2013年度以降入学生が対象です。

グループ・ディスカッションI

授業の概要 /Course Description

グループ・ディスカッションとは、討議とコミュニケーションを深めることを第一義とする。具体的には、毎回、グループ学習、グループ討議を繰り返す中で自分の研究テーマを探索、発見していく。したがって、自らのリーダーシップを発揮して主体的に議論を展開することが求められる。専任教員は議論を促すファシリテーター役を担う。成果は研究プロポーザル（研究計画書）としてとりまとめて提出する。なお、授業運営は、4名程度からなる小グループをベースとする。各グループは各週1学期の間に9名の専任教員の指導にあたるようにローテーションを組む。学生からみると9名の教員を巡回する方式であり、教員との交流が図れ、教員のリソース（専門分野など）も知ることができ。11週目から最終週までの5回の授業は、各グループ担当の教員を中心に研究プロポーザルをまとめ発表する。

教科書 /Textbooks

初回時に指示する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

初回時に指示する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

基本的な授業内容を示す。

- ①～⑩ 各専任教員のローテーションによる指導
【専門分野に応じたテーマ提供によるディスカッション】
- ⑪～⑭ 各グループ担当の専任教員による指導
【研究プロポーザル（研究計画書）作成】
- ⑮ 学生による研究プロポーザルの発表

成績評価の方法 /Assessment Method

研究プロポーザルの成果物、討議に対する貢献度などをもとにして総合的に評価する（100%）

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

必要があればその都度連絡する。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

グループ・ディスカッションI【夜】

担当者名 /Instructor 松永 裕己 / マネジメント研究科 専門職学位課程

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	理論知識	
	実践知識	○ 主体的に討議に参画し適切な知見を提供できる能力を身につける。
技能	分析解決技能	◎ 実践的な研究テーマについて現実的な計画書を作成できる能力を身につける。
	実務技能	
	新規事業技能	
態度	倫理観態度	
	企業変革態度	
	地域リーダー態度	
	国際協調態度	

※ ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

※ 2013年度以降入学生が対象です。

グループ・ディスカッションI

授業の概要 /Course Description

グループ・ディスカッションとは、討議とコミュニケーションを深めることを第一義とする。具体的には、毎回、グループ学習、グループ討議を繰り返す中で自分の研究テーマを探索、発見していく。したがって、自らのリーダーシップを発揮して主体的に議論を展開することが求められる。専任教員は議論を促すファシリテーター役を担う。成果は研究プロポーザル（研究計画書）としてとりまとめて提出する。なお、授業運営は、4名程度からなる小グループをベースとする。各グループは各週1学期の間に9名の専任教員の指導にあたるようにローテーションを組む。学生からみると9名の教員を巡回する方式であり、教員との交流が図れ、教員のリソース（専門分野など）も知ることができ。11週目から最終週までの5回の授業は、各グループ担当の教員を中心に研究プロポーザルをまとめ発表する。

教科書 /Textbooks

初回時に指示する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

初回時に指示する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

基本的な授業内容を示す。

- ①～⑩ 各専任教員のローテーションによる指導
【専門分野に応じたテーマ提供によるディスカッション】
- ⑪～⑭ 各グループ担当の専任教員による指導
【研究プロポーザル（研究計画書）作成】
- ⑮ 学生による研究プロポーザルの発表

成績評価の方法 /Assessment Method

研究プロポーザルの成果物、討議に対する貢献度などをもとにして総合的に評価する（100%）

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

必要があればその都度連絡する。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

グループ・ディスカッションII【夜】

担当者名 /Instructor 王 効平 / Xiao-ping Wang / マネジメント研究科 専門職学位課程

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	理論知識	
	実践知識	○ 研究テーマに相応しい適切な思考・発想方法および分析手法を身につける。
技能	分析解決技能	◎ 的確な課題設定および課題解決を可能とする能力を身につける。
	実務技能	
	新規事業技能	
態度	倫理観態度	
	企業変革態度	
	地域リーダー態度	
	国際協調態度	

※ ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

※ 2013年度以降入学生が対象です。

グループ・ディスカッションII

授業の概要 /Course Description

2年次のプロジェクト研究へと繋がる準備ステップと位置づけられ、自分の研究テーマを深掘りするための思考方法や分析手法を習得していく。具体的には、研究テーマに関連する課題に対して適切な思考・発想方法、分析手法を当てはめて考えてみる。それを小グループの中で討議する。これを繰り返すことによって、問題意識・問題の所在を明確化させる。

成果は、グループでレポートを作成し、発表・報告する。

授業運営は、4名程度からなる小グループをベースとする（研究テーマに応じて1学期の小グループを再編成する）。小グループ毎に専任教員が指導にあたる。なお、研究テーマが類似するグループ同士はユニットを組み、ユニット内でお互いの情報を共有し合いながら討議内容の充実を図る（教員も相互に指導し合う）。

教科書 /Textbooks

初回時に指示する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

初回時に指示する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ① イントロダクション
【グループディスカッションのねらいと意義】
- ②～④ 課題討議1
【ディスカッションによるテーマ設定】
- ⑤～⑧ 課題討議2
【文献調査およびディスカッション】
- ⑨～⑫ 課題討議3
【調査研究手法の学習およびその適用】
- ⑬～⑭ 報告書作成
【議論を元にした報告書作成】
- ⑮ 発表会
【プレゼンテーション及びディスカッション】

成績評価の方法 /Assessment Method

グループレポートの成果物、討議に対する貢献度、調査研究の姿勢などをもとにして総合的に評価する（100%）

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

必要があればその都度連絡する。

グループ・ディスカッションII 【夜】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

グループ・ディスカッションII【夜】

担当者名 鳥取部 真己 / マネジメント研究科 専門職学位課程
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	理論知識	
	実践知識	○ 研究テーマに相応しい適切な思考・発想方法および分析手法を身につける。
技能	分析解決技能	◎ 的確な課題設定および課題解決を可能とする能力を身につける。
	実務技能	
	新規事業技能	
態度	倫理観態度	
	企業変革態度	
	地域リーダー態度	
	国際協調態度	

※ ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

※ 2013年度以降入学生が対象です。

グループ・ディスカッションII

授業の概要 /Course Description

2年次のプロジェクト研究へと繋がる準備ステップと位置づけられ、自分の研究テーマを深掘りするための思考方法や分析手法を習得していく。具体的には、研究テーマに関連する課題に対して適切な思考・発想方法、分析手法を当てはめて考えてみる。それを小グループの中で討議する。これを繰り返すことによって、問題意識・問題の所在を明確化させる。

成果は、グループでレポートを作成し、発表・報告する。

授業運営は、4名程度からなる小グループをベースとする（研究テーマに応じて1学期の小グループを再編成する）。小グループ毎に専任教員が指導にあたる。なお、研究テーマが類似するグループ同士はユニットを組み、ユニット内でお互いの情報を共有し合いながら討議内容の充実を図る（教員も相互に指導し合う）。

教科書 /Textbooks

初回時に指示する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

初回時に指示する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ① イントロダクション
【グループディスカッションのねらいと意義】
- ②～④ 課題討議1
【ディスカッションによるテーマ設定】
- ⑤～⑧ 課題討議2
【文献調査およびディスカッション】
- ⑨～⑫ 課題討議3
【調査研究手法の学習およびその適用】
- ⑬～⑭ 報告書作成
【議論を元にした報告書作成】
- ⑮ 発表会
【プレゼンテーション及びディスカッション】

成績評価の方法 /Assessment Method

グループレポートの成果物、討議に対する貢献度、調査研究の姿勢などをもとにして総合的に評価する(100%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

必要があればその都度連絡する。

グループ・ディスカッションII【夜】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

グループ・ディスカッションII【夜】

担当者名 城戸 宏史 / K I D O H I R O S H I / マネジメント研究科 専門職学位課程
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	理論知識	
	実践知識	○ 研究テーマに相応しい適切な思考・発想方法および分析手法を身につける。
技能	分析解決技能	◎ 的確な課題設定および課題解決を可能とする能力を身につける。
	実務技能	
	新規事業技能	
態度	倫理観態度	
	企業変革態度	
	地域リーダー態度	
	国際協調態度	

※ ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

※ 2013年度以降入学生が対象です。

グループ・ディスカッションII

授業の概要 /Course Description

2年次のプロジェクト研究へと繋がる準備ステップと位置づけられ、自分の研究テーマを深掘りするための思考方法や分析手法を習得していく。具体的には、研究テーマに関連する課題に対して適切な思考・発想方法、分析手法を当てはめて考えてみる。それを小グループの中で討議する。これを繰り返すことによって、問題意識・問題の所在を明確化させる。

成果は、グループでレポートを作成し、発表・報告する。

授業運営は、4名程度からなる小グループをベースとする（研究テーマに応じて1学期の小グループを再編成する）。小グループ毎に専任教員が指導にあたる。なお、研究テーマが類似するグループ同士はユニットを組み、ユニット内でお互いの情報を共有し合いながら討議内容の充実を図る（教員も相互に指導し合う）。

教科書 /Textbooks

初回時に指示する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

初回時に指示する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ① イントロダクション
【グループディスカッションのねらいと意義】
- ②～④ 課題討議1
【ディスカッションによるテーマ設定】
- ⑤～⑧ 課題討議2
【文献調査およびディスカッション】
- ⑨～⑫ 課題討議3
【調査研究手法の学習およびその適用】
- ⑬～⑭ 報告書作成
【議論を元にした報告書作成】
- ⑮ 発表会
【プレゼンテーション及びディスカッション】

成績評価の方法 /Assessment Method

グループレポートの成果物、討議に対する貢献度、調査研究の姿勢などをもとにして総合的に評価する(100%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

必要があればその都度連絡する。

グループ・ディスカッションII【夜】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

グループ・ディスカッションII【夜】

担当者名 越出 均 / マネジメント研究科 専門職学位課程
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	理論知識	
	実践知識	○ 研究テーマに相応しい適切な思考・発想方法および分析手法を身につける。
技能	分析解決技能	◎ 的確な課題設定および課題解決を可能とする能力を身につける。
	実務技能	
	新規事業技能	
態度	倫理観態度	
	企業変革態度	
	地域リーダー態度	
	国際協調態度	

※ ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

※ 2013年度以降入学生が対象です。

グループ・ディスカッションII

授業の概要 /Course Description

2年次のプロジェクト研究へと繋がる準備ステップと位置づけられ、自分の研究テーマを深掘りするための思考方法や分析手法を習得していく。具体的には、研究テーマに関連する課題に対して適切な思考・発想方法、分析手法を当てはめて考えてみる。それを小グループの中で討議する。これを繰り返すことによって、問題意識・問題の所在を明確化させる。

成果は、グループでレポートを作成し、発表・報告する。

授業運営は、4名程度からなる小グループをベースとする（研究テーマに応じて1学期の小グループを再編成する）。小グループ毎に専任教員が指導にあたる。なお、研究テーマが類似するグループ同士はユニットを組み、ユニット内でお互いの情報を共有し合いながら討議内容の充実を図る（教員も相互に指導し合う）。

教科書 /Textbooks

初回時に指示する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

初回時に指示する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ① イントロダクション
【グループディスカッションのねらいと意義】
- ②～④ 課題討議1
【ディスカッションによるテーマ設定】
- ⑤～⑧ 課題討議2
【文献調査およびディスカッション】
- ⑨～⑫ 課題討議3
【調査研究手法の学習およびその適用】
- ⑬～⑭ 報告書作成
【議論を元にした報告書作成】
- ⑮ 発表会
【プレゼンテーション及びディスカッション】

成績評価の方法 /Assessment Method

グループレポートの成果物、討議に対する貢献度、調査研究の姿勢などをもとにして総合的に評価する（100%）

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

必要があればその都度連絡する。

グループ・ディスカッションII【夜】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

グループ・ディスカッションII【夜】

担当者名 高橋 秀直 / マネジメント研究科 専門職学位課程
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	理論知識	
	実践知識	○ 研究テーマに相応しい適切な思考・発想方法および分析手法を身につける。
技能	分析解決技能	◎ 的確な課題設定および課題解決を可能とする能力を身につける。
	実務技能	
	新規事業技能	
態度	倫理観態度	
	企業変革態度	
	地域リーダー態度	
	国際協調態度	

※ ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

※ 2013年度以降入学生が対象です。

グループ・ディスカッションII

授業の概要 /Course Description

2年次のプロジェクト研究へと繋がる準備ステップと位置づけられ、自分の研究テーマを深掘りするための思考方法や分析手法を習得していく。具体的には、研究テーマに関連する課題に対して適切な思考・発想方法、分析手法を当てはめて考えてみる。それを小グループの中で討議する。これを繰り返すことによって、問題意識・問題の所在を明確化させる。

成果は、グループでレポートを作成し、発表・報告する。

授業運営は、4名程度からなる小グループをベースとする（研究テーマに応じて1学期の小グループを再編成する）。小グループ毎に専任教員が指導にあたる。なお、研究テーマが類似するグループ同士はユニットを組み、ユニット内でお互いの情報を共有し合いながら討議内容の充実を図る（教員も相互に指導し合う）。

教科書 /Textbooks

初回時に指示する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

初回時に指示する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ① イントロダクション
【グループディスカッションのねらいと意義】
- ②～④ 課題討議1
【ディスカッションによるテーマ設定】
- ⑤～⑧ 課題討議2
【文献調査およびディスカッション】
- ⑨～⑫ 課題討議3
【調査研究手法の学習およびその適用】
- ⑬～⑭ 報告書作成
【議論を元にした報告書作成】
- ⑮ 発表会
【プレゼンテーション及びディスカッション】

成績評価の方法 /Assessment Method

グループレポートの成果物、討議に対する貢献度、調査研究の姿勢などをもとにして総合的に評価する（100%）

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

必要があればその都度連絡する。

グループ・ディスカッションII【夜】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

グループ・ディスカッションII【夜】

担当者名 /Instructor 武田 寛 / Hiroshi Takeda / マネジメント研究科 専門職学位課程

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	理論知識	
	実践知識	○ 研究テーマに相応しい適切な思考・発想方法および分析手法を身につける。
技能	分析解決技能	◎ 的確な課題設定および課題解決を可能とする能力を身につける。
	実務技能	
	新規事業技能	
態度	倫理観態度	
	企業変革態度	
	地域リーダー態度	
	国際協調態度	

※ ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

※ 2013年度以降入学生が対象です。

グループ・ディスカッションII

授業の概要 /Course Description

2年次のプロジェクト研究へと繋がる準備ステップと位置づけられ、自分の研究テーマを深掘りするための思考方法や分析手法を習得していく。具体的には、研究テーマに関連する課題に対して適切な思考・発想方法、分析手法を当てはめて考えてみる。それを小グループの中で討議する。これを繰り返すことによって、問題意識・問題の所在を明確化させる。

成果は、グループでレポートを作成し、発表・報告する。

授業運営は、4名程度からなる小グループをベースとする（研究テーマに応じて1学期の小グループを再編成する）。小グループ毎に専任教員が指導にあたる。なお、研究テーマが類似するグループ同士はユニットを組み、ユニット内でお互いの情報を共有し合いながら討議内容の充実を図る（教員も相互に指導し合う）。

教科書 /Textbooks

初回時に指示する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

初回時に指示する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ① イントロダクション
【グループディスカッションのねらいと意義】
- ②～④ 課題討議1
【ディスカッションによるテーマ設定】
- ⑤～⑧ 課題討議2
【文献調査およびディスカッション】
- ⑨～⑫ 課題討議3
【調査研究手法の学習およびその適用】
- ⑬～⑭ 報告書作成
【議論を元にした報告書作成】
- ⑮ 発表会
【プレゼンテーション及びディスカッション】

成績評価の方法 /Assessment Method

グループレポートの成果物、討議に対する貢献度、調査研究の姿勢などをもとにして総合的に評価する(100%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

必要があればその都度連絡する。

グループ・ディスカッションII【夜】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

グループ・ディスカッションII【夜】

担当者名 永津 美裕 / NAGATU YOSHIHIRO / マネジメント研究科 専門職学位課程
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	理論知識	
	実践知識	○ 研究テーマに相応しい適切な思考・発想方法および分析手法を身につける。
技能	分析解決技能	◎ 的確な課題設定および課題解決を可能とする能力を身につける。
	実務技能	
	新規事業技能	
態度	倫理観態度	
	企業変革態度	
	地域リーダー態度	
	国際協調態度	

※ ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

※ 2013年度以降入学生が対象です。

グループ・ディスカッションII

授業の概要 /Course Description

2年次のプロジェクト研究へと繋がる準備ステップと位置づけられ、自分の研究テーマを深掘りするための思考方法や分析手法を習得していく。具体的には、研究テーマに関連する課題に対して適切な思考・発想方法、分析手法を当てはめて考えてみる。それを小グループの中で討議する。これを繰り返すことによって、問題意識・問題の所在を明確化させる。

成果は、グループでレポートを作成し、発表・報告する。

授業運営は、4名程度からなる小グループをベースとする（研究テーマに応じて1学期の小グループを再編成する）。小グループ毎に専任教員が指導にあたる。なお、研究テーマが類似するグループ同士はユニットを組み、ユニット内でお互いの情報を共有し合いながら討議内容の充実を図る（教員も相互に指導し合う）。

教科書 /Textbooks

初回時に指示する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

初回時に指示する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ① イントロダクション
【グループディスカッションのねらいと意義】
- ②～④ 課題討議1
【ディスカッションによるテーマ設定】
- ⑤～⑧ 課題討議2
【文献調査およびディスカッション】
- ⑨～⑫ 課題討議3
【調査研究手法の学習およびその適用】
- ⑬～⑭ 報告書作成
【議論を元にした報告書作成】
- ⑮ 発表会
【プレゼンテーション及びディスカッション】

成績評価の方法 /Assessment Method

グループレポートの成果物、討議に対する貢献度、調査研究の姿勢などをもとにして総合的に評価する（100%）

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

必要があればその都度連絡する。

グループ・ディスカッションII【夜】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

グループ・ディスカッションII【夜】

担当者名 /Instructor 任 章 / NIN Akira / マネジメント研究科 専門職学位課程

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	理論知識	
	実践知識	○ 研究テーマに相応しい適切な思考・発想方法および分析手法を身につける。
技能	分析解決技能	◎ 的確な課題設定および課題解決を可能とする能力を身につける。
	実務技能	
	新規事業技能	
態度	倫理観態度	
	企業変革態度	
	地域リーダー態度	
	国際協調態度	

※ ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

※ 2013年度以降入学生が対象です。

グループ・ディスカッションII

授業の概要 /Course Description

2年次のプロジェクト研究へと繋がる準備ステップと位置づけられ、自分の研究テーマを深掘りするための思考方法や分析手法を習得していく。具体的には、研究テーマに関連する課題に対して適切な思考・発想方法、分析手法を当てはめて考えてみる。それを小グループの中で討議する。これを繰り返すことによって、問題意識・問題の所在を明確化させる。

成果は、グループでレポートを作成し、発表・報告する。

授業運営は、4名程度からなる小グループをベースとする（研究テーマに応じて1学期の小グループを再編成する）。小グループ毎に専任教員が指導にあたる。なお、研究テーマが類似するグループ同士はユニットを組み、ユニット内でお互いの情報を共有し合いながら討議内容の充実を図る（教員も相互に指導し合う）。

教科書 /Textbooks

初回時に指示する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

初回時に指示する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ① イントロダクション
【グループディスカッションのねらいと意義】
- ②～④ 課題討議1
【ディスカッションによるテーマ設定】
- ⑤～⑧ 課題討議2
【文献調査およびディスカッション】
- ⑨～⑫ 課題討議3
【調査研究手法の学習およびその適用】
- ⑬～⑭ 報告書作成
【議論を元にした報告書作成】
- ⑮ 発表会
【プレゼンテーション及びディスカッション】

成績評価の方法 /Assessment Method

グループレポートの成果物、討議に対する貢献度、調査研究の姿勢などをもとにして総合的に評価する（100%）

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

必要があればその都度連絡する。

グループ・ディスカッションII【夜】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

グループ・ディスカッションII【夜】

担当者名 /Instructor 松永 裕己 / マネジメント研究科 専門職学位課程

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	理論知識	
	実践知識	○ 研究テーマに相応しい適切な思考・発想方法および分析手法を身につける。
技能	分析解決技能	◎ 的確な課題設定および課題解決を可能とする能力を身につける。
	実務技能	
	新規事業技能	
態度	倫理観態度	
	企業変革態度	
	地域リーダー態度	
	国際協調態度	

※ ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

※ 2013年度以降入学生が対象です。

グループ・ディスカッションII

授業の概要 /Course Description

2年次のプロジェクト研究へと繋がる準備ステップと位置づけられ、自分の研究テーマを深掘りするための思考方法や分析手法を習得していく。具体的には、研究テーマに関連する課題に対して適切な思考・発想方法、分析手法を当てはめて考えてみる。それを小グループの中で討議する。これを繰り返すことによって、問題意識・問題の所在を明確化させる。

成果は、グループでレポートを作成し、発表・報告する。

授業運営は、4名程度からなる小グループをベースとする（研究テーマに応じて1学期の小グループを再編成する）。小グループ毎に専任教員が指導にあたる。なお、研究テーマが類似するグループ同士はユニットを組み、ユニット内でお互いの情報を共有し合いながら討議内容の充実を図る（教員も相互に指導し合う）。

教科書 /Textbooks

初回時に指示する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

初回時に指示する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ① イントロダクション
【グループディスカッションのねらいと意義】
- ②～④ 課題討議1
【ディスカッションによるテーマ設定】
- ⑤～⑧ 課題討議2
【文献調査およびディスカッション】
- ⑨～⑫ 課題討議3
【調査研究手法の学習およびその適用】
- ⑬～⑭ 報告書作成
【議論を元にした報告書作成】
- ⑮ 発表会
【プレゼンテーション及びディスカッション】

成績評価の方法 /Assessment Method

グループレポートの成果物、討議に対する貢献度、調査研究の姿勢などをもとにして総合的に評価する（100%）

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

必要があればその都度連絡する。

グループ・ディスカッションII【夜】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

プロジェクト研究I【夜】

担当者名 /Instructor 王 効平 / Xiao-ping Wang / マネジメント研究科 専門職学位課程

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	理論知識		
	実践知識	○	研究成果のイメージを具体的に提示し、研究目的と背景を的確に説明する力を身につける。
技能	分析解決技能	◎	研究テーマに応じて先行研究や文献調査を適切に行う力を身につける。
	実務技能		
	新規事業技能		
態度	倫理観態度		
	企業変革態度		
	地域リーダー態度		
	国際協調態度		

※ ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

※ 2013年度以降入学生が対象です。

プロジェクト研究 I

授業の概要 /Course Description

プロジェクト研究Iにおいては、各自の研究テーマに応じて先行研究や理論に関する文献調査を十分に行ったうえで、分析のフレームワークの検討を行う。また、必要に応じて統計調査、アンケート調査、ヒアリング調査などを実施したうえで、プロジェクト研究骨子を成果物として完成させる。

なお、プロジェクト研究の指導の中心は、原則的に学生の意思に基づいた専任教員等（主指導教員）1名があたる。ただし、学生が幅広い視点から問題探究を行なえるように、副指導教員の指導を適宜受けられる体制とする。副指導教員は専任教員及び特任教員の中から主指導教員と学生の相談した上で、マネジメント研究科委員会で決定する。

教科書 /Textbooks

初回時に指示する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

初回時に指示する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ① イン트로ダクション
【グループ・ディスカッションI、IIの成果物の問題点、改善点の整理】、【スケジュールの確認】
- ②～③ 研究テーマの検討・決定
【現実的な課題に沿った検討・ディスカッション】
- ④～⑤ 文献調査に基づいた検討
【先行研究】、【理論】
- ⑥～⑦ 研究方法、推進体制、仮設の検討
【分析のフレームワーク】、【仮説の設定】
- ⑧～⑩ 調査研究の実施と報告（進捗状況の管理）
【質疑応答】、【討議を繰り返す】
- ⑪～⑬ プロジェクト研究骨子の作成と検討
【質疑応答】、【討議を繰り返す】
- ⑭ プロジェクト研究骨子の完成
【主指導教員への報告】

成績評価の方法 /Assessment Method

研究の姿勢（40%）と成果物であるプロジェクト研究骨子（60%）によって総合的に評価する

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

プロジェクト研究I 【夜】

履修上の注意 /Remarks

必要があればその都度連絡する
グループ・ディスカッションIIを履修済みのこと

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

プロジェクト研究I【夜】

担当者名 /Instructor 森永 泰正 / マネジメント研究科 専門職学位課程

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	理論知識		
	実践知識	○	研究成果のイメージを具体的に提示し、研究目的と背景を的確に説明する力を身につける。
技能	分析解決技能	◎	研究テーマに応じて先行研究や文献調査を適切に行う力を身につける。
	実務技能		
	新規事業技能		
態度	倫理観態度		
	企業変革態度		
	地域リーダー態度		
	国際協調態度		

※ ◎: 強く関連 ○: 関連 △: やや関連

※ 2013年度以降入学生が対象です。

プロジェクト研究 I

授業の概要 /Course Description

プロジェクト研究Iにおいては、各自の研究テーマに応じて先行研究や理論に関する文献調査を十分に行ったうえで、分析のフレームワークの検討を行う。また、必要に応じて統計調査、アンケート調査、ヒアリング調査などを実施したうえで、プロジェクト研究骨子を成果物として完成させる。

なお、プロジェクト研究の指導の中心は、原則的に学生の意思に基づいた専任教員等（主指導教員）1名があたる。ただし、学生が幅広い視点から問題探究を行なえるように、副指導教員の指導を適宜受けられる体制とする。副指導教員は専任教員及び特任教員の中から主指導教員と学生の相談した上で、マネジメント研究科委員会で決定する。

教科書 /Textbooks

初回時に指示する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

初回時に指示する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ① イン트로ダクション
【グループ・ディスカッションI、IIの成果物の問題点、改善点の整理】、【スケジュールの確認】
- ②～③ 研究テーマの検討・決定
【現実的な課題に沿った検討・ディスカッション】
- ④～⑤ 文献調査に基づいた検討
【先行研究】、【理論】
- ⑥～⑦ 研究方法、推進体制、仮設の検討
【分析のフレームワーク】、【仮説の設定】
- ⑧～⑩ 調査研究の実施と報告（進捗状況の管理）
【質疑応答】、【討議を繰り返す】
- ⑪～⑭ プロジェクト研究骨子の作成と検討
【質疑応答】、【討議を繰り返す】
- ⑮ プロジェクト研究骨子の完成
【主指導教員への報告】

成績評価の方法 /Assessment Method

研究の姿勢（40%）と成果物であるプロジェクト研究骨子（60%）によって総合的に評価する

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

プロジェクト研究I 【夜】

履修上の注意 /Remarks

必要があればその都度連絡する
グループ・ディスカッションIIを履修済みのこと

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

プロジェクト研究I【夜】

担当者名 /Instructor 山口 徹也 / マネジメント研究科 専門職学位課程

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	理論知識		
	実践知識	○	研究成果のイメージを具体的に提示し、研究目的と背景を的確に説明する力を身につける。
技能	分析解決技能	◎	研究テーマに応じて先行研究や文献調査を適切に行う力を身につける。
	実務技能		
	新規事業技能		
態度	倫理観態度		
	企業変革態度		
	地域リーダー態度		
	国際協調態度		

※ ◎: 強く関連 ○: 関連 △: やや関連

※ 2013年度以降入学生が対象です。

プロジェクト研究 I

授業の概要 /Course Description

プロジェクト研究Iにおいては、各自の研究テーマに応じて先行研究や理論に関する文献調査を十分に行ったうえで、分析のフレームワークの検討を行う。また、必要に応じて統計調査、アンケート調査、ヒアリング調査などを実施したうえで、プロジェクト研究骨子を成果物として完成させる。

なお、プロジェクト研究の指導の中心は、原則的に学生の意思に基づいた専任教員等（主指導教員）1名があたる。ただし、学生が幅広い視点から問題探究を行なえるように、副指導教員の指導を適宜受けられる体制とする。副指導教員は専任教員及び特任教員の中から主指導教員と学生の相談した上で、マネジメント研究科委員会で決定する。

教科書 /Textbooks

初回時に指示する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

初回時に指示する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ① イン트로ダクション
【グループ・ディスカッションI、IIの成果物の問題点、改善点の整理】、【スケジュールの確認】
- ②～③ 研究テーマの検討・決定
【現実的な課題に沿った検討・ディスカッション】
- ④～⑤ 文献調査に基づいた検討
【先行研究】、【理論】
- ⑥～⑦ 研究方法、推進体制、仮設の検討
【分析のフレームワーク】、【仮説の設定】
- ⑧～⑩ 調査研究の実施と報告（進捗状況の管理）
【質疑応答】、【討議を繰り返す】
- ⑪～⑭ プロジェクト研究骨子の作成と検討
【質疑応答】、【討議を繰り返す】
- ⑮ プロジェクト研究骨子の完成
【主指導教員への報告】

成績評価の方法 /Assessment Method

研究の姿勢（40%）と成果物であるプロジェクト研究骨子（60%）によって総合的に評価する

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

プロジェクト研究I 【夜】

履修上の注意 /Remarks

必要があればその都度連絡する
グループ・ディスカッションIIを履修済みのこと

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

プロジェクト研究I【夜】

担当者名 鳥取部 真己 / マネジメント研究科 専門職学位課程
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	理論知識	
	実践知識	○ 研究成果のイメージを具体的に提示し、研究目的と背景を的確に説明する力を身につける。
技能	分析解決技能	◎ 研究テーマに応じて先行研究や文献調査を適切に行う力を身につける。
	実務技能	
	新規事業技能	
態度	倫理観態度	
	企業変革態度	
	地域リーダー態度	
	国際協調態度	

※ ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

※ 2013年度以降入学生が対象です。

プロジェクト研究 I

授業の概要 /Course Description

プロジェクト研究Iにおいては、各自の研究テーマに応じて先行研究や理論に関する文献調査を十分に行ったうえで、分析のフレームワークの検討を行う。また、必要に応じて統計調査、アンケート調査、ヒアリング調査などを実施したうえで、プロジェクト研究骨子を成果物として完成させる。

なお、プロジェクト研究の指導の中心は、原則的に学生の意思に基づいた専任教員等（主指導教員）1名があたる。ただし、学生が幅広い視点から問題探究を行なえるように、副指導教員の指導を適宜受けられる体制とする。副指導教員は専任教員及び特任教員の中から主指導教員と学生の相談した上で、マネジメント研究科委員会で決定する。

教科書 /Textbooks

初回時に指示する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

初回時に指示する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ① イン트로ダクション
【グループ・ディスカッションI、IIの成果物の問題点、改善点の整理】、【スケジュールの確認】
- ②～③ 研究テーマの検討・決定
【現実的な課題に沿った検討・ディスカッション】
- ④～⑤ 文献調査に基づいた検討
【先行研究】、【理論】
- ⑥～⑦ 研究方法、推進体制、仮設の検討
【分析のフレームワーク】、【仮説の設定】
- ⑧～⑩ 調査研究の実施と報告（進捗状況の管理）
【質疑応答】、【討議を繰り返す】
- ⑪～⑭ プロジェクト研究骨子の作成と検討
【質疑応答】、【討議を繰り返す】
- ⑮ プロジェクト研究骨子の完成
【主指導教員への報告】

成績評価の方法 /Assessment Method

研究の姿勢（40%）と成果物であるプロジェクト研究骨子（60%）によって総合的に評価する

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

プロジェクト研究I 【夜】

履修上の注意 /Remarks

必要があればその都度連絡する
グループ・ディスカッションIIを履修済みのこと

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

プロジェクト研究I【夜】

担当者名 城戸 宏史 / K I D O H I R O S H I / マネジメント研究科 専門職学位課程
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	理論知識		
	実践知識	○	研究成果のイメージを具体的に提示し、研究目的と背景を的確に説明する力を身につける。
技能	分析解決技能	◎	研究テーマに応じて先行研究や文献調査を適切に行う力を身につける。
	実務技能		
	新規事業技能		
態度	倫理観態度		
	企業変革態度		
	地域リーダー態度		
	国際協調態度		
		プロジェクト研究 I	

※ ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

※ 2013年度以降入学生が対象です。

授業の概要 /Course Description

プロジェクト研究Iにおいては、各自の研究テーマに応じて先行研究や理論に関する文献調査を十分に行ったうえで、分析のフレームワークの検討を行う。また、必要に応じて統計調査、アンケート調査、ヒアリング調査などを実施したうえで、プロジェクト研究骨子を成果物として完成させる。

なお、プロジェクト研究の指導の中心は、原則的に学生の意思に基づいた専任教員等（主指導教員）1名があたる。ただし、学生が幅広い視点から問題探究を行なえるように、副指導教員の指導を適宜受けられる体制とする。副指導教員は専任教員及び特任教員の中から主指導教員と学生の相談した上で、マネジメント研究科委員会で決定する。

教科書 /Textbooks

初回時に指示する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

初回時に指示する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ① イン트로ダクション
【グループ・ディスカッションI、IIの成果物の問題点、改善点の整理】、【スケジュールの確認】
- ②～③ 研究テーマの検討・決定
【現実的な課題に沿った検討・ディスカッション】
- ④～⑤ 文献調査に基づいた検討
【先行研究】、【理論】
- ⑥～⑦ 研究方法、推進体制、仮設の検討
【分析のフレームワーク】、【仮説の設定】
- ⑧～⑩ 調査研究の実施と報告（進捗状況の管理）
【質疑応答】、【討議を繰り返す】
- ⑪～⑭ プロジェクト研究骨子の作成と検討
【質疑応答】、【討議を繰り返す】
- ⑮ プロジェクト研究骨子の完成
【主指導教員への報告】

成績評価の方法 /Assessment Method

研究の姿勢（40%）と成果物であるプロジェクト研究骨子（60%）によって総合的に評価する

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

プロジェクト研究I 【夜】

履修上の注意 /Remarks

必要があればその都度連絡する
グループ・ディスカッションIIを履修済みのこと

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

プロジェクト研究I【夜】

担当者名 越出 均 / マネジメント研究科 専門職学位課程
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	理論知識		
	実践知識	○	研究成果のイメージを具体的に提示し、研究目的と背景を的確に説明する力を身につける。
技能	分析解決技能	◎	研究テーマに応じて先行研究や文献調査を適切に行う力を身につける。
	実務技能		
	新規事業技能		
態度	倫理観態度		
	企業変革態度		
	地域リーダー態度		
	国際協調態度		

※ ◎: 強く関連 ○: 関連 △: やや関連

※ 2013年度以降入学生が対象です。

プロジェクト研究 I

授業の概要 /Course Description

プロジェクト研究Iにおいては、各自の研究テーマに応じて先行研究や理論に関する文献調査を十分に行ったうえで、分析のフレームワークの検討を行う。また、必要に応じて統計調査、アンケート調査、ヒアリング調査などを実施したうえで、プロジェクト研究骨子を成果物として完成させる。

なお、プロジェクト研究の指導の中心は、原則的に学生の意思に基づいた専任教員等（主指導教員）1名があたる。ただし、学生が幅広い視点から問題探究を行なえるように、副指導教員の指導を適宜受けられる体制とする。副指導教員は専任教員及び特任教員の中から主指導教員と学生の相談した上で、マネジメント研究科委員会で決定する。

教科書 /Textbooks

初回時に指示する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

初回時に指示する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ① イン트로ダクション
【グループ・ディスカッションI、IIの成果物の問題点、改善点の整理】、【スケジュールの確認】
- ②～③ 研究テーマの検討・決定
【現実的な課題に沿った検討・ディスカッション】
- ④～⑤ 文献調査に基づいた検討
【先行研究】、【理論】
- ⑥～⑦ 研究方法、推進体制、仮設の検討
【分析のフレームワーク】、【仮説の設定】
- ⑧～⑩ 調査研究の実施と報告（進捗状況の管理）
【質疑応答】、【討議を繰り返す】
- ⑪～⑭ プロジェクト研究骨子の作成と検討
【質疑応答】、【討議を繰り返す】
- ⑮ プロジェクト研究骨子の完成
【主指導教員への報告】

成績評価の方法 /Assessment Method

研究の姿勢（40%）と成果物であるプロジェクト研究骨子（60%）によって総合的に評価する

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

プロジェクト研究I 【夜】

履修上の注意 /Remarks

必要があればその都度連絡する
グループ・ディスカッションIIを履修済みのこと

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

プロジェクト研究I【夜】

担当者名 /Instructor 高橋 秀直 / マネジメント研究科 専門職学位課程

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	理論知識		
	実践知識	○	研究成果のイメージを具体的に提示し、研究目的と背景を的確に説明する力を身につける。
技能	分析解決技能	◎	研究テーマに応じて先行研究や文献調査を適切に行う力を身につける。
	実務技能		
	新規事業技能		
態度	倫理観態度		
	企業変革態度		
	地域リーダー態度		
	国際協調態度		

※ ◎: 強く関連 ○: 関連 △: やや関連

※ 2013年度以降入学生が対象です。

プロジェクト研究 I

授業の概要 /Course Description

プロジェクト研究Iにおいては、各自の研究テーマに応じて先行研究や理論に関する文献調査を十分に行ったうえで、分析のフレームワークの検討を行う。また、必要に応じて統計調査、アンケート調査、ヒアリング調査などを実施したうえで、プロジェクト研究骨子を成果物として完成させる。

なお、プロジェクト研究の指導の中心は、原則的に学生の意思に基づいた専任教員等（主指導教員）1名があたる。ただし、学生が幅広い視点から問題探究を行なえるように、副指導教員の指導を適宜受けられる体制とする。副指導教員は専任教員及び特任教員の中から主指導教員と学生の相談した上で、マネジメント研究科委員会で決定する。

教科書 /Textbooks

初回時に指示する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

初回時に指示する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ① イン트로ダクション
【グループ・ディスカッションI、IIの成果物の問題点、改善点の整理】、【スケジュールの確認】
- ②～③ 研究テーマの検討・決定
【現実的な課題に沿った検討・ディスカッション】
- ④～⑤ 文献調査に基づいた検討
【先行研究】、【理論】
- ⑥～⑦ 研究方法、推進体制、仮設の検討
【分析のフレームワーク】、【仮説の設定】
- ⑧～⑩ 調査研究の実施と報告（進捗状況の管理）
【質疑応答】、【討議を繰り返す】
- ⑪～⑬ プロジェクト研究骨子の作成と検討
【質疑応答】、【討議を繰り返す】
- ⑭ プロジェクト研究骨子の完成
【主指導教員への報告】

成績評価の方法 /Assessment Method

研究の姿勢（40%）と成果物であるプロジェクト研究骨子（60%）によって総合的に評価する

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

プロジェクト研究I 【夜】

履修上の注意 /Remarks

必要があればその都度連絡する
グループ・ディスカッションIIを履修済みのこと

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

プロジェクト研究I【夜】

担当者名 武田 寛 / Hiroshi Takeda / マネジメント研究科 専門職学位課程
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	理論知識		
	実践知識	○	研究成果のイメージを具体的に提示し、研究目的と背景を的確に説明する力を身につける。
技能	分析解決技能	◎	研究テーマに応じて先行研究や文献調査を適切に行う力を身につける。
	実務技能		
	新規事業技能		
態度	倫理観態度		
	企業変革態度		
	地域リーダー態度		
	国際協調態度		

※ ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

※ 2013年度以降入学生が対象です。

プロジェクト研究 I

授業の概要 /Course Description

プロジェクト研究Iにおいては、各自の研究テーマに応じて先行研究や理論に関する文献調査を十分に行ったうえで、分析のフレームワークの検討を行う。また、必要に応じて統計調査、アンケート調査、ヒアリング調査などを実施したうえで、プロジェクト研究骨子を成果物として完成させる。

なお、プロジェクト研究の指導の中心は、原則的に学生の意思に基づいた専任教員等（主指導教員）1名があたる。ただし、学生が幅広い視点から問題探究を行なえるように、副指導教員の指導を適宜受けられる体制とする。副指導教員は専任教員及び特任教員の中から主指導教員と学生の相談した上で、マネジメント研究科委員会で決定する。

教科書 /Textbooks

初回時に指示する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

初回時に指示する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ① インTRODクシヨン
【グループ・ディスカッションI、IIの成果物の問題点、改善点の整理】、【スケジュールの確認】
- ②～③ 研究テーマの検討・決定
【現実的な課題に沿った検討・ディスカッション】
- ④～⑤ 文献調査に基づいた検討
【先行研究】、【理論】
- ⑥～⑦ 研究方法、推進体制、仮設の検討
【分析のフレームワーク】、【仮説の設定】
- ⑧～⑩ 調査研究の実施と報告（進捗状況の管理）
【質疑応答】、【討議を繰り返す】
- ⑪～⑬ プロジェクト研究骨子の作成と検討
【質疑応答】、【討議を繰り返す】
- ⑭ プロジェクト研究骨子の完成
【主指導教員への報告】

成績評価の方法 /Assessment Method

研究の姿勢（40%）と成果物であるプロジェクト研究骨子（60%）によって総合的に評価する

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

プロジェクト研究I 【夜】

履修上の注意 /Remarks

必要があればその都度連絡する
グループ・ディスカッションIIを履修済みのこと

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

プロジェクト研究I【夜】

担当者名 /Instructor 永津 美裕 / NAGATU YOSHIHIRO / マネジメント研究科 専門職学位課程

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	理論知識		
	実践知識	○	研究成果のイメージを具体的に提示し、研究目的と背景を的確に説明する力を身につける。
技能	分析解決技能	◎	研究テーマに応じて先行研究や文献調査を適切に行う力を身につける。
	実務技能		
	新規事業技能		
態度	倫理観態度		
	企業変革態度		
	地域リーダー態度		
	国際協調態度		

※ ◎: 強く関連 ○: 関連 △: やや関連

※ 2013年度以降入学生が対象です。

プロジェクト研究 I

授業の概要 /Course Description

プロジェクト研究Iにおいては、各自の研究テーマに応じて先行研究や理論に関する文献調査を十分に行ったうえで、分析のフレームワークの検討を行う。また、必要に応じて統計調査、アンケート調査、ヒアリング調査などを実施したうえで、プロジェクト研究骨子を成果物として完成させる。

なお、プロジェクト研究の指導の中心は、原則的に学生の意思に基づいた専任教員等（主指導教員）1名があたる。ただし、学生が幅広い視点から問題探究を行なえるように、副指導教員の指導を適宜受けられる体制とする。副指導教員は専任教員及び特任教員の中から主指導教員と学生の相談した上で、マネジメント研究科委員会で決定する。

教科書 /Textbooks

初回時に指示する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

初回時に指示する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ① イン트로ダクション
【グループ・ディスカッションI、IIの成果物の問題点、改善点の整理】、【スケジュールの確認】
- ②～③ 研究テーマの検討・決定
【現実的な課題に沿った検討・ディスカッション】
- ④～⑤ 文献調査に基づいた検討
【先行研究】、【理論】
- ⑥～⑦ 研究方法、推進体制、仮設の検討
【分析のフレームワーク】、【仮説の設定】
- ⑧～⑩ 調査研究の実施と報告（進捗状況の管理）
【質疑応答】、【討議を繰り返す】
- ⑪～⑬ プロジェクト研究骨子の作成と検討
【質疑応答】、【討議を繰り返す】
- ⑭ プロジェクト研究骨子の完成
【主指導教員への報告】

成績評価の方法 /Assessment Method

研究の姿勢（40%）と成果物であるプロジェクト研究骨子（60%）によって総合的に評価する

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

プロジェクト研究I 【夜】

履修上の注意 /Remarks

必要があればその都度連絡する
グループ・ディスカッションIIを履修済みのこと

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

プロジェクト研究I【夜】

担当者名 /Instructor 任 章 / NIN Akira / マネジメント研究科 専門職学位課程

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	理論知識	
	実践知識	○ 研究成果のイメージを具体的に提示し、研究目的と背景を的確に説明する力を身につける。
技能	分析解決技能	◎ 研究テーマに応じて先行研究や文献調査を適切に行う力を身につける。
	実務技能	
	新規事業技能	
態度	倫理観態度	
	企業変革態度	
	地域リーダー態度	
	国際協調態度	

※ ◎: 強く関連 ○: 関連 △: やや関連

※ 2013年度以降入学生が対象です。

プロジェクト研究 I

授業の概要 /Course Description

プロジェクト研究Iにおいては、各自の研究テーマに応じて先行研究や理論に関する文献調査を十分に行ったうえで、分析のフレームワークの検討を行う。また、必要に応じて統計調査、アンケート調査、ヒアリング調査などを実施したうえで、プロジェクト研究骨子を成果物として完成させる。

なお、プロジェクト研究の指導の中心は、原則的に学生の意思に基づいた専任教員等（主指導教員）1名があたる。ただし、学生が幅広い視点から問題探究を行なえるように、副指導教員の指導を適宜受けられる体制とする。副指導教員は専任教員及び特任教員の中から主指導教員と学生の相談した上で、マネジメント研究科委員会で決定する。

教科書 /Textbooks

初回時に指示する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

初回時に指示する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ① イン트로ダクション
【グループ・ディスカッションI、IIの成果物の問題点、改善点の整理】、【スケジュールの確認】
- ②～③ 研究テーマの検討・決定
【現実的な課題に沿った検討・ディスカッション】
- ④～⑤ 文献調査に基づいた検討
【先行研究】、【理論】
- ⑥～⑦ 研究方法、推進体制、仮設の検討
【分析のフレームワーク】、【仮説の設定】
- ⑧～⑩ 調査研究の実施と報告（進捗状況の管理）
【質疑応答】、【討議を繰り返す】
- ⑪～⑬ プロジェクト研究骨子の作成と検討
【質疑応答】、【討議を繰り返す】
- ⑭ プロジェクト研究骨子の完成
【主指導教員への報告】

成績評価の方法 /Assessment Method

研究の姿勢（40%）と成果物であるプロジェクト研究骨子（60%）によって総合的に評価する

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

プロジェクト研究I 【夜】

履修上の注意 /Remarks

必要があればその都度連絡する
グループ・ディスカッションIIを履修済みのこと

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

プロジェクト研究I【夜】

担当者名 /Instructor 松永 裕己 / マネジメント研究科 専門職学位課程

履修年次 /Year 2年次 /Credits 2単位 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	理論知識		
	実践知識	○	研究成果のイメージを具体的に提示し、研究目的と背景を的確に説明する力を身につける。
技能	分析解決技能	◎	研究テーマに応じて先行研究や文献調査を適切に行う力を身につける。
	実務技能		
	新規事業技能		
態度	倫理観態度		
	企業変革態度		
	地域リーダー態度		
	国際協調態度		

※ ◎: 強く関連 ○: 関連 △: やや関連

※ 2013年度以降入学生が対象です。

プロジェクト研究 I

授業の概要 /Course Description

プロジェクト研究Iにおいては、各自の研究テーマに応じて先行研究や理論に関する文献調査を十分に行ったうえで、分析のフレームワークの検討を行う。また、必要に応じて統計調査、アンケート調査、ヒアリング調査などを実施したうえで、プロジェクト研究骨子を成果物として完成させる。

なお、プロジェクト研究の指導の中心は、原則的に学生の意思に基づいた専任教員等（主指導教員）1名があたる。ただし、学生が幅広い視点から問題探究を行なえるように、副指導教員の指導を適宜受けられる体制とする。副指導教員は専任教員及び特任教員の中から主指導教員と学生の相談した上で、マネジメント研究科委員会で決定する。

教科書 /Textbooks

初回時に指示する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

初回時に指示する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ① イン트로ダクション
【グループ・ディスカッションI、IIの成果物の問題点、改善点の整理】、【スケジュールの確認】
- ②～③ 研究テーマの検討・決定
【現実的な課題に沿った検討・ディスカッション】
- ④～⑤ 文献調査に基づいた検討
【先行研究】、【理論】
- ⑥～⑦ 研究方法、推進体制、仮設の検討
【分析のフレームワーク】、【仮説の設定】
- ⑧～⑩ 調査研究の実施と報告（進捗状況の管理）
【質疑応答】、【討議を繰り返す】
- ⑪～⑬ プロジェクト研究骨子の作成と検討
【質疑応答】、【討議を繰り返す】
- ⑭ プロジェクト研究骨子の完成
【主指導教員への報告】

成績評価の方法 /Assessment Method

研究の姿勢（40%）と成果物であるプロジェクト研究骨子（60%）によって総合的に評価する

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

プロジェクト研究I 【夜】

履修上の注意 /Remarks

必要があればその都度連絡する
グループ・ディスカッションIIを履修済みのこと

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

プロジェクト研究I【夜】

担当者名 /Instructor 吉浦 初音 / マネジメント研究科 専門職学位課程

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	理論知識		
	実践知識	○	研究成果のイメージを具体的に提示し、研究目的と背景を的確に説明する力を身につける。
技能	分析解決技能	◎	研究テーマに応じて先行研究や文献調査を適切に行う力を身につける。
	実務技能		
	新規事業技能		
態度	倫理観態度		
	企業変革態度		
	地域リーダー態度		
	国際協調態度		

※ ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

※ 2013年度以降入学生が対象です。

プロジェクト研究 I

授業の概要 /Course Description

プロジェクト研究Iにおいては、各自の研究テーマに応じて先行研究や理論に関する文献調査を十分に行ったうえで、分析のフレームワークの検討を行う。また、必要に応じて統計調査、アンケート調査、ヒアリング調査などを実施したうえで、プロジェクト研究骨子を成果物として完成させる。

なお、プロジェクト研究の指導の中心は、原則的に学生の意思に基づいた専任教員等（主指導教員）1名があたる。ただし、学生が幅広い視点から問題探究を行なえるように、副指導教員の指導を適宜受けられる体制とする。副指導教員は専任教員及び特任教員の中から主指導教員と学生の相談した上で、マネジメント研究科委員会で決定する。

教科書 /Textbooks

初回時に指示する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

初回時に指示する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ① イン트로ダクション
【グループ・ディスカッションI、IIの成果物の問題点、改善点の整理】、【スケジュールの確認】
- ②～③ 研究テーマの検討・決定
【現実的な課題に沿った検討・ディスカッション】
- ④～⑤ 文献調査に基づいた検討
【先行研究】、【理論】
- ⑥～⑦ 研究方法、推進体制、仮設の検討
【分析のフレームワーク】、【仮説の設定】
- ⑧～⑩ 調査研究の実施と報告（進捗状況の管理）
【質疑応答】、【討議を繰り返す】
- ⑪～⑬ プロジェクト研究骨子の作成と検討
【質疑応答】、【討議を繰り返す】
- ⑭ プロジェクト研究骨子の完成
【主指導教員への報告】

成績評価の方法 /Assessment Method

研究の姿勢（40%）と成果物であるプロジェクト研究骨子（60%）によって総合的に評価する

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

プロジェクト研究I 【夜】

履修上の注意 /Remarks

必要があればその都度連絡する
グループ・ディスカッションIIを履修済みのこと

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

プロジェクト研究II 【夜】

担当者名 /Instructor 王 効平 / Xiao-ping Wang / マネジメント研究科 専門職学位課程

履修年次 /Year 2年次
 単位 /Credits 2単位
 学期 /Semester 2学期
 授業形態 /Class Format 演習
 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	理論知識	
	実践知識	○ 重要性の高い問題を設定し、適切な文献調査・データ収集を行う力を身につける。
技能	分析解決技能	◎ テーマに沿った適切な実証・論証を行い、説得力のある説明をする力を身につける。
	実務技能	
	新規事業技能	
態度	倫理観態度	
	企業変革態度	
	地域リーダー態度	
	国際協調態度	

※ ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

※ 2013年度以降入学生が対象です。

プロジェクト研究II

授業の概要 /Course Description

プロジェクト研究IIにおいては、プロジェクト研究Iの成果物であるプロジェクト研究骨子に基づき、一定水準の品質が確保されたプロジェクト研究報告書（研究レポートまたは論文）の完成を目指す。

各自による各種調査（統計調査、文献調査、アンケート調査、ヒアリング調査、フィールドワーク等）結果や分析結果について、主指導教員等とのディスカッションを重ねながら、プロジェクト研究報告書（研究レポートまたは論文）を作成する。そのうえで、仮設の設定や分析フレームワークなどは適宜見直しを図る。

教科書 /Textbooks

初回時に指示する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

初回時に指示する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ① イントロダクション
【プロジェクト研究骨子の問題点、改善点の整理】、【スケジュールの確認】
- ②～④ リサーチ・クエスチョン（研究課題）の再検討（問題意識の再確認）
【先行研究や理論】、【分析のフレームワーク】、【仮説の設定】
- ⑤～⑭ 調査研究の実施と報告（進捗状況の管理）
【質疑応答】、【討議を繰り返す】
- ⑮ プロジェクト研究報告書の完成
【主指導教員への報告】

* 口頭審査は別途行うものとする

成績評価の方法 /Assessment Method

研究の姿勢（40%）と成果物であるプロジェクト研究報告書（60%）によって総合的に評価する

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

必要があればその都度連絡する
 プロジェクト研究Iを履修済みのこと

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

プロジェクト研究II 【夜】

キーワード /Keywords

プロジェクト研究II【夜】

担当者名 森永 泰正 / マネジメント研究科 専門職学位課程
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	理論知識	
	実践知識	○ 重要性の高い問題を設定し、適切な文献調査・データ収集を行う力を身につける。
技能	分析解決技能	◎ テーマに沿った適切な実証・論証を行い、説得力のある説明をする力を身につける。
	実務技能	
	新規事業技能	
態度	倫理観態度	
	企業変革態度	
	地域リーダー態度	
	国際協調態度	

※ ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

※ 2013年度以降入学生が対象です。

プロジェクト研究II

授業の概要 /Course Description

プロジェクト研究IIにおいては、プロジェクト研究Iの成果物であるプロジェクト研究骨子に基づき、一定水準の品質が確保されたプロジェクト研究報告書（研究レポートまたは論文）の完成を目指す。

各自による各種調査（統計調査、文献調査、アンケート調査、ヒアリング調査、フィールドワーク等）結果や分析結果について、主指導教員等とのディスカッションを重ねながら、プロジェクト研究報告書（研究レポートまたは論文）を作成する。そのうえで、仮設の設定や分析フレームワークなどは適宜見直しを図る。

教科書 /Textbooks

初回時に指示する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

初回時に指示する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ① イントロダクション
【プロジェクト研究骨子の問題点、改善点の整理】、【スケジュールの確認】
- ②～④ リサーチ・クエスチョン（研究課題）の再検討（問題意識の再確認）
【先行研究や理論】、【分析のフレームワーク】、【仮説の設定】
- ⑤～⑭ 調査研究の実施と報告（進捗状況の管理）
【質疑応答】、【討議を繰り返す】
- ⑮ プロジェクト研究報告書の完成
【主指導教員への報告】

* 口頭審査は別途行うものとする

成績評価の方法 /Assessment Method

研究の姿勢（40%）と成果物であるプロジェクト研究報告書（60%）によって総合的に評価する

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

必要があればその都度連絡する
プロジェクト研究Iを履修済みのこと

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

プロジェクト研究II 【夜】

キーワード /Keywords

プロジェクト研究II【夜】

担当者名 /Instructor 山口 徹也 / マネジメント研究科 専門職学位課程

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	理論知識	
	実践知識	○ 重要性の高い問題を設定し、適切な文献調査・データ収集を行う力を身につける。
技能	分析解決技能	◎ テーマに沿った適切な実証・論証を行い、説得力のある説明をする力を身につける。
	実務技能	
	新規事業技能	
態度	倫理観態度	
	企業変革態度	
	地域リーダー態度	
	国際協調態度	

※ ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

※ 2013年度以降入学生が対象です。

プロジェクト研究II

授業の概要 /Course Description

プロジェクト研究IIにおいては、プロジェクト研究Iの成果物であるプロジェクト研究骨子に基づき、一定水準の品質が確保されたプロジェクト研究報告書（研究レポートまたは論文）の完成を目指す。

各自による各種調査（統計調査、文献調査、アンケート調査、ヒアリング調査、フィールドワーク等）結果や分析結果について、主指導教員等とのディスカッションを重ねながら、プロジェクト研究報告書（研究レポートまたは論文）を作成する。そのうえで、仮設の設定や分析フレームワークなどは適宜見直しを図る。

教科書 /Textbooks

初回時に指示する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

初回時に指示する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ① イントロダクション
【プロジェクト研究骨子の問題点、改善点の整理】、【スケジュールの確認】
- ②～④ リサーチ・クエスチョン（研究課題）の再検討（問題意識の再確認）
【先行研究や理論】、【分析のフレームワーク】、【仮説の設定】
- ⑤～⑭ 調査研究の実施と報告（進捗状況の管理）
【質疑応答】、【討議を繰り返す】
- ⑮ プロジェクト研究報告書の完成
【主指導教員への報告】

* 口頭審査は別途行うものとする

成績評価の方法 /Assessment Method

研究の姿勢（40%）と成果物であるプロジェクト研究報告書（60%）によって総合的に評価する

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

必要があればその都度連絡する
プロジェクト研究Iを履修済みのこと

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

プロジェクト研究II 【夜】

キーワード /Keywords

プロジェクト研究II【夜】

担当者名 鳥取部 真己 / マネジメント研究科 専門職学位課程
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	理論知識	
	実践知識	○ 重要性の高い問題を設定し、適切な文献調査・データ収集を行う力を身につける。
技能	分析解決技能	◎ テーマに沿った適切な実証・論証を行い、説得力のある説明をする力を身につける。
	実務技能	
	新規事業技能	
態度	倫理観態度	
	企業変革態度	
	地域リーダー態度	
	国際協調態度	

※ ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

※ 2013年度以降入学生が対象です。

プロジェクト研究II

授業の概要 /Course Description

プロジェクト研究IIにおいては、プロジェクト研究Iの成果物であるプロジェクト研究骨子に基づき、一定水準の品質が確保されたプロジェクト研究報告書（研究レポートまたは論文）の完成を目指す。
各自による各種調査（統計調査、文献調査、アンケート調査、ヒアリング調査、フィールドワーク等）結果や分析結果について、主指導教員等とのディスカッションを重ねながら、プロジェクト研究報告書（研究レポートまたは論文）を作成する。そのうえで、仮設の設定や分析フレームワークなどは適宜見直しを図る。

教科書 /Textbooks

初回時に指示する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

初回時に指示する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ① イントロダクション
【プロジェクト研究骨子の問題点、改善点の整理】、【スケジュールの確認】
- ②～④ リサーチ・クエスチョン（研究課題）の再検討（問題意識の再確認）
【先行研究や理論】、【分析のフレームワーク】、【仮説の設定】
- ⑤～⑭ 調査研究の実施と報告（進捗状況の管理）
【質疑応答】、【討議を繰り返す】
- ⑮ プロジェクト研究報告書の完成
【主指導教員への報告】

* 口頭審査は別途行うものとする

成績評価の方法 /Assessment Method

研究の姿勢（40%）と成果物であるプロジェクト研究報告書（60%）によって総合的に評価する

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

必要があればその都度連絡する
プロジェクト研究Iを履修済みのこと

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

プロジェクト研究II 【夜】

キーワード /Keywords

プロジェクト研究II【夜】

担当者名 /Instructor 城戸 宏史 / K I D O H I R O S H I / マネジメント研究科 専門職学位課程

履修年次 /Year 2年次 /Credits 2単位 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	理論知識	
	実践知識	○ 重要性の高い問題を設定し、適切な文献調査・データ収集を行う力を身につける。
技能	分析解決技能	◎ テーマに沿った適切な実証・論証を行い、説得力のある説明をする力を身につける。
	実務技能	
	新規事業技能	
態度	倫理観態度	
	企業変革態度	
	地域リーダー態度	
	国際協調態度	

※ ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

※ 2013年度以降入学生が対象です。

プロジェクト研究II

授業の概要 /Course Description

プロジェクト研究IIにおいては、プロジェクト研究Iの成果物であるプロジェクト研究骨子に基づき、一定水準の品質が確保されたプロジェクト研究報告書（研究レポートまたは論文）の完成を目指す。

各自による各種調査（統計調査、文献調査、アンケート調査、ヒアリング調査、フィールドワーク等）結果や分析結果について、主指導教員等とのディスカッションを重ねながら、プロジェクト研究報告書（研究レポートまたは論文）を作成する。そのうえで、仮設の設定や分析フレームワークなどは適宜見直しを図る。

教科書 /Textbooks

初回時に指示する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

初回時に指示する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ① イントロダクション
【プロジェクト研究骨子の問題点、改善点の整理】、【スケジュールの確認】
- ②～④ リサーチ・クエスチョン（研究課題）の再検討（問題意識の再確認）
【先行研究や理論】、【分析のフレームワーク】、【仮説の設定】
- ⑤～⑭ 調査研究の実施と報告（進捗状況の管理）
【質疑応答】、【討議を繰り返す】
- ⑮ プロジェクト研究報告書の完成
【主指導教員への報告】

* 口頭審査は別途行うものとする

成績評価の方法 /Assessment Method

研究の姿勢（40%）と成果物であるプロジェクト研究報告書（60%）によって総合的に評価する

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

必要があればその都度連絡する
プロジェクト研究Iを履修済みのこと

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

プロジェクト研究II 【夜】

キーワード /Keywords

プロジェクト研究II【夜】

担当者名 越出 均 / マネジメント研究科 専門職学位課程
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	理論知識	
	実践知識	○ 重要性の高い問題を設定し、適切な文献調査・データ収集を行う力を身につける。
技能	分析解決技能	◎ テーマに沿った適切な実証・論証を行い、説得力のある説明をする力を身につける。
	実務技能	
	新規事業技能	
態度	倫理観態度	
	企業変革態度	
	地域リーダー態度	
	国際協調態度	

※ ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

※ 2013年度以降入学生が対象です。

プロジェクト研究II

授業の概要 /Course Description

プロジェクト研究IIにおいては、プロジェクト研究Iの成果物であるプロジェクト研究骨子に基づき、一定水準の品質が確保されたプロジェクト研究報告書（研究レポートまたは論文）の完成を目指す。

各自による各種調査（統計調査、文献調査、アンケート調査、ヒアリング調査、フィールドワーク等）結果や分析結果について、主指導教員等とのディスカッションを重ねながら、プロジェクト研究報告書（研究レポートまたは論文）を作成する。そのうえで、仮設の設定や分析フレームワークなどは適宜見直しを図る。

教科書 /Textbooks

初回時に指示する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

初回時に指示する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ① イントロダクション
【プロジェクト研究骨子の問題点、改善点の整理】、【スケジュールの確認】
- ②～④ リサーチ・クエスチョン（研究課題）の再検討（問題意識の再確認）
【先行研究や理論】、【分析のフレームワーク】、【仮説の設定】
- ⑤～⑭ 調査研究の実施と報告（進捗状況の管理）
【質疑応答】、【討議を繰り返す】
- ⑮ プロジェクト研究報告書の完成
【主指導教員への報告】

* 口頭審査は別途行うものとする

成績評価の方法 /Assessment Method

研究の姿勢（40%）と成果物であるプロジェクト研究報告書（60%）によって総合的に評価する

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

必要があればその都度連絡する
プロジェクト研究Iを履修済みのこと

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

プロジェクト研究II 【夜】

キーワード /Keywords

プロジェクト研究II【夜】

担当者名 高橋 秀直 / マネジメント研究科 専門職学位課程
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	理論知識	
	実践知識	○ 重要性の高い問題を設定し、適切な文献調査・データ収集を行う力を身につける。
技能	分析解決技能	◎ テーマに沿った適切な実証・論証を行い、説得力のある説明をする力を身につける。
	実務技能	
	新規事業技能	
態度	倫理観態度	
	企業変革態度	
	地域リーダー態度	
	国際協調態度	

※ ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

※ 2013年度以降入学生が対象です。

プロジェクト研究II

授業の概要 /Course Description

プロジェクト研究IIにおいては、プロジェクト研究Iの成果物であるプロジェクト研究骨子に基づき、一定水準の品質が確保されたプロジェクト研究報告書（研究レポートまたは論文）の完成を目指す。

各自による各種調査（統計調査、文献調査、アンケート調査、ヒアリング調査、フィールドワーク等）結果や分析結果について、主指導教員等とのディスカッションを重ねながら、プロジェクト研究報告書（研究レポートまたは論文）を作成する。そのうえで、仮設の設定や分析フレームワークなどは適宜見直しを図る。

教科書 /Textbooks

初回時に指示する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

初回時に指示する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ① イントロダクション
【プロジェクト研究骨子の問題点、改善点の整理】、【スケジュールの確認】
- ②～④ リサーチ・クエスチョン（研究課題）の再検討（問題意識の再確認）
【先行研究や理論】、【分析のフレームワーク】、【仮説の設定】
- ⑤～⑭ 調査研究の実施と報告（進捗状況の管理）
【質疑応答】、【討議を繰り返す】
- ⑮ プロジェクト研究報告書の完成
【主指導教員への報告】

* 口頭審査は別途行うものとする

成績評価の方法 /Assessment Method

研究の姿勢（40%）と成果物であるプロジェクト研究報告書（60%）によって総合的に評価する

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

必要があればその都度連絡する
プロジェクト研究Iを履修済みのこと

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

プロジェクト研究II 【夜】

キーワード /Keywords

プロジェクト研究II【夜】

担当者名 武田 寛 / Hiroshi Takeda / マネジメント研究科 専門職学位課程
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	理論知識	
	実践知識	○ 重要性の高い問題を設定し、適切な文献調査・データ収集を行う力を身につける。
技能	分析解決技能	◎ テーマに沿った適切な実証・論証を行い、説得力のある説明をする力を身につける。
	実務技能	
	新規事業技能	
態度	倫理観態度	
	企業変革態度	
	地域リーダー態度	
	国際協調態度	

※ ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

※ 2013年度以降入学生が対象です。

プロジェクト研究II

授業の概要 /Course Description

プロジェクト研究IIにおいては、プロジェクト研究Iの成果物であるプロジェクト研究骨子に基づき、一定水準の品質が確保されたプロジェクト研究報告書（研究レポートまたは論文）の完成を目指す。

各自による各種調査（統計調査、文献調査、アンケート調査、ヒアリング調査、フィールドワーク等）結果や分析結果について、主指導教員等とのディスカッションを重ねながら、プロジェクト研究報告書（研究レポートまたは論文）を作成する。そのうえで、仮設の設定や分析フレームワークなどは適宜見直しを図る。

教科書 /Textbooks

初回時に指示する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

初回時に指示する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ① イントロダクション
【プロジェクト研究骨子の問題点、改善点の整理】、【スケジュールの確認】
- ②～④ リサーチ・クエスチョン（研究課題）の再検討（問題意識の再確認）
【先行研究や理論】、【分析のフレームワーク】、【仮説の設定】
- ⑤～⑭ 調査研究の実施と報告（進捗状況の管理）
【質疑応答】、【討議を繰り返す】
- ⑮ プロジェクト研究報告書の完成
【主指導教員への報告】

* 口頭審査は別途行うものとする

成績評価の方法 /Assessment Method

研究の姿勢（40%）と成果物であるプロジェクト研究報告書（60%）によって総合的に評価する

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

必要があればその都度連絡する
プロジェクト研究Iを履修済みのこと

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

プロジェクト研究II 【夜】

キーワード /Keywords

プロジェクト研究II【夜】

担当者名 /Instructor 永津 美裕 / NAGATU YOSHIHIRO / マネジメント研究科 専門職学位課程

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	理論知識	
	実践知識	○ 重要性の高い問題を設定し、適切な文献調査・データ収集を行う力を身につける。
技能	分析解決技能	◎ テーマに沿った適切な実証・論証を行い、説得力のある説明をする力を身につける。
	実務技能	
	新規事業技能	
態度	倫理観態度	
	企業変革態度	
	地域リーダー態度	
	国際協調態度	

※ ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

※ 2013年度以降入学生が対象です。

プロジェクト研究II

授業の概要 /Course Description

プロジェクト研究IIにおいては、プロジェクト研究Iの成果物であるプロジェクト研究骨子に基づき、一定水準の品質が確保されたプロジェクト研究報告書（研究レポートまたは論文）の完成を目指す。

各自による各種調査（統計調査、文献調査、アンケート調査、ヒアリング調査、フィールドワーク等）結果や分析結果について、主指導教員等とのディスカッションを重ねながら、プロジェクト研究報告書（研究レポートまたは論文）を作成する。そのうえで、仮設の設定や分析フレームワークなどは適宜見直しを図る。

教科書 /Textbooks

初回時に指示する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

初回時に指示する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ① イントロダクション
【プロジェクト研究骨子の問題点、改善点の整理】、【スケジュールの確認】
- ②～④ リサーチ・クエスチョン（研究課題）の再検討（問題意識の再確認）
【先行研究や理論】、【分析のフレームワーク】、【仮説の設定】
- ⑤～⑭ 調査研究の実施と報告（進捗状況の管理）
【質疑応答】、【討議を繰り返す】
- ⑮ プロジェクト研究報告書の完成
【主指導教員への報告】

* 口頭審査は別途行うものとする

成績評価の方法 /Assessment Method

研究の姿勢（40%）と成果物であるプロジェクト研究報告書（60%）によって総合的に評価する

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

必要があればその都度連絡する
プロジェクト研究Iを履修済みのこと

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

プロジェクト研究II 【夜】

キーワード /Keywords

プロジェクト研究II【夜】

担当者名 /Instructor 任 章 / NIN Akira / マネジメント研究科 専門職学位課程

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	理論知識	
	実践知識	○ 重要性の高い問題を設定し、適切な文献調査・データ収集を行う力を身につける。
技能	分析解決技能	◎ テーマに沿った適切な実証・論証を行い、説得力のある説明をする力を身につける。
	実務技能	
	新規事業技能	
態度	倫理観態度	
	企業変革態度	
	地域リーダー態度	
	国際協調態度	

※ ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

※ 2013年度以降入学生が対象です。

プロジェクト研究II

授業の概要 /Course Description

プロジェクト研究IIにおいては、プロジェクト研究Iの成果物であるプロジェクト研究骨子に基づき、一定水準の品質が確保されたプロジェクト研究報告書（研究レポートまたは論文）の完成を目指す。

各自による各種調査（統計調査、文献調査、アンケート調査、ヒアリング調査、フィールドワーク等）結果や分析結果について、主指導教員等とのディスカッションを重ねながら、プロジェクト研究報告書（研究レポートまたは論文）を作成する。そのうえで、仮設の設定や分析フレームワークなどは適宜見直しを図る。

教科書 /Textbooks

初回時に指示する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

初回時に指示する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ① イントロダクション
【プロジェクト研究骨子の問題点、改善点の整理】、【スケジュールの確認】
- ②～④ リサーチ・クエスチョン（研究課題）の再検討（問題意識の再確認）
【先行研究や理論】、【分析のフレームワーク】、【仮説の設定】
- ⑤～⑭ 調査研究の実施と報告（進捗状況の管理）
【質疑応答】、【討議を繰り返す】
- ⑮ プロジェクト研究報告書の完成
【主指導教員への報告】

* 口頭審査は別途行うものとする

成績評価の方法 /Assessment Method

研究の姿勢（40%）と成果物であるプロジェクト研究報告書（60%）によって総合的に評価する

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

必要があればその都度連絡する
プロジェクト研究Iを履修済みのこと

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

プロジェクト研究II 【夜】

キーワード /Keywords

プロジェクト研究II【夜】

担当者名 /Instructor 松永 裕己 / マネジメント研究科 専門職学位課程

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	理論知識	
	実践知識	○ 重要性の高い問題を設定し、適切な文献調査・データ収集を行う力を身につける。
技能	分析解決技能	◎ テーマに沿った適切な実証・論証を行い、説得力のある説明をする力を身につける。
	実務技能	
	新規事業技能	
態度	倫理観態度	
	企業変革態度	
	地域リーダー態度	
	国際協調態度	

※ ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

※ 2013年度以降入学生が対象です。

プロジェクト研究II

授業の概要 /Course Description

プロジェクト研究IIにおいては、プロジェクト研究Iの成果物であるプロジェクト研究骨子に基づき、一定水準の品質が確保されたプロジェクト研究報告書（研究レポートまたは論文）の完成を目指す。

各自による各種調査（統計調査、文献調査、アンケート調査、ヒアリング調査、フィールドワーク等）結果や分析結果について、主指導教員等とのディスカッションを重ねながら、プロジェクト研究報告書（研究レポートまたは論文）を作成する。そのうえで、仮設の設定や分析フレームワークなどは適宜見直しを図る。

教科書 /Textbooks

初回時に指示する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

初回時に指示する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ① イントロダクション
【プロジェクト研究骨子の問題点、改善点の整理】、【スケジュールの確認】
- ②～④ リサーチ・クエスチョン（研究課題）の再検討（問題意識の再確認）
【先行研究や理論】、【分析のフレームワーク】、【仮説の設定】
- ⑤～⑭ 調査研究の実施と報告（進捗状況の管理）
【質疑応答】、【討議を繰り返す】
- ⑮ プロジェクト研究報告書の完成
【主指導教員への報告】

* 口頭審査は別途行うものとする

成績評価の方法 /Assessment Method

研究の姿勢（40%）と成果物であるプロジェクト研究報告書（60%）によって総合的に評価する

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

必要があればその都度連絡する
プロジェクト研究Iを履修済みのこと

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

プロジェクト研究II 【夜】

キーワード /Keywords

プロジェクト研究II【夜】

担当者名 吉浦 初音 / マネジメント研究科 専門職学位課程
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	理論知識	
	実践知識	○ 重要性の高い問題を設定し、適切な文献調査・データ収集を行う力を身につける。
技能	分析解決技能	◎ テーマに沿った適切な実証・論証を行い、説得力のある説明をする力を身につける。
	実務技能	
	新規事業技能	
態度	倫理観態度	
	企業変革態度	
	地域リーダー態度	
	国際協調態度	

※ ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

※ 2013年度以降入学生が対象です。

プロジェクト研究II

授業の概要 /Course Description

プロジェクト研究IIにおいては、プロジェクト研究Iの成果物であるプロジェクト研究骨子に基づき、一定水準の品質が確保されたプロジェクト研究報告書（研究レポートまたは論文）の完成を目指す。

各自による各種調査（統計調査、文献調査、アンケート調査、ヒアリング調査、フィールドワーク等）結果や分析結果について、主指導教員等とのディスカッションを重ねながら、プロジェクト研究報告書（研究レポートまたは論文）を作成する。そのうえで、仮設の設定や分析フレームワークなどは適宜見直しを図る。

教科書 /Textbooks

初回時に指示する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

初回時に指示する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ① イントロダクション
【プロジェクト研究骨子の問題点、改善点の整理】、【スケジュールの確認】
- ②～④ リサーチ・クエスチョン（研究課題）の再検討（問題意識の再確認）
【先行研究や理論】、【分析のフレームワーク】、【仮説の設定】
- ⑤～⑭ 調査研究の実施と報告（進捗状況の管理）
【質疑応答】、【討議を繰り返す】
- ⑮ プロジェクト研究報告書の完成
【主指導教員への報告】

* 口頭審査は別途行うものとする

成績評価の方法 /Assessment Method

研究の姿勢（40%）と成果物であるプロジェクト研究報告書（60%）によって総合的に評価する

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

必要があればその都度連絡する
プロジェクト研究Iを履修済みのこと

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

プロジェクト研究II 【夜】

キーワード /Keywords